

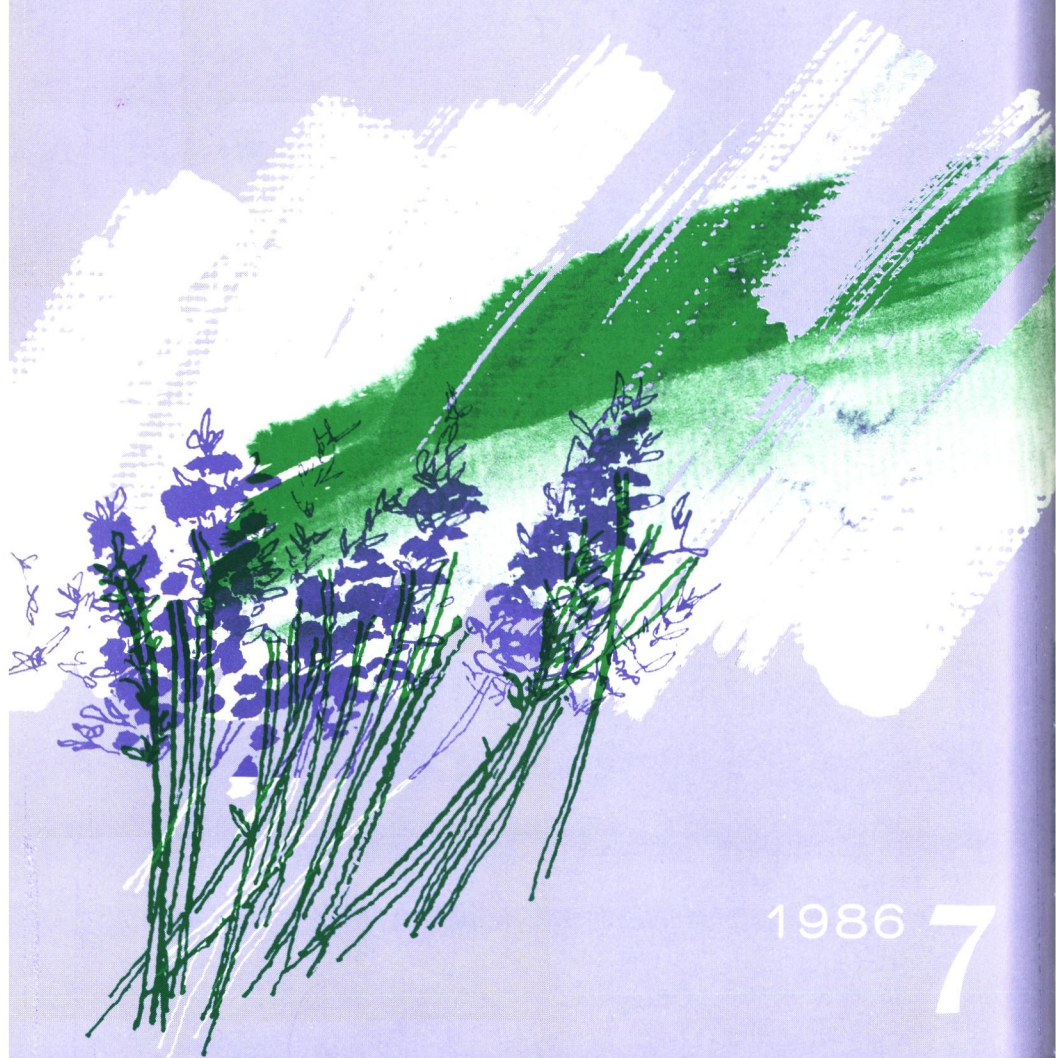
# 新しい家庭科

自立した男と女を  
人間らしい生活を  
差別のない社会を  
育み 創り出す

# we

ウ イ

## 性—小・中・高校生は何を思う？



1986 7

# 季節のうた



オゾ  
し  
風景  
1986

五年前の七月ヨーロッパに行きました。友人の車でパリからオヴェールに案内された。ここは炎の画家ヴァン・ゴッホが最後に住んだところで墓地があります。

彼晩年の傑作の数々の建物や風景が現実にあるところですが。薄暗いわびしく哀しい住んでいた室も見ました。

墓は村はずれの共同墓地の塀際に弟のテオと静かに並んでたつています。地面には二人で手を握っているように鳥が這っています。

あの狂烈な画家の地とは思えぬ静かさです。門をあけて外に出ると彼のよく描いた麦畑、畔には無数の赤いフランス語では「コフリ」ひなげしが雑草のように咲いています。静かに風にゆれ、どこかでないている鳥の声もききました。

(田沢 茂)

十七歳の幸せ

矢崎 藍

家政科で作文を出させた時、「十七歳の幸せ」という題を選んだ生徒が多かった。彼女たち一せいに「セブンティーン」と書いてくる。「セブンティーン。それは私の憧れの年だった。セブンティーンになれば、きつと私の身にすてきなことが起こる。ずっとそう思っていた。それなのに！」

どの子にも何も起こらないらしい。十六歳の時と同じ親もとと学校を往復する毎日。そして期待の「夏」も終わってしまった。

「オ氣ノ毒ニ。デモ、ヨゴザンシタ。何モ起コナナイデ何ヨリ。オホホ」

というのが先生ヅラした私の本音かなあ。でも、高校時代の私もちつとはあせつたのである。二年生の時隣の席の友人に悩みをうちあけられた。「驚かないでね」と前置きで「私、結婚申しこまれたの」ですって。「兄

の友だちで一年位つきあってたの」

誰とかさんはB組の彼と別れてD組の彼に乗りかえた。誰とかさんが三日休んだのは彼との仲を親に叱られて物置にこもってるのよ——身近な友だちが大人のドラマの主人公になつてゆく。今も昔もその他大勢は、夢だけ見てる臆病な十七歳である。

「でもね、先生」と語りかける作文があった。

「こんなに平凡な毎日ですけれど、この間の朝起きたら雨が降っていました。私はいつもは雨が嫌いなんです。それなのにその朝は庭の八つ手の葉っぱの上に雨だれがポタポタ落ちていっているのを見て、なぜだかとても幸せだったんです。」

刻一刻と過ぎる時を見つめる若い目はみずみずしい。

(作家)

逐次刊行物

昭和 61.6.21 和

国立婦人教育会館  
情報図書室



# 性一小・中・高校生は何を思う？

〈巻頭言〉 十七歳の幸せ…………… 矢崎 藍 1

アンケート・一〇〇〇人の小・中・高校生はこう思っている

…………… 編集 部 4

僕のクラスではこんな話をしているんだ…耕一、重昭、正二

何か大切なものが欠けていませんか？…………… 森本真樹子 18

変わりゆく子ども…………… 森本 邦子 22

小学校では「おしきせ、おそろいはきびし」…………… 村田 尚子 34

中学校では やってみなくてはわからない

…………… 磯部 幸江 39

高等学校では 味覚と栄養を考える―「砂糖の学習」…………… 立山ちづ子 44

高校生のころ思っていたこと、今思っていること…………… 宮子あずさ 61

どついうふうにくつつくの？…………… 大西麻里子 63

新年金法にみる優生思想―女性障害者の視点から…………… 提 愛子 66

こんな教科書検定があつてよいだろうか？…………… 村田 直文 68

あなたのまちの婦人行動計画はどうなってる？…………… 若竹キミイ 70

'86年春の公開ゼミナール 育つ・育てる・育ち合う…………… 25

○Weになんでも言おう なんでも聞こう 72 ○私からあなたに 90  
○Weの読者会だより 88 ○編集室からあなたに 33



季節のうた……………田沢 茂

研究ノート「性」 性差—女と男の違いはどこにあるのか？

……………女と男の関係を考える会・村上 昌子

教育のなかの心理学 登校拒否(1)……………小沢 牧子

教室の窓 日記、そのかがやき……………植垣 一彦

いま中学校で ノースモーキング世代作り(その二)……………仲野 暢子

読書つれづれ草 星空を窺う少年(承前)……………武田 秀夫

ワンポイント 「学制」発布と就学告諭……………秋枝 薫子

近代日本女子教育史 差別を踏みこえる力を……………吉田 和子

判冠の中に輝く星 鳥……………吉田 和子

赤かぶだより ソ連・チエルノブイリ原発事故……………羽生 槇子

季節のおべんとう がんばれ シングルマザー……………酒井 和子

経済の目 酸味ほどほど 梅ジソこはん……………小林カツ代

CMの中の女と男 生活サイドからみた経済 貿易摩擦④……………福島 澄香

いろいろな十代人 ジャーナリズムの世界に、もつと女性を……………吉田 清彦

内申と内心の因果関係……………鈴木みち子

○情報 臨教審第二次答申、家庭科の位置づけは？ 86

○波 何処へ？ 半田たつ子 84

○ひと 村田尚子さん 43

表紙デザイン 加藤由美子  
目次イラスト 馬場洋子  
本文イラスト 編集部

○今月の読書から 60 アンテナ 94 ○十字路 92  
○泉 87 ○“We” EDITOR'S NOTE 96

◆アンケート◆

一、〇〇〇人の小・中・高校生はこう思っている

編集部



もう三ヶ月も経つのにその時の驚きとほんとかしらという思いが今もあります。ある会で高校の先生から「高校生が変わった、わからない、と母校にクラブ指導にくる大学生が言うんです」と聞いた時のことです。

大学生がそうなら、いったい私たち

学校種別生徒数

学校種	学年	女	男	計	
小学校	5年	51	43	94	
	6年	86	88	174	
	(3年)	24	18	(42)	
小計		161	149	310	
中学校	2年	108	97	205	
高校	共学校	2年	224	98	322
	女子校	2年	178		178
	男子校	2年		91	91
小計		402	189	591	
合計		671	435	1106	

学校種別都道府県

小学校	北海道・千葉・埼玉 北福井・道大・大阪・奈良	
中学校	群馬・埼玉・東京・熊本	
高校	共学校	埼玉・神奈川・石川
	女子校	岩手・静岡
	男子校	東京

の年代は彼らに何を見ているのでしょうか。子供の自殺が、あまりにも多すぎます。彼らにとつてこの社会がそんなに魅力がないのか、それ以上に子供の世界が住みにくいのか。子供への疑問はいっぱいです。私自身は親として「今、性教育をしなければ」と思いつつ、その日を一日延ばしにして、

上の子はもう十八歳になりました。そのくせ、下の子たちにも変な平等観をいいわけにやっぱり何もできません。我ながら情ないことですが、この国にはこんな親が多いのではないのでしょうか。家

の中でも、街でも不本意な性情報をひっかぶらせていることを腹立たしく感じながら。

私たちが編集部は、彼らを知りたい、そうすることできつと何かできるだろうと考えました。そして二月、「性」に的を絞り、中・高校生は二年、小学生は高学年を対象に約千人に

アンケート調査を実施しました。また、お申し出があつて、少数ですが三年生にも、高学年用を実施しました。参考までに。(表参照)聞きたかつたのは、・悩みは？・相談者は？・性情報源は？どんな性意識を？・性教育は行われているかなどです。

生の声をと心がけ、数字でも表しました。アンケート慣れた彼らの声をまるごと本音ととるのも危険かも知れませんが、アンケートの結果をお読み下さい。

調査にご協力下さいました方々ありがとうございます。(中野敬子)

◎「こんなことをたずねました」◎

《小学生には》

あなたは今小学校高学年。赤ちゃんだったのはずっと昔のことだったと思うでしょうけれど、おとなになる日はあんがい近いのかも知れません。今のあなたのこと教えて下さい。

へくの中には○印をつけて下さい。

( ) には言葉を書いて下さい。

( ) ( ) 年生 (女・男)

1、あなたが生まれた時のお家で話し合うことがありますか(はい・いいえ)

2、女の人の身体の中には赤ちゃんが大切に育てられる場所と、生まれてくる時の道と、そして出口があります。そのことを知っていますか(はい・いいえ)

3、それを誰から聞きましたか(先生・お父さん・お母さん・おじいさん・おばあさん・おにいさん・おねえさん・ともだち・家族でないおとな( ) )です。また、テレビ・マンガ本・おとなの週刊誌・せん門の本

4、あなたが今一番心配していることを書いて下さい( )

5、その心配を相談する人がいますか。それは誰ですか(います・いません)( )です

《中・高校生には》

( ) ( ) の中に○印か文章で答えて下さい

(中学・高校) (女・男) 性

1、今あなたは異性のともだちがいますか

(いる・いない)

2、そのことで悩みがありますか

(ある・ない)

3、悩みのある時だれに話しますか( )

4、性に関して心配なことがあったら書いて下さい( )

5、性に関して今いちばん知りたいことを書いて下さい( )

6、性に関する知識を何から得ていますか( )

7、A子さんとB男くんは、同じクラスの高

校三年生でお互いに好意を持ってつきあっています。二人の関係をクラスではA(キス)だとか、B(ベッティング)だとか、C(セックス)だとか噂しています。

Aだしたらどう思いますか( )

Bだしたらどう思いますか( )

Cだしたらどう思いますか( )

8、A子さんは妊娠したということです。あなたが女生徒ならA子さんに、男生徒ならB男くんにどんな助言をしますか( )

9、A子さんとB男くんの両親や教師はこの二人にどう接したらよいと思いますか( )

10、性に関することで大人に言いたいことがあったら何でも書いて下さい( )

# 小学生はこう思っている

		(%)		
1		5年	6年	3年
女	90	85	92	
男	63	70	50	

1、生まれた時のことを話題にするのはどの学年も男子より女子が高率。どのグループも思っていたより高率。

2、女性の身体と妊娠のこと

2		5年	6年	3年
女	80	84	42	
男	47	76	27	

とを知っているのも同学年では女子が高率。この数で五・六年の女子には、何らかの形の性教育が行われているとみてよいでしょう。表3をご参照下さい。

4 心配ごとがあるのは

	5年	6年	3年
女	27	42	29
男	20	36	27

5 相談する人がいるのは

	5年	6年
女	35	71
男	21	48

相談する人は

	5年		6年	
	女	男	女	男
母	71	42	56	31
父	-	42	1	20
家族	5	-	8	4
先生	-	8	-	2
友だち	-	8	33	40

・いい人と結婚できるか・かみの毛、

か・だいの友達かとられそうで心配・  
いい大学に入れるか・おとなになっ  
たらどんな人になるか・中学や高校  
で友達ができるか・友達とのつきあ  
いで他の人となかよくすると友達が  
おこること・友だち・好きな人のこと

心配はほとんどありません。

5、心配ごとを相談する人は、女男とも六年  
は五年の約二倍になり「友だち」もぐんと  
増える。それは男子が高率で、女子は「家  
族」が高率。(表5参照) 五年と六年の差  
を大きく感じました。三年生は性に関わる

3 それを誰から?

	5年	6年	3年
先生	50	35	4
母	27	28	43
父	2	2	22
その他の家族	4	1	13
テレビ	2	11	8
せんもんの本	-	4	4
ともだち	10	12	-
おとなの週刊誌	-	4	-
マンガ本	-	2	-

3、それを誰から? 五・六年生の一位が「先  
生」、三年は「家族」がだんぜん多いので、  
五年生あたりで性教育が行われているよう  
です。六年生になるとマスメディアが入る。  
その他の項目は少数なので省略。

4、心配ごとがあるのは(表4参照)

〈五年女子〉

・ねこのこと、ねこをころすほけんじよがあ  
るから・どちんこの手術をする・大きい病  
気にかからないか・せいせきのこと・足の太  
さ・太いのでやせたい・自分の体の皮のこと  
・赤ちゃんがうまるときいたくないかな・  
せいかく

〈五年男子〉

・ファミコンがほしい・野球・足が悪くなっ  
ている・時々からだがいたくなる・家庭・ペ  
んきよう・ばかにされないか・自分の将来の  
こと、社会のこと

〈六年女子〉

・スキー大会・目がどんどん悪くなる・中学校  
でいじめられるかもしれない・戦争がおきた  
ら・高校を卒業したらしゅうしよく  
できるか・高校を三年で卒業できる  
か・だいの友達かとられそうで心配・

卒業式までにのびてくれないかな・せがはや  
くのびてほしい・ほそいので太るか・太って  
いる・発育がおそい・毛深い・生理の日が多  
い・生理になつたらしまつができるか・生理  
の量が不きそく・学校で生理になつたら・い  
つ生理になるか・もう12才なのに生理もな  
もなっていないのでおそいなあ・大人になっ  
ても生理にならなかつたらどうしよう・生理  
の時しんどいと思うから少し不安・子供が生  
めるか・ちゃんとした赤ちゃんがうまれるか

〈六年男子〉

・引っこし・けんこうになれるか・もうちよ  
うにかかるかもしれない・すぐはらがいたく  
なる・頭がくらくとくる・心ぞうがいたくな  
る・先生におこられること・なまははずれに  
されないか・自分が悪くなりそうだ・背がひ  
くい・太っているかな・体のせいちようがお  
そい・時々射精するコト・マスターベーション



# 中・高校生はこう思っている

1、2、異性の友達やその悩みは（表1・2参照）

異性のともだちは		(%)						
	中学校	中女	中男	高 校	共学女	女子校	共学男	男子校
いる	32.2	40.6	22.7	66.6	69.2	69.7	52.0	70.3
いない	66.3	57.4	76.3	32.3	29.0	29.2	48.0	29.7

そのことでの悩みは								
	中学校	中女	中男	高 校	共学女	女子校	共学男	男子校
ある	19.5	26.9	11.3	27.2	31.7	30.3	21.4	16.5
ない	79.0	72.1	86.6	70.3	65.2	67.4	78.6	80.2

心配なことを記入した者は								
	中学校	中女	中男	高 校	共学女	女子校	共学男	男子校
	7.4	8.1	7.2	15.7	13.6	19.3	19.4	9.9

知りたいことを記入した者は								
	中学校	中女	中男	高 校	共学女	女子校	共学男	男子校
	16.6	16.5	16.5	17.6	14.6	17.4	22.4	19.9

照

3、悩みのある時相談をするのは、中・高とも女子が多く、小学生に比べて家族が減り友達が増える。※はつきあっている相手で女子は「彼氏」、男子は「相手・恋人」と呼んでいる。その他は少数なので省略。

相談相手に選んだ者は						
	中女	中男	共学女	女子校	共学男	男子校
友達	76	56	79	71	39	27
母	4	1	4	5	-	1
父	-	2	-	-	-	-
家族	6	7	8	4	4	1
先生	4	2	-	2	-	2
※	-	-	-	2	3	1

情報源は		(複数回答)				
	中女	中男	共学女	女子校	共学男	男子校
友達	56	57	65	36	40	34
本	51	26	69	60	34	59
テレビ	19	14	18	4	7	12
先生	17	8	12	16	-	2
家族	5	1	4	-	1	-
ラジオ	2	2	-	1	1	1
※	-	-	-	3	2	-

4、心配なことは

(表4参照)

〈中学女子〉

- ・生理痛がいじょう、どっかおかしいんじゃないかな・Cのあと女の子に生理がなかったら・エイズ・時々異性がこわくなる・お月さまがこない・生理不順・性病ってこわい病気?・犯されるのはぜったいいやだ!・子供はほしいけどあれはしたくない・Cの時出血するのがこわい

〈中学男子〉

- ・いつごろからむけていくのか・インポになつたらどうするか・初体験の時相手にバカにされないか・オナニーしている時親に見つかった時、どうすればいいか・妊娠・容姿はともかく、心の魅力的な人がみあたらない、僕は一生愛しあう人に出会えないのではないかと・15才になるといのに生理がこない

〈高校女子〉

- ・SEX・好きならCまでいってもいいか・性病・彼がひつこくてこまっています・この間ア、レしたから赤ちゃんできたらどうしよう×××・にんしん・子宮外妊娠とか不妊症・ふ感しよう・性の年れいはどう考えたらいいのか・かれしができない・"NINSHIN" IMA

WATASHINO ONAKANI KODOMOZA

IMASU・ひ妊方法・男子の気持ち・Cをする  
と激痛が走るって?・時々、生理が月に二回・  
まちがったことを聞いたたりしてらんじやない  
か・突然せまられたらどういう態度をとらな  
ければならないか・男の人は同じ女の人であ  
きないのか・いつ私はパーズンをうしなうか  
・子宮ガン、乳ガン・やりすぎてここ当分お医  
者さんととめられている、もう最近じゃサイ  
ズがあわない・生理がこない・あたしはまだつ  
きあいはじめて短いから、なんとなくエッチ  
なことしそうなムードになるとちよつと不安

#### 〈高校男子〉

・避妊・心配だらけ・性病・にんしん!・本  
番で立つか・いまの彼女とできるだけ長くつ  
きあいたい・絶対調・AIDSかどい・さ  
いきん、やりちんではないかと心配・どうし  
たら女の子と友達になれるか・だれも話し合  
い手がない・男しか愛せない・みず、これ  
いにたられるのがこわい・包茎・精子はい  
つなくなるのか・初体験が心配・いつすてら  
れるか・まだ、むけてない!

#### 5、知りたいナ

(7頁の表5参照)

#### 〈中学女子〉

・男はなんでオナニーをしないと病気になる

のか・男は誰でもオナニーするのか・なぜ男  
性は好きでもない人に欲情が持てるのか・男  
の子のからだのしくみ・妊娠・男子はどうい  
うふうに考えているのか・女性のマスターペ  
ーションはあるのか?・あるならどんなこと  
をするのか・ひ妊・男女の関係・スキンの使  
い方・女性と男性では体とか、社会とかにつ  
いてどんなことが不利か、有利か・心

#### 〈中学男子〉

・体(女)・異性の全て・テクニック・SEX  
Xのやり方・心・性感帯・ソープランド他遊  
び・動物は本能で性交するのだから、人間も  
本能でできるはずなのに、僕は知識がなかつ  
たらやる事ができないだろう・大人から見  
たA、B、C

#### 〈高校女子〉

・正確なことを知りたい・どのくらいの年  
どのくらいの人がもう経験済みか(A、B、  
C、Dとか)・初体験はいつか・ほとんど知っ  
ている・子供を下ろしたら自分の体はどうな  
るのか・SEXって本当はどういうこと?

・子供ができて産む気になった時どーすれば  
いいのか・妊娠・高校の時からの性の中で深  
くはいり込むのはよくないことですか・正確  
な避妊知識・中絶・赤ちゃんを生むときどれ

くらい苦しいか・どうして出産時に男性と女  
性とか存在するのか・相手がどうすれば満足  
してくれるか・SEX(フェラチオ)・かん  
じりたい、69・性病の症状・性交しないと  
子供ができないことが不思議・性とはどこか  
らどこまで・生理・男の人の女の人に対する  
性的考え・もちろんアレのいろいろなやり方  
だってテクニシャンになりたいもん・パイプ  
カット・中絶にいくら位お金が必要?・妊娠  
してもすぐわかる方法・男性と女性の心理の  
違い(例、目があったとき、手をつないだど  
き、二人でおはなししているとき……)・自  
分と同じ年頃の子がどこまで知ってるか

#### 〈高校男子〉

・子供ってどうしたらできるの・性病・手  
で完全なひにん法・異性のいけばん興奮度が  
高い所ジョージ・SEX・女性のすべて・テ  
クニック・やっぱ構造・SM・手にとりた  
い・あれ・なぜ性は2つに分かれているか・  
処女と童貞がSEXしたら・男性の平均初体  
験年齢・体位・実践テク・女性の心

#### 6、性の情報源は

(7頁表6参照)

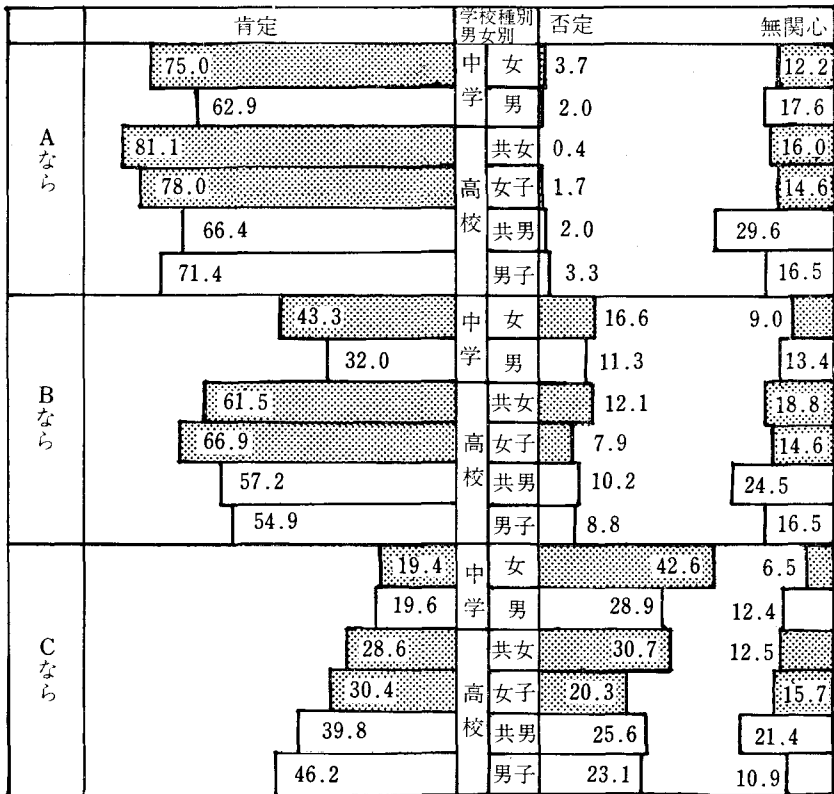
「友達」「本」の割合が大きい。「本」は教科  
書・マンガ・週刊誌・エロ本その他の本を含  
む。※印は3に同じ。その他は省略。

7、A—あたりまえ B—うわーって感じ  
C—すっごいって感じ と女子高校生

中・高校生の性意識を、抽象論や一般論でなく、本音でひき出すために苦心しました。互いに好意を持ってつきあっているA子さんとB男くんという高校三年生を、クラスの人たちが、Aとか、Bとか、Cとか噂しているが、その通りだったらあなたはどう思うか、という問いで答えてもらいました。

図にみるように、A（キス）に関しては、「愛しているならそのくらい当然」と、女・男、中・高を問わず許容度が高いのですが、B（ベッティング）C（性交）を肯定する人は、中学生では著しく減ります。高校生は、Bはまあまあとして、Cになると減少。特に女子はぐんと減っています。ただ、共学校よりも男子校・女子校のほうが肯定する人が多いのです。このことは「すすみすぎ」「いやな感じ」と、否定的にとらえている人のほうを見て、同じ傾向がうかがえます。

また「別に」「他人のことだから関係ない」というような人を「無関心」としてまとめましたが、この答え方をする人は、共学高校の男子に多く見られました。



女子 男子

肯定・否定・無関心に入りきらないニュアンスの答えも多かったのですが、多岐にわたるので、集計では省きました。肯定・否定・無関心を足しても百にならないのはそのためです。なお、中学生・高校生をまるごと感じとっていただくために、学校種別、男女別に何人かずつ紹介します。ことばの間に〓をはさんで、A・B・Cを判別できるようにしました。

#### 〈中学女子〉

- ・高3でもうすぐ社会にでるんだから、Aは別にどーでもいいと思う〓二人が好意以上に思うのだったら（愛してる）といえるなら、やはり、もうすぐ大人の人たちならばいいんじゃないかな？〓いくら高3でも少しすすみすぎじゃないでしょうか、高校を卒業するまでがまんするべきだと思います
- ・別に……高3ならおかしくないんじゃない？〓きもわるい〓ばかじゃん……妊娠したらどーすんだよお……
- ・とーぜん〓とーぜん〓とーぜん
- ・別に何とも思わない。恋人だったらあたりまえなのは……〓右に同じ〓男と女がいたらしたいかしたくないかのどちらかだと

思う。本当に好きだったらドジふまなきやいいんじゃない？ 遊びだったらゆるせない。パーズンっていうのは大切なんだぞ、自分の恋人が初めてだったらうれしいだろうし真剣ならいいんでない？

#### 〈中学男子〉

- ・あたりまえ〓すごいいたいへんすごい
- ・やるなあ〓ほんとかな〓声もでない
- ・まあまああんまり危険じゃないと思う〓やりすぎかな〓ぜったいだめ
- ・まだまだケツが青い！〓もうちよいこんどはがんばろう！〓危い！！ よくやったぞ！！
- ・無理強いをしないようにと思う〓これが一番安全で一番ここで止めるのがいいと思う。もし二人が愛し合っているなら男の方がガマンできない場合は用具を用いて次の「C」に行ってもいいと思う〓非妊用具をば別に問題はないと思う
- ・べつにいいと思う〓まあまあゆるせる〓ちよつとまずいと思う
- ・ぼくも異性のともだちをもっているからAぐらいはやりたい〓体をゆるしてくれたらBまでいってもよい〓まだ早いように思うでもやってみたい

#### 〈共学校女子〉

- ・お互いに好意をもってればこんなのふつうだ〓2人の問題だから別にいいと思う、やりすぎはよくないワ〓もう少し時期をまてないかと思う、やってしまった女はばかだ
- ・「ふーん」という感じ、変だとかいやらしいとか思わない〓ここまでならいいと思う「えく〓」という感じ、信じられない、私にはできない、したくない〓目が飛び出るほどびっくりする、高3では早すぎると思う、でも本当に愛し合っているのならいいかもしれない
- ・問題ないと思う〓少しきたないイメージをいだいてしまう。でも好きならいいようにも思う〓真剣なのかどうか疑問をもつ、もし軽い気持だったら何かあって傷つくのは絶対女性の方だから
- ・別に2人の問題だから関係ない、次はどこまで？ とわくわくする〓2人が好きでやってくるんだから、何とも思わない〓多少おどろくだろうけどこういうのは第3者が口出しする問題ではない

#### 〈女子高校〉

- ・いいんじゃないですか〓よろしいんじゃないですか〓結構だと思います

・ふーん、あらそう。ふーん、ほんと。えっ  
ほんとに。

・「MADA SOREKURAI?」 TO OMOU 〓  
FUTSU DATO OMOU 〓 SEISHI O CH-  
OKUSETSU IRETE NINSHIN SURE-  
BA ITO OMOU

・いいんじゃないですか。私が干渉するよう  
なことじゃないと思う。自分達で考えるべ  
きだ。

・自然でいいと思います。お互いに好意を持っ  
ているのならいいと思います。しっかりと  
妊娠などをしていれればいいと思います。(別  
に2人のことをうわさしたってどうしよ  
うもないと思う。このクラスの人たちバカみ  
たい)

・べつにふつうだと思ふ。これもふつうだと  
思う。女の子は16、17の間に処女をすてる  
のがちょうどいい。小森和子がいい。べつ  
に、べつにいいと思ふ。

・べつにいいと思ふ。この先はやめた方がいい  
と思ふ。軽い人間だと思ふ。

・ふつうだと思ふ。ふつうだと思ふ。危険日  
以外ならいいと思ふ、そんなにおどろきは  
しない、ふーんというような気持ち!

〈共学高校男子〉

・なまいきだ。かかってにしてくれ。水子のた  
りに気をつけろ。

・じよのくち。これからスケベ

・いいんじゃないの。ぐち。ごろう。いいんじゃないの。むらまご。やっちゃえやっちゃえのきだ。みち。

・人のことだから気にならない。ラッキー。ピンポン。ピンポン。ハワイ旅行。

・きれいな関係であり、お互いの気持ちの同意があつたからできたのであるから、それはそれで青春の一ページとしてよいことだ

・と思う。私はうらやましく思うし、それもお互いの同意でそうなつたのはまったく当然であり、悪いとは思わない。恋人どうし  
でAもしないでいるのは、お互いの絆にな  
んらかの不安がうまれる。だからその人同  
士でやることはお互いの絆(愛)を深めるこ  
とになり、すばらしいことであると思ふ。

・しかし、高校3年でこういうことをやって  
いると大学が危ない。みたいな気がする。尊  
敬してしまふ、でも子供ができないように  
してほしい。

・べつになにもおもわない。人のことだから  
別にかんけない。人のことだから別にか  
んけない、おろすときカンパしてやんな

い

・やってみたい。してみたい。ねてみたい  
。ばかみて。あほみて。たいへんよ。こ  
とだと思ひます。

〈男子高校〉

・普通。普通。妊娠させなければいい

・他人のことです。他人のことです。ね、かっ  
てにどうぞ。うらやましいですね、ただで  
やれるなんて

・いいんじゃないと思ふ。いいなと思ふ。や  
りてえと思ふ。

・別に大したことない。普通。高3ならそん  
なものだろう、別にやりたきやればい  
い。まあ。前(仲の良い証拠)。ちよつとふ  
ざけがすんだ感じ。いきすぎ

・ほほえましい。うらやましい。にくたらし  
い

・当然。まあ。まあ。いけな

・おかしくない。変。変

・おどろく。さらに。おどろく。ノーコメント  
。別に愛しあつていながら。これぐらいなら  
いいと思ふ。少し不安になるが、程度によ  
ります。が。それほど。なければいいと思ふ。  
私はあまりよくないことだと思ひます。少  
し人間性をうたがう

8、A子さんが妊娠。あなたならどんな助言をしますか？

回答を大きく「産んでほしい」「おろしなさい」に分けると、「産んで」は中学女24.5%、中学男14.1、高校女13.5、高校男12.7が願ひ、「おろせ」は高校女10.3、高校男8.5、中学女5.7、中学男4.0。次に多いのが「責任をとれ」「自分たちで話し合つて」。どんな責任のとり方かは書いていないが、「責任」は男子に多く(中10.1、高11.1)、「話し合い」は女子に多い(中15.1、高13.3)。又

「親に相談」は低率ながら男子よりも女子(中6.6、高4.3)に目立つ。「助言しない」は高校男11.1、中学男10.1、高校女6.5、中学女5.7。その他は「がんばつてね」「話を聞く」「おめでどう」「気にすることはない」「避妊用具を使わなかつたのか」「カンパしてあげるな」などいろいろで、高校男34.4、中学男27.3、高校女24.0、中学女20.8を占める。

「わからない」は中学男18.2、中学女9.4、高校男5.3、高校女4.0。「無回答」高校女6.5、中学男6.1、中学女3.8、高校3.7。  
産んでほしい

〈中学〉

・子供をうんで子供がいらない(ほしがつてい

る)家族に養女に出すか自分の力で育てるかにした方がいいと思う。でもA子さんに直接は何もいえないんじゃないかなあ(女)  
・子を育てることができたら、なにも悪いことではない。また、誤つて(コンドームの使用に失敗したとか)やつたのでも、しっかりと子を育ててはならない(男)

〈高校〉

・妊娠してしまったのなら、もう二人は高校三年生なのだし、卒業して、結婚して、子供を産んでもいいと思います。中絶をしつたりしたら、A子さんが傷つくだけだと思ひし……私だったらA子さんに卒業して結婚するように助言すると思います(女)  
・経済的に精神的にムリがないなら生みなさい！ そのかわり生んでからダメもう育てる自信がないなんて言つたらゆるさない(女)って言う

・17才以上の妊娠は体にも悪くないし、早いうちに子をつくつてそだてることはいい人材を育てることにつながる。世界のためだ立派な父になつて下さい(男子校)  
・元気な子を産んで立派な子を育てろよ(男)  
産んでほしい、だけど

〈高校〉

・自分で育てることができると思ふのなら産んだほうがいい、中絶はあとをひくし、二人の子を殺したことになるのだから。でも無理ならばしようがないなあ(女)  
責任をとれ

〈中学〉

・責任をとりなさいと一言(女)  
・最後まで責任をもてよ(男)

〈高校〉

・二人でしたことだから二人で考えて責任をとれ(助けを求めたら、場合によつて協力する)  
・けじめはつける(女子校)  
・自分たちで話し合つて(男子校)

〈中学〉

・二人でよく相談してみるように助言したいが、なるべく、まちがった方をえらばせなようにしたい(女)  
・二人でよく話し合つて、わかれることがないように(本当に好きであれば)(男)  
〈高校〉  
・過去のことは取り返しがつかないんだから今後のことを二人で話し合つた方がいいんじゃないのか(女)  
・それは最終的には自分が決める事だからど

うのこの言わないけれど、赤ちゃんに対して一番いい方法をとってほしい (女)

・二人の問題であるから、どうこう言わずに見守りたいと思う (男)

親に相談して

〈中学〉

・親にきちんと話して、自分たちの責任なんだから二人でよく話し合う (女)

〈高校〉

・とにかく親だけには言うように！ 個人的な意見だと産んでほしい！ 高校は今やめでも少ししたら定時制の学校にも行けると思うから……命を無駄にはいけない！ 子供に罪はないのだから…… (女)

・やっぱり両親に相談して、よう親と話し合、本人の意見も入れて一番正しい方法をとる (男)

おろしなさい

〈中学〉

・子供を育てるのは大変だし無理だから生まない方がいいよ (女)

・お母さんとか、お父さんに相談して子供をおろすべきだと思うよ！ (男)

〈高校〉

・今、二人は高校生で経済力もないのに子供

を産んでしまふべきではないと思う。まるで子供が子供を産むような感じで、将来必ず幸せになれるとは思いません。かえって若いうちから育児をしていて、お互いがつかれてしまつて不幸な結果になる割り合の方が大きいと思います (女)

・高校生だから学校をやめない限り生む事はできないから中絶するようにすすめる (女)

一言、おろしなさい (女子校)

・半分ずつでも二人で金を出しておろすか、親に言つて金を出してもらうか、どちらにしてもおろした方がいい (男)

・子供のためにも、生まれてこない方がいいんじゃないの、しっかりひ任しとければよかったのに (男子校)

おろしたほうがいいと思うけど……

〈高校〉

・Aさんが生みたいと言つたら相手の人の事や親の事、お金が援助されるかどうか聞いてみて、どれかひとつでも無理な事があったらおろした方がいいと言うかもしれない。いくら互いに愛しあつていたとしてもやっぱりお金は必要だし、まわりの人たちの目は厳しいから本当に大丈夫だという事がわかれば私は何も言わないと思う (女)

・今は学生だからおろさせるべきだと言う。でも退学になつてもいいということであれば、本当に愛しているのなら、別に何も言いません (男)

なら産みなさい、ならおろしなさい

〈中学〉

・これから二人が生活できるというなら両親から許しをえて結婚した方がいい。できないのなら子供は産まない方がいい (女)

〈高校〉

・ただの遊びなら中絶した方がいいけど、まじめなら二人と二人の両親とで話し合つて決めたら (女)

・みんながよろこんで生みなさいというならいいと思うけど、もしも……本人だけで生みたがつてるならおろすべきだと思う……だつてねー、よろこばれて生まれてきた方がだれでもいいとおもうもん (女)

・もしB男くんが、大学へ行かずに就職する気持があり、Aさんと結婚する自信なら両親や教師に話を話して生むことを許してもらおう。もしAさんと結婚する自信がなければ、経済的自立も考えていないのなら、Aさんに納得してもらい、然るべき所で、子供をおろしてもらおうように助言する (男)

♀、両親や教師は、この2人にどのように接したらよいか

「あなたかく見守ってあげて」「相談にのってあげて」「あくまでも2人の問題」の三つのグループに、高校では全体の78%、中学では64%が入りました。共通して、しからないで、きつく言わない、おこらないで、など、「やさしく接して」という思いがこのグループに共通していました。ここでは、その三つのグループの中からいくつかと、そのグループに入らないものを「その他」で紹介しました。他に「わからない」との回答が、高校で7.9%、中学では18.5%ありました。

あなたかく見守ってあげて

〈中学〉

- ・もう、してしまっただから、それをみとめて、これからはたらいでいかなきゃいけないことだから、それをいろいろ助けてあげばよいと思う (女)
- ・やさしく、思いやりを持って！ 両親や先生は先輩だから(先生が結婚していて、子供がいる人に限る) (女)
- ・これまで通りに接した方がいいと思う。これまでも違う接し方をすれば、2人も肩

身の狭い思いをしなければならぬし、放っておくと非行に走ってしまうかも知れない、と思う (男)

〈高校〉

- ・おなかの中の子供のことを考えてほしい。祝福してあげる。頭ごなしに反対しない。ドラマみたくはいかないと思うけど…… (女)

無理に別れさせるのではなく、ちゃんとした性の知識を教え、明るく接すればいい、そしてこのようなことがおこらない程度のつきあいを進める。ほっておいてあげた方がいい (女)

- ・つよくしからないで、それとなくやさしくせつめいすればいいと思う (女子校)
- ・本人たちの身にねれ (女子校)
- ・2人の気持ちをちゃんと確かめて、本気だったら、その後のことかとも考えて、遊びなら別れさせる (女子校)
- ・これからのことをよく考えて、二人にいちばんよい方法をとってやること。すぐに退学処分なんてことにしないでほしい。アメリカなどを見習おう！ (女子校)
- ・いいせいに話をする (男)
- ・高校3年生といえはもう18歳で、二人とも

結婚してもよい年なのだから、相手の両親どうして話し合い、2人をけっこんさせるようにすればよい。教師も、ゆるしてやったらよい (男)

出てしまったものはしかたないから、おろすか、そだてるか、しっかりと指示し導いてやる (男)

御兩人を傷つけないように慎重に対処する。下手をすると駆け落ち、心中などをする恐れもあるので精神的苦痛を与えないように注意する (男)

- ・自分の感情とかをませず、道理に従って接したらよいと思う (男)
  - ・金八先生のとときの杉田かおると、つるみしんごのときのようにする (男)
  - ・世間ていを気にしてはいけない。あくまで2人を尊重 (男)
  - ・2人の愛をみとめ、むしろ喜ぶべきである (男)
- 相談にのってあげて
- 〈中学〉
- ・2人で決めて、決めたことについていろいろたすける (女)
  - ・相談にのり、ふかくつききゆうしない (女)



・近所の人達の目を気にせず、まず2人のことを一生懸命考えてあげる。頭から怒ったら絶対いけない。2人が傷つく。暖かく見守ってあげる (女)

・あまりしからずに、解決に最適な方法を見つけてやればよいと思います (男)

・両親や先生によく事情をはなす (男)

〈高校〉

・まず、本人同士の意志をきいて、あまり感情的に激怒したりしないで、その後の対処をみんなで話し合ったらいいと思う (女)

・しかるばかりじゃなくて、よく2人の話をきいて適切に指導する (女)

・へたにさわがずに(特にギャーギャーと一方的におこる) 2人の話をきいて、よく先輩として接したらいいと思います (女)

・あまりおこったりしないので、2人の考えをよく聞いて、これからどうしたらいいか一緒に考える。 (女子校)

・2人の意見をよく聞いて、将来の事をよく考えてアドバイスしてほしい (男)

・良き相談相手になって (男子校)

・親なら友達のように接して意見を聞いてあげてほしい (男子校)

あくまでも二人の問題

〈中学〉

・A子とB男の問題だから、あまり口出ししない方がいいと思う (女)

・おこらないで、自分たちで責任をとらせる (女)

・いままでどおりでいいと思う (女)

・普通にいつも通りにする。特別扱いをしな (男)

・だまっついていてあげる (男)

〈高校〉

・大人になる前に大人と同じことをしているだけだから、特別扱いせずに接すればよいと思う (女)

・もう結婚しても良い年なんだから、特別にかまうことはないと思う (女)

・まえと同じように。だって、へんな目でもみたらかわいそうでしょ (女子校)

・両親は、2人がもうこうなつた以上は2人にまかせて、多少のお金はかしてあげる。で (女子校)

・教師も、かげでささえてあげてほしい。でも2人は学校をやめるべきだと思う (女子校)

・そっとしておく (男)

・扁見へんけんをもたずに普通に接すればよい (男)

・なんともなかったように (男)

・2人で勝手にやらせるべきだ。責任をとるべき (男子校)

その他

〈中学〉

・産んでもいいんじゃないかなと思う。大きいつみかもしれないけど (女)

・結婚させるか、おろさせる (男)

・ちゅういをして、ふつうどりに接したらよい (男)

〈高校〉

・関係をもってしまったことについてはどうこう言う訳じゃない。ただ、自分の体のことをもう少し勉強して、もう二度とこんな (女)

思いをすることのないようにしなければいけない。2人で責任をもたなくては大きな失敗につながる。そのことをよく頭にたたきこまなくてはいけない (女)

・つめたくする (女子校)

・まず子供をどうするつもりか話し合う (女子校)

・うわさをひろめない (男)

・ぶんなぐる (男子校)

10、大人に言いたいんだ

記入率は中学男子が一番低く、共学高校女子が約半数で一番高い。大人を先輩としてよ

り、批判的に見る者が多い。

要求したい！

- ・子供は正しい知識をあまりしらないからってバカにするな。バカにするなら正しいことをちゃんとおしえろ (中男)
- ・今、りこんとかしてるカップルが多いけど子供をうんだからだと子供がかわいそーだからよく考えてほしい (中女)
- ・きせいばかりするけれども、大人のフリーSexよりも若い真剣なSexの方がどんなにすてきでしょう。自分の行動をみつめなおして下さい (共高女)
- ・GENERATION GAP 避妊をもっとおしえろ <sup>ピル</sup> <sub>を</sub> <sup>う</sup> <sup>れ</sup>！ (男子校)
- ・あんまり処女性をもとめないで (女子校)
- ・高校生はもう自分の行動に責任を持つことができるから、そんな監視しないで (女子校)
- ・男女友達ときいただけで、妊娠してるの、どうなのとかなんて、すんごくいやだと思いきめつけてさっ！ (女子校)
- ・今の若い人たちは性に関して何にも知って

いないと思う。特に男性なんて妊娠に関すること全くというほど知っていない、そういうことを子供に話してほしい (共高女)

が不純で何がよいかは大人が決めることじゃない。とにかく18才には18才の価値観があり、50才のじいさんには50才の価値観があるのだ。Be Free! (共高男)

- ・テクニクを教えろ (共高男)
- ・今の時代は性に関するじょうほうが多くみんなのこうきしんがつよくなっているのだからいけないんだというのではなく、小さい時からおしえてあげて、親と話しあえるようにしてほしい。まわりからのじょうほうのため親とは話さなく、友達になつてしまうと思うから (共高女)
- ・勝手じゃねーの (共高女)
- ・こんなところへ追いこんだのも大人のせいだからせきにんとってほしい (中女)
- ・やたらさわぎたてるけど、はっきり言ってさわがしてる本人は大人だよ、勝手じゃねーの (男子校)
- ・今の子供が早熟だとかいうけど、そうさせたのは大人なんだから (女子校)
- ・なんにも知らない子でいたかったナ(中女)
- ・大人ぶらないで下さい (男子校)
- ・大人だけ遊んでる (男子校)
- ・ばかやろー スケベは大人だ。とにかく何

- ・信じられない (共高男)
- ・よくこのごろは街の方に行ったりすると「のぞき部屋」とかあるけど、こんなところに行っている大人がいると思うとしんじられない。テレビを見ると、「よしなきい」とかへんなかおするけど、そういうんだつたら自分たちもよく考えてもらいたいと思う (中男)
- ・まちがった性知識をのつけた本をたくさん出版しないでほしい (男子校)
- ・愛人バンクやトルコ風のものを少しでも無くするよう努力してほしい (共高女)
- ・まーね (共高女)
- ・大人は、ぼくたちが性について何も知らないと思ってる (中男)
- ・かたすぎる、もつと大らかにいこうよ！ (男子校)
- ・まーね、大人なんかと関係ない (共高女)
- ・後三年もすれば大人だから、言いたいことも別にない (共高男)
- ・中3までにはキスぐらいはしたい (中女)

千人の声は実にさまざまに聞こえました。かわいい心配ごとについて顔がほころんでしまったり、これはひよつとするとSOSの信号かしら、この子を捜しに行くべきではと、思えるものまで。

性に関するたくさんの言葉を書きながら、その言葉に振り回されて、相手も見ず、自分も見ず、性<sub>II</sub>性交、テクニクの上手もつてのみ魅力的であろうとしているように見える者もいた。女子中学生が何をどんなふう知ったのか「なんにも知らない子でいたかったナ」と書いていたのが忘れられません。それぞれの子が、自分の性を心から受け入れられるような生活をしてほしい。そしてそんな社会にしていく責任を感じました。また、ちよつと気になったことは其学校男子と男子校生徒の差が大きく見えたことです。(中野)

## 小・中・高校生の声を聞いたあとで

親と子って「しかる」「しかられる」と関係なの？ とは問9の回答からの感想です。しからなくて、おこらないで、きつくいわないで……「やさしく接してあげて」という子どもたちの声が印象的でした。

「中・高校生が妊娠する」ということを、彼ら自身は、してはいけない悪いこと、しかられることと受けとめているらしいのですが、親は、体験から「事の重大さ」を知っています。いや、しらしめられたというべきでしょうか。この「事の重大さ」に我が子が直面しているということを知った時、私なら、しかるといふより、驚きおのきの、言葉を失うのではないかと思えます。とても苦しい判断をせまられるわけですから。これと同じ設問に、親や教師はどのように答えるでしょうか。

(青木)

「A子さんが妊娠。あなたはどんな助言を？」を担当。回答の分類作業には迷ってしまった。例えば「産め」「おろせ」といっても一人のニュアンスが違う。それをひとくくりしていいものか。そんな中でも、中学生は男女共に高校生より言葉が少ない。高校生の方がより身近な問題だからだろうか。又、<sub>く</sub>なら産んで、<sub>く</sub>ならおろして<sub>く</sub>と本人の気持ちにそった助言をしようとしているのが高校女子に多い。だが高校生の中でも様々。「あ、この子たちは授業で<sub>性</sub>教育<sub>を</sub>学んだな」という感触はつかめる。<sub>性</sub>に<sub>関</sub>し、一度考えた機会があると、回答にていねいさを感じる。しかし、「その他でくくつた」「やったね」「なにもしないで笑つてる」「ハッピー」ラッキー 最高などに、性意識以前に考えることがあるようだ。(馬場)

村瀬学さんは「夕焼けが美しく見えてきたのは14歳頃」だったそう。それは夕焼けを美しく感じる感じ方がこちら側にできてきたから。同様に少女が美しく見えてくるのは、相手が異性だから、美しい少女だからではなく、何かしら今までと違ったように人間のことを見つめ出してきたからだ、と。少女を少年に換えれば、私にもその時期があった。今の少年・少女も同じはず、それは今、どう認識されているのかアンケートで知りたいのはこのことだった。まとめてみて思う。性がオープンになり、若者は呪縛から解放されたようでいて、実は、彼らは素裸のまま情報<sub>の</sub>氾濫<sub>する</sub>虚空を浮遊しているのではないか。いわゆる「性教育」は、彼らの頭上を素通りしているのではないかと。

(半田)

# 僕のクラスではこんな話をしているんだ

## 耕 一

今、自分たちのクラスでどんなことが話されているのか。自分もその中にとけ込んで話していることもあるのだが、急にそう聞かれても答えにつまってしまう。しかし、こう冷静に見てみると、やはり、性について話されていることがかなり多いのではないだろうか。

例えば、教室の隅にかたまりができているなあと思つて近づいて行つてみると、中でみんなが、にやけた顔、又はうれしそうな顔をして、雑誌か何かから得た性行為などに関する知識を自慢気に話している子のまわりで、耳を傾けていることがよくある。また意味もないのに、避妊具や生理用品・性器・性行為そのものなどの言葉を、何かに結びつけて言つたりする。そし

てまわりにいる子たちも、それを聞いて変なやつだと無視するのではなくて、逆に、うれしそうな顔をして、もつとやれと言わんばかりの顔でその子の方をみる。すると、その子はまた調子にのつてそんな言葉を発し続ける。そんな悪循環が女の子たちの前、いや授業中であっても、行われることさえある。授業、特に保健体育などで性のことについて学んでいると、精子、卵子、月経や夢精などといった言葉がでてくるが、そうした言葉がでてくるたびに、にやけた顔でみんなの方を見まわし、又は、続けて声に出してそれらの言葉を繰り返して、みんなから拍手をうけるやつもいる。さらに日常のあいさつの中で、

「おめえ昨日マスターベーションしたんけ」といった話を、平気でしているののみのがせないことである。しかももつとすすんでいるクラスでは、男女入り混じる図書館でじゃんけんに負けたやつが性に関する言葉などを大声で叫ぶという遊

びさえやっている。

このように、今、僕たちのクラス、学校の中では性行為の事柄や異性の体のことについて話されていることがよくあるのだが、やはりこれらの言葉は、テレビ、ラジオ、本、雑誌などから得たものが多いのではないかと思う。本当に今はそれらの情報が多くあり、それらのことを話すのも楽しいかもしれないが、中学生として別の面でも充実した生活ができるよう心がけることができたらと、僕は思う。

## 重 昭

わがクラスでは、アメリカかみたいな、自由ほん放なクラスだ。スケベには、二つのタイプがあつて、オープンとムツツリがある。わがクラスは、前者のほうで、いやらしい言葉、放送禁止用語が、教室の静かな空気の中を飛びかっている。このいやらしい言葉だけでは、分かりにくいので、具体的な例を、あげてみることにする。

まずは、アルファベットのA—C、この3つのアルファベットをいっただけで、スケベのらく印を押されてしまうのである。とにかく失言は命取りになるのである。もつともクラス男子の九割は、自他とも認めるスケベであるが、次に性交の体位。く位など、僕の周辺には、もてもしない奴がこ

どのほか、知識に詳しいのである。これこそ、本当の宝の持ちぐされというものである。もてる、もてないということ、性に関する知識は、反比例するものであつて、これは世の中の悲しい道理である。こういう道理があるから、いつまでたつても痴漢がなくならないのである。童貞、処女という言葉も、時々聞く、自分はまだ童貞だと嘆いている男子、と思えば、自慢している男子もいる。とにかく、悲しい称号には違いない。挙げ句の果て、イヤらしい本を持ってきて、先生に押収されてしまう。これのくり返しなのである。とにかくワンパターンなのである。

また、はやっているのが、学年の女の体をみて、評価することである。A子は胸が大きいとか、B子は胸が小さいとか、専門家なみのことをいうのである。もうここまでくると、異常、もしくは変態になってしまうが、それほどあぶないクラスなのだ。

今まで書いてきたことを、授業中、もしくは休み時間の間に大声でいっているのだから、聞いているほうも、赤面してしまうのだと、思うが、僕たちマジメに向かつてスケベといった時は、即、話題に取り上げて、そいつを気がすむまでのしり、そいつを地獄のどん底へおとし入れるのである。今こうやって、性のことについて書いてみると、高度なかけひきが必要なことを、実感する。

## 正二

この作文を書くにあたって、僕は、思わず顔を赤らめてしまった。僕も、一応男だから、クラスの男子が集まって、スケベな話をしたことはある。だが、改めて考えて見ると、側で、女子が聞いていて、いやな印象を与えていたような気がする。前でも述べたように、僕達のクラスも、他のクラス同様、実に、異性の話、が好き、というよりも得意なのだ。なぜ得意かということは、ある休み時間の会話を述べればわかると思う。

いつものように、三人が話している。

「昨日、又シコップンだけ。部活つれえぞ」「おめえ、やりすぎじゃ。俺見習えや、三日間やつてねえんやぞ」「あ、そういえば、昨日のテレビ見たけ。ひっでスケベやったんやた」「おう、見たぞ。あれひっでかつたなあ……」

そんなことを話していると、側で遊んでいた二、三人の者が、話に、交わった。いっそう話が盛り上がる。

「ハハハ、おめえ、やつぱりスケベやつちや。たまには、エロ本貸せや」「わかったあ。その代わり、姉ちゃん貸せ」「あほおめえ。しゃべるな」

又、一人加わった。盛り上がる。すると、しばらく、小声

で話していた。よっぽど、人に聞かれては困ることを話しているのだろう。こんな話をよくするものだから、僕らのクラスは、男子と女子が、あまりうまくいっていない。

この会話から分かるように、スケベな話にのるのがうまいのだ。僕達は、もちろん、仕かけ人の三人組がいるからこそ、話にのれるのだが。女子は女子で、その話をぬすみ聞きして、男の悪口をいったりする。もう、彼らは慣れっ子だ。

休み時間の過ごし方で、もつとも人気があるのが読書だ。読書といっても、スケベなやつがもつてくる本を、窓ぎわでカーテンで他の人に見せないようにしてする読書だが。この時は、誰もしゃべらないが、読みおわったら、とてつもないことをいう奴がでてきて、大爆笑となる。女子は、知らんぷりである。

僕らのクラスの中にも、異性の話、に興味を示さないものがある。僕達は、彼らを、すばらしいとは思わない。中学生らしきも大切だが、異性という言葉への興味を、無理に押さえつける必要はないと思う。

だが、女子のいる前で、堂々とスケベなことをいうのも、考えさせられる。いま、休み時間の会話をとり上げてみて、本当は、いけないことを言っているのかもしれないが、こんな時期を過ぎるのも、又、大切なことのような気がする。

# 何か大切なものが欠けていませんか？

森 本 真樹子

「私、これからかわいくなれるようにがんばる」といつて、今はやりのおニャン子クラブの真似を、得意気にやり始めたのは、私のクラスの女友達の一人だった。それを見て、私は、「うわべだけかわいくたって、

中身がないんじゃないじゃないか」と思った。確かに、多かれ少なかれ、異性に良く思われたという願望は、誰の胸にもあるだろう。だが、私たちの世代はその願望に、あまりにもひたり過ぎているのではないだろうか。やせたい、バストを大きくしたい、もつとかわいくなりしたい、などなど。「こうすれば、あなただって注目の的！」という風な、情報の氾濫も、影響しているのだろう。

今、私に通っている高校の友達に、それほど性に関することを、やたらに口にするのではないが、中学の時の友達は、異常だった。男子は、授業中でさえ、いろいろな性用語を、口走っていて、「今日、俺さあ生理痛だから部活休む」などと言っては、ふざけてい

た。一方、女子は女子で、修学旅行の夜、布団の上で、ひわいな格好をして騒いでいたり、といった調子で、本当に信じられないくらい異常だった。

このような環境で過ごしてきた私自身も、やはり性に興味があり、同時に「性って一体何だろう」という疑問を持っている。学校の保健の先生は、「結婚するまでは純潔を貫くべきだ」と言っていたが、果たしてどうなのだろう。愛し合っているのなら、体を許し合ってもいいのではとも思うし、やはりそれでは無秩序だとも思うし、よくわからない。

私が、子供に性教育をする立場だったら、どう教えるだろうか。まず第一に、性とは少しもいやらしいものではないということを、理解させたい。そして、男女混合で、性をいろんな面から話し合わせたいと思う。例えば、男はなぜ、色っぽい女を見ると興奮するのかを、男の子が発表し、それを聞いた女の子がどう感じたかを発表する、といった具合に。大人たちが、そんなふうな、性教育をしていったら、私たちの性への考え方も、少しは変わるのではないだろうか。

# 変わりゆく子ども

森本邦子

昭和四十年代になつたばかりの、世はあげて高度成長に夢を托していたのどかな春。私は、三十歳になつたばかりで、三年生を受け持つ小学校の教師だつた。生れてきた赤ん坊を数日にして肺炎であつてなく亡くした私を、教室の子どもたちは、悲しみにはふれずに、賑やかに迎えてくれた。

「おいしいことしたねえ。せつかく産んだのに」「ながーい間ヤッコラサつておなかかかえたのにさ」「また、給食いっぱい食べて産めばいい」「この次にはふたごを産めばとりもどせるじゃないか」と残念がつたり、励ましたりしてくれた。

「子どもってどうしたらできるの？」「大きなおなかって重いんでしょ？」「産む時は痛かった？」「真剣なまなざしがつめよつてきた。「先生の場合はね。マサオのお父さんをとつても愛しているの。むこうも愛してくれている。だから、赤ちゃんでできたの。みんなもお母さんに聞いてごらん。わたしはどうして生れたか

って」「マサオ君は先生の愛の結晶だね」学校の近くの保育園に預けている四歳の長男と時々遊んでくれるA君は、中学生の兄と姉がいるだけに洒落れた言葉を知っている。「おなか重いのは確かにつらいね。ポンポコたぬきみたいで。夜寝る時も横を向けなくて、上を向いたまんまよ」黒板に私の顔をたぬきに似せて、ひっくりかえているさまを描くK君。

どつと笑いがあがる。「でもね、もうすぐ人間を生み出せるんだぞ、といううれしさがいつもあつて、ワイイって叫びたい気持がして、歩くのつらいのもふつとぶ程だった。産むときだって、赤ちゃんもがんばっているな、エイヤツてかんじだったんだよ。私の話に聞き入る子ども達の瞳は、まだ無邪気だった。

その後、体調をくずして退職し、心理研究所へ転職した。退職と同時に、長男と教え子でスタートした家庭文庫は、二十年近くたった今も続いている。週二回、多い時で五十人、近頃では二十人程の子どもとのやりとりはいつも愉しい。

「誰なの？ こんな落書き掘りつけたのは？」傘印に男の子



と女の子の名前を記入する例のものが白壁にくっきりと。全員ニヤニヤして名乗りをあげない。「ここに書いてあるAちゃんD君は好き合っているの?」「まさか、あんなのと」「作り話だよ」と言いながらまんざらでもない二人の様子。

本の読み聞かせをしていると、秘かなざわめきがある。

「まわしているの見せなさい」取りあげた紙切れには「CとSは、土曜日に四号公園でデートをした」とある。「デートしたの?」「しないよ」とふくれっ面のC君。「嘘だあ。アレもしたんだろ?」と騒々しい。「へーえ、アレもしたのお」私の頓狂な声にワアツと歓声(?)があがる。「わかっただわ。みんな公園で誰かとデートしたいのね。だから、そんなの回して喜んでるんでしょ」「反論しながらも、なんとなくウキウキした雰囲気が漂う。「先生はデートしたことあるんでしょ?」鉾先がこっちへきた。「ええ、もちろんよ」「そのときにしたの?」「手をつないでこのままいつまでもずっといたいねと言いつたりしたわ」「もつとほかに何かしたんじゃない?」とE子がすこんでみせたので全員爆笑。「それは、みんながもつと大きくなって、本当に好きな人ができた時に聞きにいらっしやい。教えてあげる」『本当に』というところに力をこめて言ったら、シーンと静まった。

春はザリガニおたまじゃくしとり、夏はキャンプ。秋は梨がりいもほり、冬は博物館、美術館へ、人形劇観賞、等々。文庫

の子どもたちと四季折々の休日をかけめぐった。亡くなった子をとりもどすように産んだ小さな娘は、いつも子どもたちの誰かが抱いたりおぶったり、乳母車をひいてくれたりした。

あるピクニックの折、原っぱでおむつをとりかえていた娘を見て、「アツ、この子オチンチンがない!」と叫んだのは一年のY君。「だって、マキコは女の子だもん」と私。「そうだよ」「おまえは何も知らないんだな」集まった子どもたちは口々に。「Yちゃんはお兄ちゃんと弟と三人とも男ばかりだもんね」と私。「男と女とほかのところは同じなのに、オシッコするところだけどうして違うんだろう」「大人はオシッコだって違うじゃないかあ」「女の子のオシッコはオチンチンないのにどこから出るのかふしぎなんだ」「ジロジロ見るんじゃないの。マキコちゃん恥ずかしいじゃないの」

私は「赤ちゃんだから平気なの。女の人は大人になって子どもが産めるように男の人とは違うのよ。オシッコだってちゃあんと出るところがあるの安心して」と言った。「でも、なぜ赤ちゃんは裸みられても恥ずかしくなくて、大きくなると恥ずかしくなるのかしら」神妙な顔のE子。「きまつてるじゃないか。みんな裸で服着ないで道歩くのかよ。まる見えじゃないか」ワーワーと大騒ぎ。「そうねえ、どうして恥ずかしいと思うようになるのかよく説明できないわ。でもね、人間の文化と関係があるのは確かだと思ふの」草原を陽の光

を浴びて馳けまわる子どもたちに、受験戦争が行く手に待ちかまえ始めた時代。

五十年代をはるか超える頃から、休日にごどこかへと誘つても、塾だ、スポーツの試合だと。例会にも本だけ借りてそそくさと帰る子。もはやゆるやかな時間は子どもたちになかった。今年の春、バレンタインデーのあと。男の子たちは、チョコレートを何人からもらつたか、おかしは何にするかをさわいでいた。「大変ね。ホテルのも」ひやかし気味に口をはさんだ。「クラスのFなんかさ、春休みに二人で旅行に行くんだつて。ブルートレインで」「ほんと?」「ベッドの上でからまりたいからだつて」「ええつ、まさか」と後は続かなかつた。女の子たちはクスクス。が気をとりもどして尋ねてみた。「女の子は、どんな人にあげたの?」「あげなかつた」「わたしも」と口々に。「どうして?」「バカでエッチでさ」「それにダサイのばかりだし、幼稚っぽいんだよどれも」と、わが文庫の高学年の女子の醒めようときたら。黙つて聞いてりやとばかりにO君。「どうせ、オマエラとは結婚しないからいいさ」と捨てゼリフを。「そうだブスばかりだし」とI君。「では、結婚するならどんな女の人がいいの」と尋ねてみた。希望の条件は、かわいい人、明るい人、健康な人、冗談の通じる人、料理の上手な人。いやな条件は、おとこまさりの人、ボクより背の高い人、どうして自分より背が低くなくちゃい

けないかに対して、上から眺められるのはいやだ。恥だ。ムカつくとの答。「ボクより先に死なないで、子どもにもボクにも優しくして、オッパイが大きければ文句なし」B君がうつとりと言ひ、満場キヤツキヤツ。「女の子はどんな人がいいのか」の問いに、希望の条件は、優しい人、真面目な人、クラシック音楽が好きの人。いやな条件は、お金持だつていばつてゐる人、暴力をふるう人、グニャグニャした人。「それにアレもだよ」男の子たちのヒソヒソ話に「なあに?」と聞きだしたら、「女の好きな男はチンポコの長いんだよ」「ええつ」またしても絶句。女の子たちはだんまり。

「結婚つて何のためにするのかしらね」雰囲気を変えようと大真面目に。「みんなのお父さんお母さんはなんで結婚したか知つてゐる?」と問ひかけてみた。「さあ」「わからない」逃げ腰の子等。そんな中で、二年生のK君は、「ボクのお父さんとお母さんは、ボクとお兄ちゃんを生むために結婚したんだよ。だから、子どもをかわいがるために結婚するんだよ」と言った。「愛し合うためにするんじゃないか」「ちがう、愛し合つてゐるといふのが先なんだよ」論争はひとしきり続く。「むずかしいことをよく考えたわ。エライよ」溢れる性情報の中の子どもたち。効率主義の社会に有能な人材を期待され、性別役割分業の家庭で生活する子どもたち。人間とは、愛とは、を語ることを、私は続けよう。

# We '86年春の公開ゼミナール

## 育つ・育てる・育ち合う

—今、自分が生きる場で—



### 育ちたいよね

こここのところ、「自分らしさ」にこだわらな  
づけた夏のフォーラムをうけて、他者との関  
係の中で自分らしさを考えたいねと、'86春の公  
開ゼミナールのテーマは、「育つ・育てる・  
育ち合う」が決まりました。

なんてたって自分らしく存在したいと願  
うところには、「自分が育ちたい」思いが在  
り、それぞれの場で他者とかかわりながら自  
分も相手も変わっていく育ち合いがあるので  
はないだろうか。そここのところに注目してみ  
たいと、実行委員会は企画しました。当日の  
様子をふり返ってみたいと思います。

家庭の中で育ち合う中で、仕事を変えるな  
ど自分のライフスタイルを変化させつつある  
男たちに焦点をあてた寸劇「男」ならやめて  
みな——新「男の道のススメ」は、大当たり。  
練習時間があまり取れず、直前までの舞台げ  
いこのかいがありました。最後のセリフ「お  
やすみ、男たちの輪の中で」は、今までにな  
いハツとさせるフレーズだと何人もの心を動  
かしました。ああ男たちも、女たちのように  
自らの内なる声に気づき出したんだと。

働く女たちや男たちは、自分の住んでいる

### 芦谷 薫 (実行委員長)

地域をどれ位大切にしているだろうか、自  
らの体験を踏まえて訴えた風さんは、あとの  
この指とまれ方式の討論で最も多くの人の参  
加を集め、活発な話し合いの場をつくりまし  
た。全体の進行係がストップをかけるのをた  
めらう程でした。

家庭科の授業を通して、人間らしさの育つ  
場に学校がなり得ていない現状を例をあげて  
指摘された、京都からはるばる来られた森さ  
んの話は、学校の中で子どもや教師に関心  
をもつ参加者を集めました。今こそ家庭科男  
女共修！そしてその動きにも注目して話し  
合いがなされました。

そして、ウイ書房三冊目の単行本を出され  
た武田さん、「教育」といういとみなみは、さ  
や豆を育てる風の美しさについて「及ばない」  
と意図的教育の限界を話されました。We誌上  
連載中からのファンも多く、じかに話してみ  
たいという参加者が武田さんを囲みました。  
どのグループも予定の時間を忘れて話しが  
盛りあがっていました。

なら、「86夏のフォーラムに、この熱い思い  
をつなげよう！ねっWeの仲間たち！

# 育つ・育てる・育ち合う



## 武田 秀夫

皆さん、スミマセン。

シンポジストのひとりとして参加したが、マイクを通してあんなに多くの人に話すというのはほんとうに久しぶりですっかりアガってしまい、考えていたことの何分の一も話せなかった。イヤハヤ、人間、変われば変わるもの。

かつては「カミソリ」の異名をとった論争の名手(今)、アジ演説の名手(今)もすっかり型なしで、昔はやった漫才のセリフではないが「カアチャン、モウ、カエロウヨ」と弱音の一つも吐きたくなつた。一緒に参加した妻も、「あなた、話が下手になつたねえ」とすっかり感心していた。

私が話したかったことの一つは、「意図的教育の限界」ということであつた。

私は親として、教師の一人として、こういう内容を子どもに伝えよう、こういう子どもに育てようと思図してやってきたが、どうもその意図的教育というものは、本人が思っているほど効果はあがらず、底が浅いのではないか、そういう反省が私にはある。子どもが生まれた喜びから思わず黒板にわが子の名前を大書した私を印象深く覚えていてくれた卒業生、授業とは関係なく突然脱線して「諸行無常」「寂滅為楽」といったことを説き出し、中学生の私をいたく感動させた教師、そうした意図しない一瞬の教師のふるまいが持つ力をすこし考えてみたいと思つたのだが、私の提起のしかたがまずずく、単なるエピソードと受けとられて終わつたようだ。

私の述べたかつたことの第二は、「育つ」「育てる」ということを、文句なしにプラスの価値をもつものと前提してかかつていいのかという疑問であつた。人はこれを「右といえば左、左といえば右」というアマノジャク

的人間の言いそ

なことかたづけられるかもしれないが、私は自分の実感からそういう疑問をすてられない。私が生きていくという実感をも

つ時、時間は止まつており、時間よ止まれと思つている。いまが永遠につづげと思つている。わが子や塾の子どもたちに対しても、お前はいまのままでもいいと思う。その至福に水をさすのは、いまのお前を超えよ、より高い存在へと育ててこそそのかすあまりに正しすぎる(教化のことば)、その冷たさである、そう私は思っているものだから、(育つ)(育てる)に、皆さんはどうですか、(育つ)(育てる)という方向に沿つた貧相なことばだけが日常の会話をおおっている現状を息苦しく、生きにくいと思いませんかと問いかけてみた。が、これは時間切れでほとんど提起できないまま終わった。分散会でも深く豊かな体験をお持ちの方々からたくさん話がでたが、なおそれでもかいまみた程度というのが実状で、心残りなことであつた。



# 育つ・育てる・育ち合う —今、学校で—

森 幸 枝

人が育つということは、人間らしく育つこと。目に見えるもの測れるもののみでは半分で、むしろ目に見えない測れないものの成長こそ大切。ひとは皆、人間として育つ権利、人間として育つてほしい願いを持っている。そして育つ・育てることは、育ち合う中でこそ可能なのだと思う。育ち合うには、相手が必要、仲間が要る。さらには、ひびき合う感受性も求められる。

ところが、今学校では、第一にその仲間がない。一見親しそうな友達でも、本当は孤独な場合が多い。第二にそのヒマがない。生徒たちは忙しい。後から後から知識をつめ込まれ、記憶と操作に追われている。その分量も多く質も高すぎる。テストのために覚え、テストがすむと忘れる。またつめ込む、忘れるの繰り返しなのである。それらの知識を本当に血とし肉とする時間も手だても与えられてはいない。だから生活力として生かすことが出来ない。小・中・高と次第にそれはひど

くなっていく。確かに知識は増えるが、その分人間的な人格的な何か欠けていくように思われてならない。

ところで家庭科は、知っているだけではダメ、例えば物をつくるには、計画・労働・技術・創意工夫等が必要で、記憶や〇×ではすまされない。とにかく生徒は、幅広く考える・調べる・協力する・行うことが苦手だが、そこにこそ育ち合いがある。家庭科には、他教科に比して育ち合う余地があり、教師にも育てる余地が残されているのである。

このように育ち合う土壌のない中で、私たちは、H・Rや学校行事、授業での班学習など、少しでも育ち合ってほしいと頑張っている。それをばばむものは、まさに受験体制のもとでのテスト主義・能力主義そして管理主義。

今日、子どもの生活に労働(生産)・技術(創造)はなく、消費と操作にだけくれる。その上生活と結んで、具体的なものやことを作り考えていく学習の無視。それが子どもの手を、頭を、体を鈍化させ、意欲を、心をむしばんでしまった。

でも、やっぱり人間を育てるのは人間。私たちは、ついつい目先の目に見えた育ち方を期待してあせる。だが人は変わる。何時でも、ど

こでも、何時までも。本当に人間の育つ可能性は無限だなどと、教師三十年の間に教えられた。親が子に、教師が生徒に育てられたことだって一ぱいあった。私たちは、決して絶望しないで、お互い信じ合い育ち合っている。さて、グループでの話し合いは、どうしても本論よりも「家庭科」のあり方に偏りがち、時間が極端に少ない中でまとまらなかった。が、その中でも重要な提起と思われたのは、家庭科でつける学力とは何か、それと育つこととのかわりは? また生活から労働も技術も失われていく中で、家事労働をとりもどす必要があるのでは?(芸術・技能の必要性は生活文化の伝承ともかわる)、ただしその際、何をどれだけということがとても重要になるなどであった。もつともつと、話し合い、育ち合いたかったのに残念である。



# 育つ・育てる・育ち合う —今、地域で—

属<sup>まつか</sup>  
静

私の地域とのかかわりは、子供がきっかけでした。家の中だけの社会から変化を求め、友を求めて扉の外へ一歩を踏み出す子供と同様に、私も子供の付添人しながら自分の友を求めて歩んだ一歩は、たくさんの恵みをもたらしました。話し込める友を得、勉強を重ね、議論しあっていくうちに、何事でも相談できる肉親以上の存在となり、友達の輪が広がってゆきました。子育てを共有することで育ち合うことの重

要性を痛感しました。  
自分の子だけではなく、その友達も成長してほしいと願う共育ち願望の親たちの輪がひろがり、様々な問題を話しあう中で、老後も安心して過ごせるあたたかい地域をめざして助け合う私たちのネットワーク作りと、少しでも他人を支えていくことを有償の仕事として考えていくという運動を実際に展開していくなかで直面する問題点などを述べ、地域に生きるこの手堅さと地味さと、そして大切さを話しました。

もちろん自分の生活する地域に何も感じなくなっている男たちや女たち、また関心を持つうにも時間すら見出せない現在の労働状況に不満も込めてですが――。

グループ討論では、有償の助け合いについて質問が集中し、時給、保険、研修、働き手の姿勢のことなど、様々な角度から当然な疑問が出されました。身内に障害者を持つ方からは、ボランティアの限界も話され、誰もが関心を持たざるをえない老いた日々のケアのことなど、共感しえることの多い討論が展開されました。今、地域でのネットワーク作りを求める声が大いのに、改めて、しっかりと対処してゆかねばと決心した次第です。

地域の耕しの実りが見えぬ方からは、地域での活動の輪が広がっていかない悩みが話さ



れました。共同保育でも同じ状況のようで、何人の方が分り合うことの限界を述べられました。自分の持つものを交換しあう場をもつといった交流のきっかけを積極的に持つことが大切であること、そういった場に男の力をひき出すことの必要性が大であること、また女の仕事の場を少しずつ増やしていく等の提案もされました。

女が思う存分生きるといのは、どんな生き方で何を学ぶのかを知りたいという発言を機に、男も女も今の働き方をかえて、地域や子育てにも関わりを持ち、一層自分を磨く豊かな生活を求める時に来ているといった話も出されました。

誰もが生活の場・地域が豊かであることを望みながら、何ら積極的な働きかけの見られないことが残念です。住環境や交通量の問題、公立学校や保育所、ごみ処理や下水など、日常生活と切ってもきれぬ問題をうやむやにしていることの多い日常に、納税者として発言していく大切さを感じます。生活者の意見は行政を動かす力があるのです。

地域に育ち合う仲間作りをはじめ、豊かに安心して生活できることこそ、私たちが今、最も欲していることなのだと感じました。

# 育つ・育てる・育ち合う — “やさしさ”で男とつながる道を

星 建 男

ボクたち『男の子育てを考える会』オットコ一座は今回の公開ゼミでは書き下ろしの寸劇「男ならやめてみな! — 新「男の道」のススメ」を上演しました。

世の中にあるいろんな現場——職員室、サークル部屋、調理場、出版社など——に少数ながら散在している心やさしき男たちを描きながら、どこにも必ずいる旧来のオットコ性を堅持している多数派の男たちを一人で何役も演じ分けました。

保守多数派の男の一人は最後には今までの自分の男としての生き方を疑うようになり、生まれ変わろうとする意思が示されて終るのですが、ボクたちがこの寸劇で訴えたかったことは、一つには人間らしく生きようとする極少数派の男たちの孤立した、生き難いしんどさやつらさ、その中で頑張り抜いている姿であり、もう一つは仕事⇨生産に追いまくられている男たちの厳しくもこっけいな姿であり、同時にそん



な生き方にやり切れない思いを抱き始め、別な「男の道」を模索しながく姿でした。

そのような男たちのうごめきようは余り顕著には眼にしないのですが、静かに深く潜行しながら進んでいるのではないかと思うのです。競争社会の歯車の一部と化しながら、最後の一瞬で踏みとどまり、自らを問い直すというのとはなかなか困難なことです。

ボクたちはそれをなしうるのは論理化された硬直したコトバではなく、むしろ男たちも辛うじて保持している柔らかな感性部分——「やさしさ」だと直感しています。

レースのライバルではなく、弱さやモロさを共有しうる「やさしさ」で男たちはお互いを認め合い、つながり合い、変わり合っているのでしょうか。

その辺のことを伝えたかったのですが、何せシロウトの集まりに過ぎなくて、うまく表現できたかどうかは自信がありません。

グループになっての話では劇の内容と言うよりもオットコ一座の男たちが何故そのような生き方をするに到ったかに質問が集中し、各人の個人史が語られました。

一つの傾向として女性たちの多い集まりで上演すると、ボクたちは持ち上げられる事が多く「特別な男」「いい男」という眼で見られがちなのですが、そんな事は決してなく、むしろ保守多数派の心性をも合わせ持っているからこそ彼らに反発しつつ共感し、働きかけを続けていけるのだと思っています。

最後にボクたちの会が持つ一つの危険性として「男も家事・育児を担う」ことで「家庭」の機能を回復させ、現在政府側が画策している「家庭基盤充実政策」に手を貸すことになりはしないかと言う点があげられました。

この問題は「会」の存立にも関わる重大なことなので、簡単にはすまじたくないので、その辺の説明は又、機会があったらしたいと考えています。

## 「育ち合おう」とは

磯部幸江（記録）

「86年春のWe公開ゼミナールを始めます。今年のテーマは、育つ・育てる・育ち合う——今、自分の生きる場で——です。実をいうと私もこの年になって育ちたいなと思ってるんですが、みなさんはどうですか。この会で多めに語り合い、育ち合いたいなあと思えます」と、実行委員長芦谷薫さんのあいさつ。

私としては、育つことなんて当たり前としか受け止めていなかったから、人とのかわりの中で育ち合うという見方はオドロキ。毎日の生活で、家族の関係も、教師という立場上、生徒との関係も、そういう視点でながめたことがない。記録を担当しながら、また新しい見方ができたことはうれしい。

では、会の流れから。

○シンポジストより  
武田秀夫さん：育つ・育てる・育ち合う  
森幸枝さん：〃

——今、学校で  
——今、地域で  
属 静さん：〃

○劇「オットコ一座」

「男ならやめてみな 新「男の道」のスズ

メ」

○シンポジストにこの指とまれ

もっと聞きたい話したいことを持って、四つのグループに分かれる。

○みんなて話し合おう

グループの報告とまとめ

私は、家庭科の授業の中にこそ育ち合う場面が残されているのではないかと、森さんのグループに加わった。教師は、種々雑多な知識を生徒にペタペタと張り付け、詰め込んでいる。忙しい生徒たちも必死でそれを守るが、テストと共に忘れ去られていく。いろいろな実践力をつけたり、生活の営みを知り、社会的視野を広げていくことのできる家庭科こそ、今、注目すべきである。成果を目に見えるもので測ってしまうが、あせらずに、人間が変われるということを信じていきたい。話はつきず、時間不足がうらめしいのであるが、今回のテーマは、夏のフォーラムや、誌上で継続していきたい。そして自分自身のために歩を進められるようなつながりを作っていきたいと芦谷さん。

最後に半田さんより、シンポジストの方々、いろいろな場面で会を支えた人たちや、



参加して胸に広がった想いを大切にして、人たちがみんなに感謝して、十五年腎結核を患い、二十一歳で世を去った矢沢宰さんの十六歳の時の詩を。

### 『武器』

ぼくは天才少年ではないから／ぼくの持っているものだけを／ぼくにあうように／つまみだせばいいのさ  
するとそこに小さな真実が生まれる／その小さな真実を／恥ずかしがらないのだよ  
／その小さな真実を／どっこいしょ！と背負って／旅をすればいいのさ



## Weの公開ゼミナールに参加して



平井 雷太

◆育つ、育てる、育ち合う、育てられる……どれひとつとっても使う気になれない。この違和感はどこからくるのだろうか。

かつて、山村留学を始めた(財)育てる会に勤めていたことがある。その時、「育てる会」ではなくて育つ会にすべきだ」と、発言したことを今でもおぼえているが、それでもまだ違うという思いが断ちがたかった。気がついてみると、ここ数年、育つ、育てる云々の言葉をほとんど使うことのない自分がある。

なぜだろう。やさしさを育てる、思いやり

を育てる、強い子に育てる、一人前の人間に育てる等と、「育てる」の前に何らかの言葉をつけて考えてみた。

「育てる」という言葉には、やさしくなかった子どもがやさしい子どもに育っていく、育てられていく、お互いにそう育っていくというように、無い状態から有る状態に、何かがつけ加えられていくようなイメージが感じられてしまうのだ。

人間の可能性というものを考えたとき、もともと白紙で生まれてきたところに、育つ過程でさまざまなものが付加されていくという見方と、生まれながらにあらゆる可能性をもっているという見方の二つがあるように思われる。

後者の立場に立ったとき、「育てる」という言葉がなじまないものになるだろう。

たとえば、言葉で考えてみよう。

子どもは生まれながらに世界中の言葉をしゃべれる可能性をもっている。身近なところにたまたま日本語をしゃべる人がいれば、たくさんある言葉の中から日本語だけがひき出されてくるにすぎない。これを、日本語を話す能力が育てられたとはどう考えても表現できない。もし、身近に三ヶ国語をしゃべる空

間があれば、その三ヶ国語が子どもの中からひき出されてくる。つまり、人為的及ばないところで、空間を共存している人との関係においてひきこみ現象(エントレイメント)がおこり、さまざまな可能性が開花していくのである。思いやりにしても、やさしさにしても同様だ。

つまり、誰でも人を殺す可能性と、人を愛する可能性の両方をもって生まれてくる。だから、育てられて殺人者になるのではなく、誰もがもともと殺人者予備軍だっただけなのである。それが、何かに触発されて、それが表面化するかもしれないのだから。殺人者を育てることが出来ないように、やさしい人間だって育てることは出来ない。

「育てる・育つ」という言葉が、子どもとのかかわりにどうしてもなじまないのは、こんなところに理由があるのかもしれない。

◆司会として、予定通りの時間進行ができなくてごめんなさい。

「みんなで話し合う」時間もとれなくなってしまうでした。

グループディスカッションは、意見がとび

丹原 恒則

かって、よかった、よかった。

シンポの時間が長くなってしまい、参加者がきくばかりで、シンポジストの人数or話す時間をもう少し絞ってもよかったかもしれせん。

育つ・育てる・育ち合うー今、自分の生きる場で、このテーマが当日どこまで参加者の内面で掘り下げられたか、知らせ合う場(W誌上等)がほしい気がします。

男ならやめてみなー新「男の道」のススメーの感想、ご意見、色々聞かせてもらえると、さらに寸劇を改善できますので、よろしく。

中嶋 里美

◆集会在、誰かの話をききにいき、あとから考えるという時代から、話をきき、その場で新しく自分を創造するというふうに変わってきていると思います。ですからシンポジストの人は、そういう考え方に立ち、新しい創造を喚起するという視点を欠いてはならないと思うのです。話し方、話す要点について、しっかりと整理しておいていただきたいと思ひます。

グループ別になったことはよかったと思ひますが、もう少し時間をかけられたらと思ひ

ました。話し合い、共に考え合ったという充実感を得るためには、討論には三時間位かけたらいいのではないのでしょうか。日曜日でしたら、午前十時とか十一時頃から始めて、午後にたっぷり討論をするなど。属さんを囲んで「地域でどう育ち合うか」は、とてもいい討論ができ、コミュニケーションこそ、今後私たちが取組んでいくべきテーマだと思ひました。

大貫 政江

◆分科会で、様々な経験を積み、様々な問題意識を持った方が大勢集まったこと、そしていくつかの結びつきが見えたことが、非常に有意義に思えました。もつと時間があつたらさらによかったと思ひます。

錦 真理

◆私にとって今回の一番の収穫は、オットコ一座の劇の最後のシーンでした。「〇〇先生、疲れてしまったね、今はゆっくりお休み。男たちの輪の中で」というセリフ。男たちの間に、男社会で疲れきった同性へのこのような思いがあるなんて知りませんでした。とても感動しました。

稲色 恭子

◆パネラーの話もよかったし、寸劇もとても面白かったけど、少し盛りだくさんにすぎたのか、グループ別の話し合いの時間もあまりに短く、盛りあがったところで切られてしまい、全体の話し合いもカットされてしまい残念でした。夏のフォーラムに続けたい。

松本のり子

◆オットコ一座の寸劇「ぼんやりした充実感」について話し合える機会がほしいし、皆さんにその所をつつこんでWeに書いてほしいと思う。

属さんの話を聞いて……平日、自由に時間を使えたころは、フルタイムの人たちを巻き込んで地域に何か作れたら、と考えていた。団地の中でも共同購入の仲間で何かできないかと考えていた。五年の間、私はこの町で何をやってきたのだろう。

フルタイムが変わった今も、可能な限り共同購入、PTAは続けている。でも、そのために仕事の方の早退、休みを強いられる。私は、今まで何をやってきたのだろうとまた思う。「夜のPTA」せめて「土曜午後のPTA」「フルタイムの人も一緒にできる共同購

## 編集室からあなたに



### ◆夏季フォーラムへのご参加を

Weのフォーラムはおもしろい、すてきな人に会えるからと、一度でも参加した方は言われます。今年は山梨県富士吉田市です。

「快傑！ハウス♡ハズバンド」で一世を風びした村瀬春樹さんは、おつれあいのゆみこさん、飛礫くん、不思議くんと家中そろってご参加の予定。

そして「カウンセリングの入門・応用」で、Weの読者をひきつけた児玉すみ子さんが、体験を通してじっくり語ります。

Weフォーラムの特色、子どもとのかかわりも、今回はさらに一步を進めました。5月号「わんぱく夏まつり」の若い人たちが、一役も、二役も買ってくれますが、子どもを連れてこなかった人も、子どもとくらししていない人も、くらししていた子どもが、もう離れていった人も、子どもとことんつきあいましょう。

本号と次号に、案内をとり込みます。どうぞ、お仲間とともに、家族そろってご参加下さい。この夏は、富士山を仰ぐWeフォーラムで楽しく！

### ◆夏増刊号、3冊の単行本ヨロシク

武田秀夫さんの本を世に送り、春の公開ゼミが終わるや、ひと息つくひまなく編集部は、森幸枝さん、児玉すみ子さんの本にかかりました。同時に増刊号を進捗させ、フォーラムの企画をすすめたのですから、あきれるほどハードな日々。そして充実した日々でした。ウイ書房の本は、今最も要求されているものです。ただ本や雑誌の流通ルートはたいへん難しく、苦戦しています。どうかあなたがまず買って読んで、あなたのお仲間へ、心をこめてすすめて下さいますように。

入」、口先だけで言っても何にもならなかった。だからバチが当たった。今度はフルタイム側からの発言になるが、あまり過激にならず、かといって、こちらが折れるばかりもせず……まあ、がんばってみようか！ というところですよ。

川崎 絢子

◆四つのグループに分かれての話し合いはもう少しグループごとの間隔があったらよかったです、と思います。あちらこちらの話が聞こえてきて、ごちゃごちゃとしてしまった。椅子

子が大きすぎたせいかなとも思います。全体での話し合いがなくなってしまったのは残念。時間を六時ごろまでとつてもよかったです。では、陽も延びたし……。

高野 容子

◆もつともつと話したかったです！ 聞きたかった。夏季フォーラムに参加したいです。

橋口 直子

◆遅れてきたので、最後のディスカッションしか参加できませんでしたが、今年の公開ゼミ

ミナールは、非常に実りあるものだったと思います。時間が足りないのが残念でした。

先崎 朋子

◆女の人たちの話はとてもよかったです。武田さんのお話で「いじめっ子が強者で、自殺する子（いじめられっ子）は弱者なのか？」という問いかけには、少し疑問を覚えました。自殺こそしませんが、私もいじめられっ子だったものですから。



ここに置き忘れてしまいました。それを「塾」と表現したのだと知ってホッとする一方、塾をのぞいたこともない私は、一度見に行ってみるかなアとも思ったのでした。

塾みたいで、道徳みたいで、社会や国語や理科みたいにもなる、いわゆるキチンとした「授業」の態をなしておらず、他の先生や親たちがのぞいたら、一体何の時間だろうと思われそうな時を過ごしながらも、私の内なる根強い教師根性とかかなりな臆病とがあいまって、ソロソロ何かしなくちやなという思いにせかされます。最初から調理実習というのも自信ないし、一学期は、ともかく縫うことにするかな、ということになりました。

「ねえ、教科書ではエプロンやカパー類の製作ってなってるけど、どうする？ 私は材料一括購入してみんな同じ物作るってのは好きじゃないのよネ。五年生で縫うこと習ったんだし、ミシンの使い方覚えたりもいるんだから、何か縫うにしても、何でも自分の好きな物を作ることにしない？」

「何作ってもいいの？」

「そう。布製品なら何でもいいってことにしよう。作る物を決めるのも、材料用意するのも、家の人と相談しながら考えて来て。家にあるありあわせの物を使うのもいいし、新しく買ってもらうのもいいし、とにかく、作ったあとで粗大ゴミ

になったり、しまい込まれたりしない物。すぐに毎日のくらしに役立つ物がいいわねえ。やってみる？」

オモシロソウ、ボクに出来るかな、ワタシ作りたい物あるんだ等々、期待以上にノッてくれて製作開始。

まずは、「製作メモ」を書くことから。

「作る物。作ることにしたわけ。材料。費用。作り方。手ぬいかミシンか」

「作り方まで考えてこいなんて、ヒドイ先生ね。作り方教えるのが先生の仕事でしょ」なんてカググチを言われたかもしませんが、子どもたちは本を見たり家の人と相談したり、もちろん中には私に相談に来た子もいたりして、なかなか立派な製作メモが書けました。

メモ通りにできたら最高！ なんですけれど――。

作る物は実に多種多様。エプロン、まくら、クツション、まくらカパー、クツションカパー、温風機カパー、テーブルクロス、ランチョンマット、なべつかみとなべしきセット、ギャザースカート、赤ちゃんのよだれかけ、などなど。鼻炎でいつもティッシュボックスを持ち歩いてる子のティッシュボックスカパーなんぞは切実な必需品。デザインも、材料もさまざま。ししゅうもあれば、アップリケもあって。

どうしよう。おそろいはオモシロクないから好きな物を作ろうなんて大見得切った手前、弱音は吐けないけれど、これ

だけの仕事をひとりで面倒見られるかなア。全員完成させられるかしら。途中でにっちもさっちもいなくなったら……。こちらが内心こんな思いでビビっているとも知らず、子どもたちは大張り切り。次の週には、さっそく材料を持ってやって来ました。乗りかかった船だ、こぎ出すっきゃない！

メモを見ながら型紙を作る子、型紙なしで布にしろしをつける子、アイロンを持ち出す子、あっちの方ではジョッキョキとはさみの音、こっちではミシンをセットするグループ、「センセー！ どうやんの！」大声張り上げる子、クツションのパンヤをまき散らす子、途方に暮れて立往生の先生、喜々として手を動かかし口を動かす子どもたち。エイッ、もう成りゆきませだと開き直って見回せば、しつちやかめつちやかの様でいながら、ひとりひとりは、けっこう順序よく仕事にかかっているのです。逆上寸前だった自分がコッケイに思われました。しばらくながめてから、「ちよっとオ、聞いて！少しでも迷ったり、わからなかったりしたら、相談に来てよね！ とくに布を切る時は気をつけて。切る前に確かめて！」何か言わなきゃ先生らしくないなんていうつまらない見栄で言わずもがなのことを言ったりして。

二期の展覧会の作品への思いもあって、なるべくししゅうをと呼びかけておいたためか、かなりの子がししゅうを計画。チェーンステッチ、アウトラインステッチ、クロスステ

ッチ等々のやり方を聞きに来る子があとを絶ちません。正直な話、私だって本気でししゅうなんてしたことないのですから、ハラハラドキドキ。本を見ながらどうにかやって見せるありさま。それでも、「先生ヤツぱうまいね」なんて言ってくれるんですから、うれしいやら恥ずかしいやら。

私の二倍もありそうな大きな手の太い指先に針を持って、背中を丸めて必死にししゅうをしている男の子の姿を見てみると、もう、カワイイとしかいいようがありません。一針さしてはフーッとため息をつきながら、それでも投げ出したりせずに針を進めていきます。「あなたみたいなゴツイ指先から、こんなかわいい花もようが生まれるなんて、ふしぎだわあ。すてきねえ」——賛辞を送ることもしばしばでした。

四クラスとも似たりよつたりの経過をたどって、大部分の子が完成したのは六月の終わりころ。作品もさまざまだったので、出来上がりもまちまちでした。終わらない子には、夏休み中でも、二期期になつてからでも、とにかく完成させよう、途中で止めないようにしようね、ということ、ひとまぶ布製品の自由製作は終わりました。

完成した作品は、どれもこれも私が家で使いたいような物ばかり。手作りの店に持っていけば商品として通用するとも思われる物もかなりありました。エプロンといっても、教材屋さんおしきせの、布地もロープもみな同じ材料で作ると

はちがって、色も形もさまざま。それぞれに独特の工夫をこらしていましたし、まくらカバーも、ピロケースふうあり、テープつきあり、ホック止めあり。クッションも、正方形、長方形、丸型、ハート型、まわりにレースをあしらったり、四すみに房かざりをつけたり、ビーズやリボンでししゅうをしたり。まくら用のソバガラを持って来た男の子もいて、そのおかげで、ソバやソバガラについての話もはずみました。また、ひと口に木綿の布といっても実にさまざまな色や手ざわりがあることや、クッションの中身にしてもスポンジもあればパンヤもあり、その扱い方や使い心地も違うことなど、勉強の材料にはこと欠かず、学習もふくらみました。

教師が材料を一括購入して、なかば強制的に作らせるのではなく、自分が作りたい、作ろうと思つて始めたことだけあつて、熱もこもつたようでしたし、作る過程で、友だちどうしおたがいの作品を批評しあつたり、友だちの意外な才能を発見して感心しあつたり。私も毎時間、「ワァーすてきなクッションねえ」「このまくらカバーのししゅういいなア。いいユメ見られそう」「このエプロンだれが使うの？ 私にゆずつてエ」などと連発していました。何よりも、ここには、私のきらいなおしきせのおそろいではなくて、それぞれに個性的な自己表現がみられました。

あと始末は、製作メモと完成した作品とを見くらべながら

「完成メモ」を書いておしまい。

「自分としては上出来」「われながらよくやつたと満足」「苦労したが完成してうれしい」「心配していたが考えていたより簡単だった」などの自己批評。「ひとりでもよくやつたね」「上手のひとことにつきる」「おねえちゃんのタマのししゅうかわいい」「すごい！ えらい！」「お父さんが会社で使わせてもらうよ」などの家族の批評も、書きそえてもらいました。

二期のはじめ、顔も知らないひとりのお母さんから、次のようなお便りをいただきました。

「一学期、子どもが帰宅するやいなや、『今度、家庭科でクッション作ることにしたから、布地買ってきて』と申します。そう言われても、炊事洗濯をやつとこなしているような超不器用な私には、布地で形あるものを作るなどという経験はほとんどなく、どんな布地をどれだけ買ってよいものやら見当もつきません。それで、『うーん、買ってきてあげてもいいけど、男の子の好みはよくわからないし、気にいらないと困るから自分で買ってきてよ』と言つて、駅の近くの洋裁用品を売っている店を教え、学校でクッションを作ること、それにはどんな布地をどれだけ買えばよいか、お店の人に尋ねること、いろいろ布地を見せられたら自分の気に入りのも

のを選ぶことなどを話しました。いい年をしたおばさんがそんな事を尋ねるのが恥ずかしくて、子どもにはうまくごまかして言ってるようで、少々うしろめたい思いもしましたが、子どもはそんな事を気にもとめず、気に入った布地を買ってまいりました。

さて、それからが大変でした。すぐにししゅうを始めたのですが、まずデザイン、色あわせ、大きさ、ししゅうの場所と何度もやり直して、あまり何度もやり直すので、布地が破れるのではないかと心配したほどでした。私が、すっかり出来上がったねと見ているものを、本人は、何となく色がスツキリしないとか、こここのところの出来具合がイマイチとか、惜し気もなくハサミで寸断し、また最初からやり直すありさま。やつと仕上がったのは、一学期も終わりころだったと思います。

単純な作業ながら、まア本当によくやったねと、ほめてやりたい気分でした。このししゅうに見せた子どもの態度に、私は、それまで子どもに対してもっていた一切の思いわずらわしいから解放されるのを感じました。と申しますのは、いつもの子どもの日常生活から、集中力がない、根気がない、やる気がない、注意力がない、ない、ないばかりを思い、口に出しても言い、しかし全然効果なく、親としては心配のタネでした。でもそれは杞憂で、自分自身が興味をもったことに対

しては、こんなにも一生懸命になれるのだとわかり、安心致しました。いろいろな勉強やスポーツにも、親から言われるのではなく、自分自身で取り組み始める時が来たら、きっと熱心に納得いくまでがんばるのではないか、あせらず、その時を待とうと思えるようになりました。

本当にありがとうございます。これからもよろしくお願い申し上げます」

親が子から学ぶ、教師が親から学ぶ、というのはこういうことでしょうか。こんなお母さんに出会えるなんて、「冥利につきる」ということなのでしょうね。

(東京都杉並区立高井戸小学校)



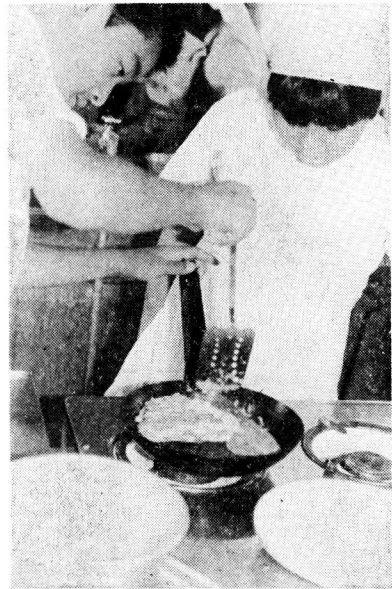




玉ねぎのみじん切り（包丁の手さばきを見て下さい）

### 食物学習でねらうこと（調理実習では）

生徒たちに、手を動かし体を動かし、調理するといふ体験を数多くさせたいので、調理実習や実験の回数をできるだけたくさんとるようにしている。もちろん、健康と食物のかか



オムレツ（二人がかりでがんばります）

わりや栄養など理論的なことも知ったり考えたりするのだが、生活体験の乏しい生徒たちにとって、やってみなくてはわからないことが多いのである。

実習は、生徒たちがとても喜ぶ。いさんで調理室へやって来る。グループでおしゃべりしながらも、楽しそうに一生懸命に作っている。食べることになればなおさらの喜びである。でき上がった皿を並べてじゃんけんし、勝った者から、好きな皿を選んでいくのである。出来不出来はあっても、自分で作ったものを食べるのは格別のものである。だが、指導者の私としては、楽しく作って食べるだけで終わらしてはならないのである。何を身につけさせたいのか、私は次のよう

に考えている。

(1)材料——食品の持つ本来の姿や性質を知らせる。その特徴を生かして調理する。

(2)調理技術——調理するという文化を伝えていく。先人の知恵から学ぶものは多い。

(3)自分の生活へ——作って食べることを自分でできるようにさせる。もちろん男女を問わずである。

(4)生徒たちの人間関係がよくわかる。五、六人のグループ内でそれぞれがどのように働いているかが、はみ出しっ子もなく、協力していく関係を作っていく。

一回ごとの実習に意味を持たせ、生徒に考えさせ、いろいろ体験してほしいと願っている。私もそれなりに苦労してやっていると思っている。「オイ、オレの昼めしとして持ってこいよ」とせがまれて、生徒がいそいそと作っていたりすると(偏見ですが、こういう若い男性教師が多い)、ムツとしてしまう(担任の先生分として作って、生徒たちと一緒に食べることもあるのですよ)。

### ハンバーグを作ろう——二年生の教材から——

子供の好きな食べ物のレストランには入るであろうハンバーグ。このメニューは、特に喜ばれる。ハンバーグの由来は、ハンブルグの港街で働く水夫たちが安くておいしいピフ

テキを食べたいということから、牛肉のバラ肉などを細かくしたものをもとめて焼いたという。安いし、ポリウムもありおいしいということで、好評で世界中に広まったという。

この話をしながら、ハンバーグという本来の味を出していくために材料を選ぶこと、インスタントのハンバーグとの比較をし、違いを考えることなどをする。インスタントのものにはいろいろな肉が使われ、添加物の多いことに驚く。手軽に簡単に作れて、調理上便利であるが、味や健康との関連で、どちらがよりよいのか考えさせる。

調理実習は、二時間続きの授業で行われる。献立は、ハンバーグステーキと野菜のソテー。材料は、生徒たちが、準備してくる。調理室に集まり、身じたくし、先生の話を聞く。調理法などは前の時間に計画をたてているので、私は、安全や衛生面の注意や、「添加物の少ない手作りの料理を作ろう」というねらいを簡単に話し、実習は開始される。

玉ねぎのみじん切りが一苦労である。涙を流しながら、調理台一面に玉ねぎの破片が広がる。材料をあわせてこねるのだが、手で肉をさわるのをいやがる子がいる。気持ちわるいという。さいばしなどを使うよりも、手で思いきりこねるのが一番よいことを伝える。次に形をつくる。ハンバーグは、こぼん型と決まっているのはおもしろくないからと、いろいろな形に作った班もある。焼きはじめると、香ばしい匂いが

漂う。通りがかりの他クラスの生徒たちがいいなあとのぞいていく。焼け具合はいいのかと、先生、先生とあちこちからお呼びがかかり、私も忙しく動きまわる。

試食。「おいしい」と満足そうな顔。全員が仕事に加わり自分の作ったものを食べる。

あとしまつ。反省やまとめをする。時間内に終わらせるために、教師はやきもきする。私も、ゆっくり食べて、急いであとしまつを合言葉に、生徒たちのおしりをたたき、次の時間に遅れないようにしている。「おなかがいっぱいだよ」と帰っていく生徒たちを見送って調理室に一人残ると、どっと疲れが出てくる。四十数人の喧騒の中で、ふざけていてけがをしないようにとか、いかげんな調理法を注意したりとか、動き続ける。口で言うだけでは通じず、手をとりながらの指導が多くなったように思う。あとしまつも時間がかかり、きれいにするためには、何度も声をかける。そんなこんなで、実習はたいへんだなと思うこともあるが、実習中に生徒たちの違った面が発見できるという喜びもある。数学や英語では、ただ机を前に座っているだけだというS君。実習では、まっ先にじやがいの皮をむいていたっけ。最後まで残ってきれいにそうじしてくれたTさんやAさん。

実習が終わった後、次のような課題を出し、レポートさせる。

実習を生活に生かし、活用するために、家族のためにハンバーグ作りをしよう。

- 。全過程を自分でやること
- 。家庭の予算に応じて材料を吟味して購入すること
- 。つけ合わせとして野菜を添えること
- その様子や感想をレポートする。

忙しいとかやりたくないと言った生徒もいたが、ほとんどの生徒のレポートが集まった。次に、家族から直筆で寄せられた感想を載せる。

「一生懸命、教科書を見ながら作りました。味・型・盛付の色どりは良かったです。もう少しとり合わせの野菜を加えればもっと良かった。後かたづけも最後まで全部出来ると合格ですが……。妹たちもお姉さんの作ったハンバーグ、おいしいと喜んで食べました」

「最初から最後までよくやったと思う。特に玉ねぎのみじん切りは、包丁の扱い方も上手でしかも早く、出来上りも結構細かく、ひき肉とのまざり具合も良かった。かなりバターを使っていたが、油っぽさがなくやわらかくておいしくいただきました。次回から注意するとよいこと。」

①ひき肉料理はよくこねる程おいしいので、もう少し時間をかける。

②ハンバーグの形にまとめる時、キャッチボールの要領で両手の間でたたきつけるようにして空気を抜くように。

からなかった。

義母が衣かつぎなるものを買ってきた。ゆでて食べるとおいしいと言う。私にはそれはさといもにしか見えない。食べてみると、やわらかでほくほくしておいしい。おしょうゆをつけて食べるという食べ方も初めてであった。私は、恥ずかしながら、今まで、衣かつぎも八つ頭もさといも違いがわ

「何事もやってみないとわからないからね。どんどんやってみることだよ」という義母の言葉。それは生徒たちにもあてはまる。あたりまえだと思っていることでも案外知らないことが多い。それらは、生きて生活する上で大切なことも多い。ていねいに繰り返して、考えさせて伝えていく必要があるのだろう。調理実習、やってみないとわからないことを、たくさんやっていきたいと思っている。(大宮市立大砂土中学校)

### \* 新しい家庭科を作るために \*

——小学校では——の

### \* ひと 村田尚子さん \*



井の頭線の高井戸駅を降りてすぐの高井戸小学校を訪ねた。風邪で一週間休んだという村田さん。卒業生からの手紙に今ごろは風邪をひいている時でしょうか、と書かれる程、風邪には弱い。

東京生まれだが、高校まで長野県小海町で「引揚者」として育つ。人生で最もうれしかったのは、学芸大学に受かった時、東京都教員採用試験に受かった時。「自分の給料で食べていける！」わきめもふらずに教師ひとす

じの二五年だった。

每学期、風邪で四、五日は休む。申し訳ないけれど、ひげ目に思うことなく、かんべんしてね」というとわかってくれる。誠心誠意言うことは絶対わかってくれる子供たち。

五年生の最初の授業まで「何もできなくて家庭科の先生向きでないけどどう思う」と聞くと、「安心する。じょうずじゃないと、自分たちがうまくいかなくてもガミガミ言わないと思つたから」「先生がうまくできない分、自分たちががんばる」「私たちが一生懸命やっつけて教えてやる」と。

「子供ってなんてステキなんだろう」と感激。「自由席」には年々確信を持てるようになってきた。もちろん子供の支援があるからこそ。理論的にどんなに正しくても、こうしたらこ

うなるというものではない。子供たちに手をあわせるしかない。よくぞ私の気持ちをわかってくれました。ありがとう、と。

昨年三月卒業した子供たちが校長を招いて給食を食べた時、女の子が校長に質問した。「村田先生の『自由教育』をどう思いますか。」「いろんなやり方があつていい。村田先生のやってきたことは皆の様子をみていれば、よかったんだなあと思います」と。昨年退職されたが、校長にも恵まれた。

おつれあいが自宅の庭で育てたジャーマンアイリスが生けられ、愛読書(『ドラエモン』)が置いてある家庭科室。自分の弱さをさらけ出すことで子供との関係を育んでいる村田さん。大人には人見知りするけれど子供とはな

いと。正直な方。(馬場)



表1 生果と市販ジュースの味くらべ

	みかん			りんご		
	生果	100%市販ジュース	10%市販ジュース	生果	100%市販ジュース	10%市販ジュース
甘さ	6名	1名	26名	4名	8名	21名
すっぱさ	10	21	2	11	13	9
おいしさ	24	6	5	28	0	4
糖度	10.4	11.4	11.4	11.8	11.4	12.2

トにして配布し、その説明をしていた。しかし、知識を一方的に詰めこんでいて、生徒への定着が弱いように感じられた。そこで今年は、生徒自身の感覚を働かせ、それと今まで明らかにされてきた科学とを結びつけるような形での展開を試みた。

試料には、四月なので生果としてみかんはネーブルを、りんごはスターキングを使った。それぞれを一人一口大に切って試食。ジュースは10%と100%の市販品を、一人20ccずつ試食。甘さ・すっぱさ・おいしさについて、最も強く感じるものから、1・2・3と順位をつける。1位をつけたものの合計数は表1のとおりである。試食(飲)後、糖度計(0~32%)を使って糖度を測定した。生果は個体差があるので一定値にならないことがある。

まず自分の舌の感覚につい

て考察し、次に糖度計の測定数値と対比させて、考察する。T子(前段)に「やっぱり生果がどちらとも一番おいしかった。みずみずしくて、それにくらべて市販ジュースはやたらに甘すぎて、つくった味のような気がしてのみにくかった。特にりんごの方が、生果や100%ジュースの方が自然なままの方がよかった」と述べ、次に計測値との対比をして、「一番甘いのはわかったけど、あとは違っていた。たぶんみかんの100%は、すっぱいのが強すぎてわからなかったのだろうと思う。つまりすっぱさは甘さをおさえる」とまとめている。後段の考察をさせる際に、「舌が感じた甘味の順位と糖度計の数値の順位の違いがあるとすれば、何によるのか、たとえばすっぱさの順位と合わせて考えてごらん」とヒントを与えていた。最後のまとめでは、私たち人間の舌は酸味が強ければ甘味を少なく感じることに、おいしさとはいろいろな味の総合されたものであること、また、味覚は個人差があり、その人の食べてきたもので作られてくることをおさえた。補足的に、酢の物料理ですっぱく感じるときには砂糖を加えてそれを相殺させることも触れた。

### 砂糖の種類と味、栄養成分

試料として、サトウキビ(わが家で昨秋収穫)、黒砂糖、車糖上白(通称白砂糖)、三温糖、さらめ糖グラニューを、大

表2 砂糖の精製と栄養成分

	味くらへ	エネルギー kcal	水分 g	糖質 g	カルシウム mg	ビタミン B <sub>1</sub> mg	価格1kg (円)
サトウキビ 三温糖	いちばん甘かった。	380	1.7	98.0	30	0	288
黒砂糖	すぐ甘さがひろがる。香が強い。いちばんおいしかった。	352	5.0	89.7	240	0.05	約 488
白砂糖 (車糖・上白)	いろいろと調合した味がした。	384	0.8	99.2	1	0	238
ざらめ糖 グラニュー	ざくざくした舌ざわり。	387	0	100.0	0	0	348

~~~~~ グラニュー糖は、ざくざくして甘さを他よりかんじなかったが糖質は100.0と気付くこといちばん高い。それに対し、黒砂糖はいちばん甘さをかんじたが糖質はいちばん低い。だがカルシウムはだんぜん高い。

さじ一杯ずつ小皿にのせて、8人に一組ずつ準備し、これをスプーンで各自の手にとって味みをする。サトウキビはこの厳寒で保存が悪く腐ってしまった。そこで、実物を見せて、私の子どもの頃サトウキビを食べていた様子を話した。そのあと、食品成分表を使って栄養成分をぬきかきす

る。試食結果と成分の数値について各自考察する。I子のまとめが表2である。

そして、糖質代謝の過程を食品成分表に記載されている図を使って説明し、エネルギーが産生されるためには、ビタミンB<sub>1</sub>が不可欠であること、もしない場合にはエネルギーは産生されずにビタミンB<sub>1</sub>不足症状に陥ることを述べる。見た目に白色でよくみえるものが栄養的には偏った成分のものであること、人間でも白色人種がすぐれているように見ている面があるけれど、もっと内容をしっかりとみつけて選んでいきたいと脱線もする。さらに米について、食品成分表を使って、ビタミンB<sub>1</sub>含有量が精白度によって違っていることを確かめさせ、日常のごはんの食べ方について考えさせる。

さらに、ぶどう糖と果糖の成分も調べる。やはり、エネルギーのみで、ビタミンB<sub>1</sub>はゼロである。前時に、果物(いちご8.2・レモン8.4)野菜(ピーマン4.4、トマト6.4、にんじん7.4、きゅうり3.6)の糖度、市販の清涼飲料水六種の原材料名の書き写しと糖度の測定をしておいた。清涼飲料水の原材料では、糖度の低い(6.2)健康飲料も含めて、砂糖やぶどう糖液糖、果糖ぶどう糖液糖がすべて使われている(100%果汁を除く)。この砂糖はグラニューを使用していることが多い。この現状から、清涼飲料水を飲むことで、私たちの身体が不適的にビタミンB<sub>1</sub>不足に陥ることに気付かせていく。



エネルギー量の計算も兼ねて、たとえばコーヒー牛乳一缶飲んだ場合（糖度10.2、250ml）の算出をし、99kcalのエネルギーをとることになること、これはジョギング男13分・女16分の消費エネルギーに相当することをおさえ、エネルギー過剰摂取になりやすいことに気付かせていく。一日のエネルギー所要量（17歳の男女別）と一日の砂糖摂取量のめやすを抜き書きさせる。

果物、野菜、清涼飲料水の糖度を対比させて、日常甘い物と思っていない野菜類の糖度が5.0前後であり、甘いと感じる果物類が糖度10.0前後であり、清涼飲料水の甘さは自然の甘い果物の糖度に近いように砂糖類を加えて作ったものであることもおさえておく。すなわち、加工品は自然のものの模倣品であることや、売れるために心地よい甘さと感じる糖度に調整してあることに気付かせようとした。

このような展開をしてくると、「いろいろな原料を混ぜてつくってあるだけで健康によいとはいえない」「業者の人たちがいろいろ考えてやっていることにだまされないようにしようと思う」といった感想がでてくる。

それでも暑いときには飲んでいるが、学習した生徒たちは、よくないと思うけれどもという表情はみえる。冬にはお茶を用意してくれるといいのにという要望も出てくる。次の段階への対応を迫られているようである。

### 砂糖溶液の加熱温度による変化

甘い物の摂り過ぎはよくないとはいえ、やはり甘い物を全く食べないではおれない現実がある。そこで、砂糖の加工調理の基本として、砂糖100g、水50ccを小鍋に入れて加熱し、103℃～200℃まで、10℃刻みで、状態を観察する（節範。着色、泡立ち、糸ひき、冷水テストの項目で熊本県版実験・実習ノートに記録する）。中学時代にプリンを作ってカラメルソースを作ったことがある、あるいは理科の実験で同じようなことを大まかにやった経験をもつ生徒もいるが、大部分の生徒は透明な液が次々に変化して、最後に黒色になってしまふことに驚く。最後こげついたものを水にとかしビーカーに入れる。「この色は何に似ていると思う？」とたずねると「コーラだ」と答える。コーラの原材料のカラメルであることを確認させるが、生徒は実体を知ってけて好ましく感じない。原材料の实物を自分の目で確かめることがその本人の判断基準を作るうえで重要であることを改めて感じる。さらに、「この黒い物は何を連想させるかな？」とも発問する。近頃の生徒からは必ずしも返答のない場合もあるが、「炭、石炭、石油は黒いね。炭素Cの塊よ。すなわち、砂糖は炭素と水素と酸素からできていて、水素と酸素は水となって蒸発して、炭素だけが黒くなって残ったのです。石炭が汽車を動かすエ

エネルギーになっていくように、砂糖の炭素が私たちの動くことや体温のエネルギーになっていくのです」という説明もある。四年前に男生徒がこの説明をきいて、「とても印象的でよくわかった」と感想を書いていたのでそのあとずっと続けている。

## 砂糖を使った加工と調理

宿題として、昔食べていた甘い物、お菓子について家族にききがきしてくること、また各班で50分までできるお菓子料理を考えてくることを一週間前に出しておいた。

二時限連続授業の前半を師範で、ジャム（いちご。砂糖の分量はいちごの重さの20%と80%の二例を作る。溶液温度103°Cで加熱を止める）、フォンダン（クラッカーを1人1枚用意し、この上に112°Cで加熱を止め、攪拌してできたフォンダンを載せる）、りんかけ豆（ピーナツ、1人5g用意し、120°Cで止めた溶液にピーナツを入れて攪拌する）、それぞれを観察・試食する。ゼリー化への砂糖量の影響、溶液の加熱温度の違いによる結晶の大きさ、口中でのとろけ具合がよく理解できるようにである。そして、市販の飴類が口中ですぐ溶けたり、歯にくっつきたりするという違いがこの加熱温度によるものであると気付かせる。さらに自分で好みの飴やお菓子を作ってみるようという（この師範を前時にしておけば、次の班の

自由メニューのなかに取り入れられたかもしれないと反省している）。

生徒が準備してきたメニューはホットケーキ、ドーナツ、クッキー、ケーキと、小麦粉を使ったものが多かったが、大（学）いも、いきなり万十といったさつまいも（熊本では通称、みらいも）を利用したもの（わが家で栽培）、だんご類（みたらし、きな粉、あずき、黒砂糖）という米粉の利用、ぜんざいであずきを使うなど、しばらく前まではわが家で自給した材料を使った料理も各クラスでほぼ半分の班が作っていた。昔食べていた甘い物の話をきいてくることを同時の課題にしていたので、このような伝統的な料理が出てきたと思われる。

## 甘い物、お菓子の昔と今

生徒のききがきをまとめて一枚のプリントにし、配布した。その内容の概要は、(1)自然のものそのまま、あけび・野いちご・桑の実・桜んぼ (2)栽培したもの (1)そのまま さとうきび・あまきび (2)簡単な加工 干し柿・からいもやさといも、とうもろこし（煮る） (3)時間をかけた加工 からいも飴・からいも万十・こっぺ（からいもを煮て干す）・いきなり万十・からいもぜんざい・からいも飯他 (3)手作り菓子や甘い物 だんご類（砂糖だご・まきだご他）・甘酒・らくがん・あられ・かきもち・カルメラ他 (4)市販のもの 黒棒・米

あめ・甘納豆・ニッケ玉・わた菓子他 (5) 甘味料 黒砂糖・きざら 小麦からあめを作つて砂糖の代用にした、さつまいもや麦芽の甘味を利用、さとうきびをしぼり沸騰させて砂糖を作つた、さつまいもで水飴を作つた など、たくさんの資料が集まつた。これをもとに、昔のものと現在のものとの違いを考察させた。H子は次のようにまとめた

1 材料 昔は黒砂糖や自然から甘味を見つけたが、現在は白砂糖を使い、自然の甘味を重要にしなくなった。

2 栄養成分 現在はいろいろなもの混ぜたりしてあるので昔のものに比べると栄養がおちていると思う

3 時間と便利性 生活的に忙しい所が多いので昔のように時間がかかるお菓子(手作り)がなかなかできない。お店で売つてあるのでそれですませるのが多くなり、時間が短縮化され、手作りのものがなくなつてきている

4 安全性 手作りが多い昔は自分の家で作るため、お菓子のできかた、何が入っているかがわかるので安心して食べられるが、お店で買うようになった今は、自分の目で見ていないし、でき方もわからないので安心して食べられないし、必ずしも安全というわけではないと思う

どの生徒も、H子のように教師が理解してほしいと考えていたことをほぼ記述することができた。そこで、H子他四人に各自の考察を読ませた。私が特に補足したのは、サッカー

ンについてのみである。実はH子のききがきを一事例としてそのまま前述のプリントに記載したが、そのなかに「白砂糖が少なかったたのでサッカーや黒砂糖を使つてお菓子や料理を作つていた」とあり、これをA子が「今ではサッカーは使わなくなつた」と受けとめていたのである。そこで人工甘味料の種類と許可や禁止の歴史を年表的に見て(岩波ブックレットNo 28「食品添加物を考える」)、サッカーは砂糖類の300~500倍の甘味度があり、発癌性の疑いながらもたれながらも業界の圧力で現在も漬物類に使われ続けていることを説明した。食品衛生行政、業界の姿勢をこの一例によつて生徒は見抜くことができる。

子どもやその親の生活現実と学習内容を結びつけ、生徒自身の力でどうあるべきかを整理し、今後のあり方をつかみとらせたいと日頃思っている。が、どうしても結果を教師が押しつけてしまいがちである。今回は、昔のことを聞きがきさせたことでその点をずいぶん回避する展開ができた。合計7時間。

(熊本県立甲佐高等学校)

## 研究ノート “性”

### シリーズ2 性差——女と男の違いはどこにあるのか？

#### (1) アダム原則

##### 女と男の関係を考える会

###### はじめに

一九八五年、日本も「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」を批准し、それに伴って、女子のみ必修の家庭科、国籍・労働の男女差別を改めようとして議論されてきたことは周知のことである。しかし男女雇用機会均等法では、「女も残業しろ」「生理休暇をなくせ」「出産にかかわる以外の休暇は認めない」といった調子で、女だけの保護規定をなくすことが男女平等だと考えられていた。「産む性」を無視した形での平等、しかも男と同じに働くことが平等という論理は明らかにまちがっている。また男も女も育児にかかわることが人間の義務であり権利であるとするなら、女を弱い性として、産み・育てにのみかわらせて、男をそこから排除しようとするのもまた誤っている。

私たちの希求する男女の平等とはどんなものであろうか。そもそも男女の差とはどんなものであろうか。

女性社会学者であるE・シュルロは、生物学的な性差を考慮に入れる重要性を次のように述べている。

「昔から女性は自然（それは単に母性機能という意味にしすぎないのだが）に束縛されてきた。すなわち、自然とその副産物が性差を強調して、男女平等を妨げてきたので、私たちはできるだけ自然をひきあいに出さないうで両性の平等を要求してきた（科学的でなくイデオロギー的に）。しかしそうでなく、男によって書かれた『女性とは』という説明や理論のレットルをはがして『性差』に権利を与え『性差』を生かすことを目指すべきだ。生物学的な性差の事実の考慮を拒否したまま、婦人問題を論ずるといふ非科学的態度は危険である」(『女性とは何か』人文書院)

ところで、その性差は絶対的なものであるか。医学心理学者であるジョン・マネーは、次のように、性差が相対的なものであると強調している。

「科学が明らかにしたところでは『アダムの肋骨からイヴが生まれる』のではなく、その反対に、基本となるものはイヴであるという『アダム原則』等、生物学的差異を明らかにしたりえでもなお、性差はあくまでも相対的な関係によるものであり、絶対的なものではない」(『性の署名』人文書院)

第一のシリーズでは、若者の性意識調査から、性意識と性行動の変わってきている実態を探り、「性の解放」とはどのようなものかを考察してきた。第二のシリーズでは、最近の生物学的研究をたどる中で、男女の差をどうとらえればいいのかを考えていきたい。

### 性の誕生

百数十億年前の大爆発（ビッグバン）によって、宇宙は誕生したという。宇宙は次第に膨張し、銀河系ができ、その中に私たちの太陽系が生まれた。そして宇宙空間の星間ガスとチリが凝縮して地球という天体が誕生したのは約四十六億年前、そして三十数億年前、地球の原始大海の中で最初の生命が誕生した。その生命は、自分を複製する遺伝子という分子と、さらに遺伝子を包む細胞を作った。そしてその細胞が分裂することで、遺伝子は次の個体へと受けつがれた。細胞はやがて集団を作り、多細胞生物の個体を形成し、その個体より生かすため、細胞の機能の分化が進んでいった。その分化した細胞の一つに、生殖活動にかかわる配偶子が生まれ、そして二つの個体の配偶子が合体して一個体を作るようになった。

こうして「性」というものがこの地球上に誕生したのは約二十億年前のことといわれている。

それまでの生物の進化は、偶然の突然変異の積み重ねに頼

るしかなかったが、「性」の誕生は、この進化のスピードを加速的に増していった。すなわち「性」の誕生が、多種多様な生物を作り、雌雄異体の人類を作った。（『男の脳・女の脳』川上正澄、参考）

ここで、人間は生物の歴史の積み重ねの中から進化して生まれてきた生物であることと、個体発生は、この進化のプロセス（系統発生）を繰り返すことを学んだ時の生徒の感想文を一つ紹介しよう。

「授業できいていて一番すごいなあと感じたのは、お母さんのお腹の中にいる胎児がわずか二百八十日程の間に、人類が今まで何億年もかけて進化してきた歴史をへてきて、そうしてはじめて人間の子供として生まれてくることだった。すごく大きくものごとを考えると、私がこの世の中に今こうしているのは、お父さんとお母さんがいたっていうのだけじゃなくて、ヘビがいるから、カエルがいるから、キンギョがいるから、ゾウリムシがいるから、この地球にミズがあったから……はてはビッグバンがあったから、というところまでいつてしまう。そう考えると、この世の中にはなくてもいいなんでものはいんだなあと改めて感心させられた。ここでなぜか幼少時にうたわされた『手のひらを太陽に……』という歌を思い出す」

遺伝的な性、はどうして決まるか

遺伝的な性は、周知のように父親からの精子と母親からの卵子が合体する受精の瞬間に決まる。すなわち、精子と卵子のもつ性染色体の組合わせによる。男性の精巣では、染色体構成44XY（常染色体が44、性染色体がXとYの2）が減数分裂して、22Xの精子と22Yの精子ができ、女性の卵巣では44XXが減数分裂して22Xの卵子ができる。そして22Xの精子と受精すると、44XXとなり、遺伝的に女性の子供ができ、22Yの精子と受精すると、44XYとなり、遺伝的に男性の子供ができることになる。このように、遺伝的な性は、性染色体の組合わせでまゐる。

しかし、現代科学の解明により、これまでの「性染色体の組合わせが、身体的性差を決定する」という学説は否定されてきている。からだの性は、当然遺伝的な性と無関係ではないが、決定的なものではなく、遺伝的な性と異なる場合も存在するのである。

### 「アダム原則」と半陰陽者

男性と女性の問題については、聖書では、アダム（♂男）が基本で、アダムの肋骨を取ってイヴ（♀女）が作られたとされている。しかし近年の研究では、イヴが基本で、アダムを作るためには、何らかの要因が必要であることがわかってきた。すなわち、遺伝的な性は受精時にその性染色体で決まっているが、胎児の発生途上の性分化の分岐点で、何らかの

要因が働くか、働かないかで、男性と女性に分化していく。これを、ジョン・マナーは「アダム原則」と呼んでいる。

この何らかの要因に、男性ホルモンが深く関係している。この何らかの要因の「ある・なし」が、男性へ、女性への分かれ道を作る。遺伝的には、男性あるいは女性であるのに、男性ホルモンの存否、またはそのホルモンの受容体のシステムにうまくいかない要素があつて、外面的にはもう一方の性の形態をとっている人（半陰陽者）や、あるいはどちらとも判定のつかない性のからだができている人たちがいる。こうした人たちの存在によつて性分化の研究は進められてきた。

これらの研究成果を授業で紹介すると、生徒は、「私が興味深かったのは、すべての人間の原型は女性であるということ、そしてたくさんのプロセスを経て、やつと男になれるということだった」と感想を述べている。

この「男女の出発点はいっしょ」ということを生徒が知っているかどうか、男女平等の意識の芽になると思う。発生途上でいくつかの分岐点で、機能を分化させてきたのだというとらえ方を大切にしたい。ここで明らかにされた生物学的性差と、社会的・文化的に作られた性差のステレオタイプとを同一視してはならない。

### 性差のモデル——ステレオタイプ

性に関する科学的な研究は、十九世紀にスタートした。両

性間の差異、すなわち、女らしい——やさしく従順、男らしい——たくましく攻撃的など一般にいわれる両性間の差異は、「生得か？ 養育の結果か？」と論議されてきた。しかしそのどちらかが正しいというのではない。人間は、遺伝と環境との間での継続的な相互作用の産物であつて、発達過程で、環境と遺伝子の影響とによつて個を形成していく。

生物学的に、原則的な男女の差は「男性は妊娠させることができる」「女性は月経があり、妊娠し、授乳することがができる」このたつた四つである。永久不変の性差とは、この四つの基本的機能のみであり、その他のあらゆる性差は変化し得る可能性をはらんでいるといえる。ところが私たちは、なんと多くのステレオタイプに拘束されていることか。

性差のモデルとは、男性と女性、少年と少女に割りあてられた役割に対する社会全体の取りきめを、具体的に示しているものである。例えば、「男性は仕事をもち妻子を養わなければならぬ」とか、「女性は結婚し子供を産まなければならぬ」。また「男の子ならけんかはしてもよいが泣いてはいけない」、「女の子は何でも受け入れ、自己主張してはいけない」など、私たちの身のすみずみまで性的ステレオタイプが示されている。しかもそれは、個人の心理的側面や生き方に至るまで、強い拘束力をもつて、私たちの前に示されている。

もちろん、性差のモデルの存在を私たちは完全に否定することはできない。たしかに、こうした性差のモデルが示されることによつて、私たちが生き易くなっている面がある。モデル化することによつて、男性とはどういう人間なのか、女性とはどういう人間なのかという点に関して、個人的に抱く概念を形づくる鋳型が与えられる。もしその人がそのモデルに一致するアイデンティティをもつならば、社会がそれを支えてくれるので悩まなくてもすむという意味で、より生き易くなるといえよう。

しかしその反対ならどうかと考えてみたい。たとえば、女の子が自己主張するものをもつたらどうなるだろうか。生き方をはばまれることになるか。

基本的な生殖機能以外のあらゆる性差は、スペクトルのように相対的なものであり、変化し得るものであるとすれば、社会が私たちに示す性差のモデルは、基本的生殖機能にかかわることのみであるべきだということがわかるだろう。女性に示されるべき性差のモデルは、「産む性」にかかわることのみであるべきだ。

そしてさらに大切なことは、その示された性差のモデルから距離のある人（産めない人、産まない人）も許容される社会でなくてはならないことだろう。

(村上昌子)

## 教育のなかの

### 心理学



小沢牧子

## 登校拒否 (1)

### 揺らぎ始めた学校神話

「学校」がわずかに揺らいできたという気がしている。とくにここ二年ほど、学校の絶対性から子どもたち自身が脱出をはじめているような気がするのだ。

先日、私の住む地域の教育を考える集まりで、ひとりのお母さんは「子どもが学校から圧迫を感じて帰ってきてるな、と思う」と言い、もうひとりのお母さんは「小学生の子どもが学校へ行ったり行かなかったりやりの生活をしているが、子どもなりに学校と適当につき合うやり方をおぼえたようにみえ

て、まあこれでいいと思っている」と、あっさり話していた。「学校」が子どもに圧迫感をもたらすところであり、頑張っている状態だとすると、身体が拒否を起こしてくる。そこをすりぬけ自衛しながら、学校とほどほどにつき合う。そんな子どもたちがふえてきた。また親たちも、それを止むを得ないことではないか、と受け入れはじめている。「学校を休むなんてたいへんなこと」「気ままに学校を休ませたりしたら将来まともな大人になれない」「わがままで弱い人間になってしまふのではないか」——子どもが学校へ行かないことに関して親たちが怖れてきたこれらのこと、つまり親たちの「不登校恐怖症」がうすれてきている。それは学校は絶対である、という神話性がくずれてきたことを示している。学校がとくにこの三十年の間、子どもたちをモノ扱いし、無礼を重ねてきた経過を考えると、これは当然の成りゆきであるだろう。

### 「学校恐怖症」から「登校拒否」へ

子どもは時代の予言者である、といまあらためて思う。「学校がイヤ！」と身をもって訴えつづけた何万人という子どもたちは、すでに二十年も前から、学校という場の病こそを見きわめていたのだ。一九六〇年代に社会構造の大変動が起り、五〇年代後半からはじまっていた学校という場のしめつけは進行する一方で、そこは子どももふるい分けの場と化していった。学校へ行こうとしても行けない子どもたちがぼつ



ぼつとあらわれ始めたのはその頃であった。一九六〇年代、私は子どもの心理治療や学校教育相談の仕事に携っていたが、その頃出会ったM子ちゃんやYくんは、学校へ行けない子の、いわばはしりであった。当時、そのような「症状」は珍しいもので、名称も精神病理学における「恐怖症」<sup>フォビア</sup>概念を借用して、「スクール・フォビア（学校恐怖症）」と呼ばれていた。「登校拒否」という、より事態に即した名称が一般的になるのは、一九七〇年に入ってからのことである。

まああるいはつべたのM子ちゃん、人なつこい笑顔を時折浮かべるYくんも、当時「貴重な症例」として珍しがられた。いまでこそ、子ども相談機関の半数ほどをも「登校拒否」が占めるに至ったが、二十年前はむしろ特殊な事例だったのである。「学校恐怖症の研究」チームが作られ、「症例」が集められた。学校へゆけない原因としてあげられたのは、「子どもの自我の未成熟や神経症傾向」「母親の過保護または拒否」「父親の弱さ」などであった。「学校のもつ問題性」は当初ひとことも触れられなかった。当人と家族の弱さ、いたらなさがことごまかに指摘されるばかりであった。本人と家族を対象とするかずかずの心理テスト、心理治療チーム。その中に心理臨床の研修をはじめたばかりの私もいた。学校という息苦しい場をなんとかしてほしい、そこへ行くのが辛いと身体で訴えている子どもの声を聴く姿勢もなく、その苦し

みを本人と家族の心の病に帰して、いっそう子どもや親を追いこんでいくことに私も加担していた。そこには、学校という場がどのようなところになっているのかを見ずに、「学校へ子どもが行けるのは当たり前」「学校へ行けないのは心の病気」とする、大人の側からの一方的な学校絶対視と、子どもへの蔑視があったと思う。

### それでも学校へ行くのは……

そのような自分の眼や仕事上の行為に疑問を持ち、おくればせながらその問いに向き合い、病んでいるのは学校なのだという反転を私がようやくなし得たのは、自分の子どもたちが学校へ行くようになり、「心理学の専門家」としてではなく、ひとりの親としての目で学校を見ることによってであった。

いま、「登校拒否」について大学生たちと論じあうとき、彼らはまず「では、自分はずなせ学校に通いつづけていたのだろうか」という問いに向き合おうとする。学校がたのしかつたというわけでもない。しかしやはり行きつづけた。自分にとって学校は何だったのだろうか――。教師になることをめざす学生たちの回想や、「登校拒否」への思いはさまざまである。

次号では学生たちのことばに学びつつ、学校に行くこと行かないこと、の問題を考え深めたい。

# 教室の窓



植垣一彦

## 〈14〉日記、そのかがやき

子ども相手のたとえば教師という職業に特典があるとすれば、それはきっと、子どもがある体験に心や言葉を与えて、新しい何かを蓄えてゆく、そのかがやく場面にいくつも立ち会える——ということではないだろうか。

子ども達の日記を読んでいると、しばしばそんな実感を持つ。

関本美由紀さんの次の日記もそのひ

とつ。

2月20日、木よう日

きよう3時15分ごろまで、そうじを高井君とやった。そして、とちゅうまでいっしょに帰ってたら、どっかのおじいちゃんが、「おう。いいお兄ちゃんもつてるネエ」といわれた。高井君には、「お兄ちゃん、妹さんを、だいじにかわいがってあげるんだヨ」といわれて、ビックリして、わらってしまった。でも、高井君と、「おじいちゃんだから、ほんとのことをいったらショックかもしれないネ」と言いながら帰った。この日の放課後、二人はみんなが帰った教室に残り、雑巾をきれいに干したり、ロッカーを整頓したり、机の上の乱れた国語辞典やことわざ辞典を揃えたりなど、何やらごそごそ。聞いてみると、「あした授業参観だから……」との返事。頼りない担任の私は、もうすっかり恐縮してしまった。二人のう

るわしい情景を、たまたま居合わせた他の先生たちといっしょに見やりながら、感心したり羨ましがったり。

この日記は、その帰り道での出来事だったらしい。そんなわけで、私は、「そうじを高井君とやった」ことも含めて、「実にいい話だ」とつくづく思った。心なごみ、小さなしあわせをさえ感じた。

二人の間に、淡い気持ちがあってもいいし、またなくてもいい。いずれにしろ、「どっかのおじいちゃん」がいつ声掛けて励ましたくなるような光景だったのが、うれしい。と同時に、「声を掛けてくれてありがとう」と「おじいちゃん」にも御礼を言いたくなる。そして、見間違えられたことに「ビックリ」しながらも、「ほんとのことをいったらショックかもしれないネ」と交わす二人の会話が、これまたとてもいい。

おそらく、二人のういういしく透き

通るような汚れなさは、見知らぬ「どつかのおじいちゃん」の得がたい介在で、さらに深さを増し、何ものかのもうひとつの世界を形づくったに違いない、と私には思える。

「ねえねえ、ちよつと聞いて！」と給食の合間に私は、関本さんのこの日記をみんなに紹介したのだった。

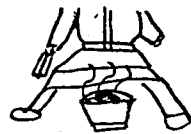
次の、高島佳代さんの日記も、ユーモラスで実に楽しい。それがうれしくて、みんなの前で読み上げさせてもらった。

12月11日、「おーチャルメラ」の巻

しろいゆげ、赤いどんぶり、どんぶりの中のメン、しる、しなちく、わかめチャーシュー、のり、ラーメンの中の具が、私には光って見える——。ああ、あこがれのチャルメラ。メンはしこしこ。しるはうすめ。しなちくは味がよい。わかめはほどよいやわらかさ。チャーシューは厚め。のりはいその香り。

前から、寮の外で「♪パラリーラロパラリーラロ」窓から見えないけれど、とてもいい音。一度食べた！味わいたい！と思っていたのが、実現しました。フーフー。前から食べたくて、父におねがひしたことがありました。「よし、さがしておこう」

そして、「♪パラリーラロパラリーラロ」寮の外で音がしました。窓から見ると、チャルメラのやたいが止まっています。母が、「前から食べたくなって言ってたね。食べに行こか」みんな、さんせー。でも、寮の門の裏です。自転車とどばしました。その間、行ってしまったかとそわそわ。でもまに合って、おいしいラーメンが食べられました。私と母と並んで食べました。妹は背がとどかなくて、地面にべったりすわって食べました。そして、やたいのおじさんは、急いで車をとばし



のり、わかめ、チャーシュー、メン

¥450

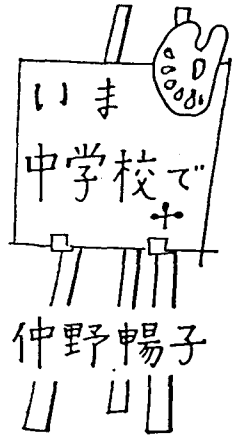
て行ってしまった。

日記に添えてあるふたつの絵は高島さんの心の高ぶりを伝えて余りある。

「ラーメン」ごときで大げさな……。」と思うことなかれ！

こうして、子ども達の日記を読んでいると、思い当たるフシがいくつもあ——遠く忘れかけた子ども時代の断片。子ども達が、ひとつ、またひとつと脱皮してゆくすばらしさに、私はもつともつと心洗われ続けよう。

(横浜市立下田小学校)



## ノースモーキング世代作り

(その二)

今ではもう、子どもたちの間では「禁煙おばさん」がトレードマークになり、一部の大人たちからは「肩で風切ってる」ようにも思われているけれど、私にしてみれば、無一物、屋台から始めてやっと小さなお店を持つとうとしている母さんの心境に似て、それなりのしんどさもあつたし、今だって風当たりは強い。それでもやってこられたのは、生徒たちが寄せてくれる興味と親愛の情のおかげだった。

校舎のあちこちに吸殻がみつかり、塀を乗り越えて一プクが珍しくなかった数年前、初対面のツッパリ君たちに声をかけてみて驚いたのが、彼等はなんの罪の意識も持っていないことだった。盛り場の地域だから、そこでカッコつけてくわえたばこの若い衆はいくらでもいる。だいたい先生が路上

や廊下を歩きながら吸ってて、自分たちが陰で「こっそり慎ましく」吸ってるのをとやかく言うことない……という感じ方だった。他の子たちも「べつに吸いたいんだつたら、本人の勝手じゃん」と機会があれば、自分も試してみたい構えだから、止めようとか、白い目で見ることあまりない。そこで彼等は見張りを立て、いざとなつたらあくまでシラを切り通すこともできた。

日本でも「たばこの害」が少しずつ紹介されるようにはなつたけれど、たばこ側の宣伝の大きさに比べれば微々たるものだし、直接子どもたちに働きかけてくれるものは何もない。むしろ外国たばこの宣伝のスマートさ、スカツとしたイメージが際立って目を惹き、国産も負けじと若者の集まるピーチ、スナック、歩行者天国などに、「軽いうい新製品はいかが?」とか無料サービスのキャンペーン・ガールを繰り出したりする。今すぐ吸わなくても高校生ともなれば、OLともなれば人並みに……とか、付き合いでとか、近い将来に手にするのが当たり前という世の中の感覚を膚で受け取めている彼等に現行犯でもないのにゴタゴタ説教など耳に入るわけがない。教材もまだ乏しかった。情報も貧しかった。けれども、子どもたちはみんな知りがついていた。自分が今吸っていなくても、家族のだれかが吸っている。子どもたちがこれほど嫌がつているのに、だれもそれを取り上げてくれなかった。「オ

レのぜん息がこんなにひどくても、オヤジは「たばこなんかカンケイない」ってやめてくれない。あんなものどこがいいんだ」と憤る子もいた。いい加減な脅しでなく、正確な知識がほしい。センセエ、本気でとめてんだネ。どうして？ そんなにワルイの？……これは規則だからと偉そうにどんなに厳しく叱りつけても効果はない。一緒に考え抜くしか……。

小学生向けのスライドだったけれど、ホームルームの時間を担任から貰って初めて見せた時、三年生がとも真剣に反応した。「どうしてこういう私たちの一番知りたいことを先生は今まで教えてくれなかったの」と責められた。一クラスが終わると次々と廊下でリクエストが集まる。「うちでもやってほしい」と担任に迫る生徒も出てくる。それをきちんと受け止めてくれた学年の同僚教師に、私は敬意と感謝を抱いている。スモーカーもいたし、すぐには自信がないというところで、私が出前授業をすることになった。

次の年がまた初めて巡り合うことになった三年生で、男女とも喫煙が日常化していた。「禁煙教育は一部の人のための非行対策ではない。人間全体のための健康教育を目指している。喫煙による本人の心身健康障害、他人への加害は基本的人權の重大な侵害である。健康的な環境を作り出していくことは人間の義務だ」という立場を学年全体に打ち出した。そういつても、すでに依存症の域に達した子どもたちがすぐに

止められるものではない。生活の中心を変え、いわば人生観を変える大事業なのだから。まさに「たばこ戦争」だった。

クラス、学年の友だち全体がそれぞれに励まし、協力し、時には怒りを爆発させるバックがあり、本人の努力と波長があつたとき、少しずつ功を奏する。文化祭にも小規模ながらたばこの展示ができた。同学年の同僚が二人、三人と自分で授業を始めてくれた。そして地域父母会で「どの学年にも禁煙教育をしてほしい」と強い要望が出たことがはずみとなって、職員会議で「これから育つ世代に喫煙防止教育を」ということで喫煙教師も合意に達した。

ここからすんなりいかないのがまた大人の世界で、「文部省からまだ指示がない。うちだけ突出しても……」などと日和り始める管理職、便乗して巻き返しを計る一部の喫煙者……。その間にもどんどん成長して、頼もしい「同志」に育ってくれるのが親愛なるわが生徒諸君だから、「センセイ、うちの担任どうかして！」（アセラナイで、わかってくれるまで一緒に勉強しよう）「きのうパチンコ屋のエアコン掃除してたけど、タールのひどさ……うちの父ちゃんに見せてやりたい」子どもに負けてついに禁煙したお父さんもいるし、「アイツラにやめさせられるかも……」と不安と期待の入り交じつたような担任の顔も。喫煙教師も入った「禁煙教育推進研究会」がやっとな研究授業にこぎつけたところだ。

## 今月の読書から



中野 敬子

◆河野美代子 著  
『さらば、悲しみの性』

高文研 価一、一〇〇円  
産婦人科医の診察室から』

大学病院の産婦人科病棟から、町の一病院に移った著者が、若い女性の人工中絶の多さにびびくりしたのがそもそもこの本の生まれの発端だった。中絶によって、心も身体も傷つく若い女性を何とかしなければという思いであふれている。

女性は—自分のからだを大切にせよ。自分のからだに責任をもて。  
男性は—女性のからだを大切にせよ。女性のからだに責任をもて。

これが著者の、性の関係をもつさいの大原則。

◆江幡玲子他・NHK・取材班著  
『少女たちの性』

日本放送出版協会 価九八〇円

NHKの「おはようジャーナル」で同題をテーマに三回シリーズを放送した結果をもとに、各回のゲストが執筆分担し、上梓された。スタッフの実感は一親の年代では考えられない程、少女たちの性意識は変化している」だった。都の調査によると、高校三年女子の14%がセックスを体験し、34%がキスを経験しているという。本書では、学校によってセックス体験20%以上と、5%前後の二極に分かれること、さらにこの現象を、人間関係、夢や希望、生活態度、学校生活などの要素が負の状況か、安定しているかによるとみている。まさに「生」が「性」を決めている。

◆宮子あずさ 著  
『あずさの性の話・生の話』

女と男が生きるには』  
新泉社 価一、六〇〇円

「性教育」の基礎は「男女平等」の理念であるから、従来の保健の時間におさまるような

ものではなく、男女共修の家庭科の時間にと著者は言う。「マスコミは、一方では興味本位なセックス記事によって、好奇心をあおり、その一方で「セックスの乱れ」を嘆いてみせ、根っこにある「処女崇拜」志向、「結婚」絶対視などはちっとも変わっていない」と。マスコミにあおられそうな中・高生に、たよりになる先輩からのメッセージ。

◆「人間と性」教育研究協議会

佐橋憲次・山本直英・村瀬幸浩 編集

『性教育総論と用語解説』

あゆみ出版 価二、五〇〇円

人間と性の教育 全5巻(1、月経と射精  
2、妊娠と中絶、避妊 3、性の不安と悩み  
4、恋愛と結婚、家族 5、人間の性と社会)の別巻である。これからの性教育を、個人の生と性において自立することを旨とし、時間を要する学習とトレーニングの過程を経て実現するとしている。日本に欠落していた人権としての性の尊重と、豊かで創造的な男女性関係の確立を求めようとしている。

用語解説の部は18の用語に定義・解説・留意点を載せている。



## 高校生のころ思っていたこと

### 今思うこと

宮子 あずさ

私は、高校を受験する時、学区の中でうちの中学校からはいちばん行く人の少ない群（当時都立校は学校群制度だったのだ）を選んで受験した。なぜなら私は中学時代いじめられっ子で、同じ学校の連中とはなるべく顔を合わせたくなかった。せっかく高校へ行って新しい環境の中でやり直すことができるなら、過去の自分を知っている人間がなるべく少ないほうがやりやすい。そう思ったからだ。三つある学校のうちそのどこにまわされても、通学にはゆうに一時間かかるだろう。けれどどんなに睡眠時間をけずってでも、私は新天地が欲しかった。そしてそんな私の切ない（？）思いを天は聞きとどけになったものかどうかは知らないけれど、とにかく私は遠い学校のそろう中でも最も遠く、同じ中学の出身者はおとなしい男の子がひとりしかいない、という恵まれた状況の中で高校生活のスタートを切ったのだった。

だが、こうして始まった私の高校生活も、早々に影がさし始めた。初めての小テストで点数の悪い生徒に対し「親の反省文をもらってくるよう」命ずる数学の教師がいると思えば、一年生のうちから業者のテストを導入し、偏差値をはじき出そうとする。たしかにここは都立校でも学園紛争が下火になって以降数少なくなってきた私服校のひとつであるし、オートバイの免許だって取れる。「生徒会」の活動はまあ好きにできるし、煙草であげられたって即クビになることはない。スカートの丈がどうの、天然パーマがどうのと極めて低次元なところに神経を使わされていた中学時代に比べれば、本当に自由だと思っただけ、その分もうちよつとはマシなことを考えるパワーを残しておくこともできた。しかし、教師たちが私たち生徒に自由を「許す」のも、結局のところ「この学校に入れる程度の学力をもつ学生であれば信頼できる」という、いわば偏差値主義に裏打ちされたものであって、別に生徒の人権とか人格といったものを尊重するためという訳でもなかった。彼らの言い方の裏を返せば「学力のない人間は何をするかわからないから規則でしばっておくべきだ」ということになる。つまりは、私の感じた「自由」も、親の反省文も、業者テストも……。全てが偏差値主義の結晶だったので

ある。

私の通ったこのO高校は、当時の学区分けに従えば、典型的なナンバー2高校であった。ナンバーワンの群の高校がまあ余裕のある秀才を集めているとするなら、我がO高校の属する群は、むりむりに勉強してなんとか秀才の域にたろうじて片足が乗っかる程度の学生が多かった。もちろん、この私も含めて、であるが……。そして悲しいかなナンバーワンに追いつき追いこせ、というがんばりずむがハバをきかせ、ナンバーワンの学校以上に尻をたたかれるのがナンバー2の宿命なのである。思えば、本当につまらない高校もあつたものだ。ちなみにこのO高校、我がうるわしき母校は、学区の改変でナンバーワンの群の学校とは別々の学区に入り、めでたく「学区ナンバーワン」となったそう。たまたま大学を中退して看護学校の入学試験を受けることになった私が、高校の調査書を頂戴にあがると、ひとりの教師が私にこう話しかけてきた。

「いや、学区が変わってから、入ってくる学生の質が上がつたよ。我々もやりがいがあるよ」  
「そうですか。良かったですね」

と私は答えた。本当に、心からそう思った。この40男のやりがいとその程度のものなら、多分この男は一生この程度の人間で終わるのだと思つたから。それ以上何も言わず、私は

O高校の中でただひとつ好きだつた正門に続く桜並木をオートバイで駆け抜けて帰つた。

ところで、私はどうとう、三年間のあいだ一回も業者主催のテストを学校では受けなかつた。要するにポイコット。まわりの人間たちの冷たい視線をあびながらも、私はやつぱり、自分のしたことがまちがいは思えなかつた。

大学受験をするからには、やはり偏差値というデータを得る必要はあるだろう。私だつて業者主催のテストを全く拒否している訳にはいかないことはわかつている。偏差値主義に反対しつつも偏差値を利用せざるを得ないジレンマ。その偏差値主義にのつて肥えている受験産業抜きに受験ができないことは火を見るより明らかだ。けれど、かといつて学校が堂々と受験産業を利用してしまつてはもう世も末ではないか。どうせ人間が生きていく上では、ベストよりもベターを選ばざるを得ないことが多い。でも不本意なことをたくさんしなきゃならない中にも、「どこで踏みとどまるか」というせめてもの良心が必要なのだ。私は考えていた。

けれど、ある中年の男性教師はこうした私のやり方に対して、こう言つてのけた。  
「おまえのやり方は、偽善でしかない。外で(業者のテストを)受けるなら、学校で受けたつて同じだろう。毒を食らわば皿までと言うじゃないか。きれいごとを言つてひとりでい





にもとめず過ぎすことにしています。それにしても、そんなような「日本だったらあり得ない光景」を小さい時から見慣れていたなら、どこかの日本人のおじさんのように、金髪美人に話しかけられ、見とれているうちに、ポケットのものの全部すりとりられてしまうなんていうドジはふまなくなるでしょうね。

さて、三人の息子共の下の方のお話、おチンチンだの、おならだの、どこの子も大好きなお話を、私もそんなに遠くない昔Ⅱ兄弟と一緒に笑って笑いころげていた日々を思い出しながら、ニタニタと聞いていたのですが、ある日、例によっておマセな（というより、何でもよく口に出す）次男が、でたら目歌を歌っているのに気づきました。「ナントカ、カントカバジヤイナ♪」というのです。「何、そのバジヤイナっていうのは」とききますと「お母さんのピーネスのこと、ピーネスはおチンチンなんだよ」といいます。ああもう、そういう単語も知っているのかと思つてさらにききますと、友人のアーサーのお医者さんに薬をとりに行く時「正確には診察してもらつて、処方箋をもらうのに」ついでにいつたらその待合室に、ピーネスとバジヤイナの絵がかいてある本があったのだそうです。その時は上の子も一緒に行つたので、三人でじっくりと見て来たようです。それでいろいろ何となく、性について（セックスという言葉はぜんぜん聞かれませ

んが）、フーン、こんなことして赤ちゃんが出来たりするか、とわかつたようです。

しかし、まだ六歳の方はピンときていなくて、ただひたすらお母さんのおチンチンがどうなっているか、見ーちゃつた、見ーちゃつたというわけで、自分で作詞作曲して鼻歌を歌っていたらしいのです。「そんなに大きな声でバジヤイナなんて言うものじゃないのよ」と私が言うまでもなく、こっただけで歌っているのだと知つて、一安心。ところが、上の息子はもう五年生ですので、もう少し具体的にピンときたいらしく「お母さん、ピーネスとバジヤイナはどういう風にくつつくの？」ときいてきました。こっちの学校では「性教育」はまだぜんぜんやってないし、友だち同士でもそんな話はないのだそうですが、半年程前に、日本の通信教育の理科のところ、おしべとめしべが出て来て、その時は父親がそのくつつき方とか教えたのですが、それ以来、何となく知りたがつているということはわかつていましたので、いいチャンスとさちんとぜんぶ本当のことを言つてあげようと思ひました。

ちょうどタイミングのいいことに、毎日新聞の家庭欄に「お父さんは何をやる人かな」という副題で、性教育授業の写真が載つていた（1/31付）のを切りとつてありましたので、それを見せました。パパとママのかわいらしい「合体」の写真

で、これはいいと思ったのです。息子は「うん、そういうのは知ってるんだけど、どういうふうにしてそうなるのさ。お父さんとお母さんも本当にそうやったの？」というのです。でも私もちょっとテレしましたが「そう、夜、お母さんがお父さんと一緒にベッドに寝る時あるでしょ。そういう時はお父さんが寄って来て、さわりたがるってわけ……云々」と言ってきました。

こういう時「父と母が」一つのベッド、ボクたち子供は別のところ、というアメリカ式生活は便利で、「ハハ、なるほど、そういうわけか」と納得したようです。ちょうど父親も一緒にいましたので、「お母さんだつて寄つて来るじゃないかあア」と反論もあり、ワイワイガヤガヤ。息子たち「わーきもちわるい。おシッコじゃないかそれじゃ。お父さんのおシッコが多いからぼくたち男ばっかりなんだ」ですと。

「イヤ、おシッコじゃないんだよ」と訂正はしたのですが、まあちゃんとわかっていると思いましたが、その後「おシッコだあーきつたねエッ」などと騒ぐのは放っておきました。その後、何も「事件」はありません。性に関して一まず落ち着いたのだと思つてます。

親の役目、性に関しては一応果たしたような気持ちに私もなっています。だけど、あーしんど。親業をちゃんとやろうと思つたらほんとに大変。どちら様もガンバラネバです。

☆Weの四月号にちょうど、七月号原稿募集で性についてでしたので我が家の様子を書いてみました。アーサーのお医者様のところにあった本がどんなものなのか、実際に見てないのですが、上の子によりますと、ピーネスとバジヤイナが、きれいに図解されていたのだそうです。が、何にしる、小児科の待合室に置いてあるのはいいことですよ。

小学校では相変らず性教育らしきものではありません。先日教会（プロテスタント）の集会のお知らせに七、八年生（中学生）の親を対象にした「性をどう教えるか」という話合いがあるというのを見ました。妊娠中絶をとり扱う診療所が爆破されたりで、マスコミも「性及び性教育」についてとり上げざるを得ない状況にあるのですが、まだまだ公の場での性教育などについて、大々的に語られることはありません。

しかし、私がこちらへ来た五年前よりかなり、表面下での話は進んでいるような気がします。

日本人のように無邪気(?)に学校において、男と女より、先生と生徒というとらえ方を優先させるやり方はとてもこちらの考え方にはなじまないのです、そんな所にも日本よりかえって性教育がやりにくい現状があるのかも知れません。



## 新年金法にみる優生思想

——女性障害者の視点から——

### 堤 愛子

この四月から年金法が大きく変わった。

障害年金に関していえば、主な改定点は、①障害福祉年金（二十歳前からの障害者が受給、一級三九、八〇〇円）の廃止、障害基礎年金（一級六二、五〇〇円）に統合、②扶養義務者の所得制限の撤廃、③子の加算（二人目までは一万五千円ずつ、三人目からは五千円ずつ）の新設等々である。一方、年金が上がるからという理由で福祉手当（月額一一、二五〇円、公的年金受給者は対象外）は廃止され、また施設利用者の費用徴収が強化されること等も、障害者の間では一年以上前から、不安めいた話題となっていた。しかし、私たち女性障害者にとって非常に重要な問題が潜んでいることは、ほんの数か月前まで、私の知る限り誰も気づかなかったのである。昨年十二月、私はふとした機会に毎日新聞の「子の加算は受給権取得後に妊娠・出産した子に対しては加算されない」

という年金解説記事を見、びっくり仰天した。私たちが障害基礎年金の受給権を取得するのは、今年の四月一日だ。とすると、仮に私が四月二日以降に妊娠・出産しても加算はされないことになる。あわてて厚生省に問い合わせると、その記事にまちがいはないという。さらに、男の障害者の世帯では子の加算がない場合これまでどおり妻（年金非受給者）に児童扶養手当が支給されるが、女の障害者の世帯（母子家庭・夫婦共障害者）では年金額がアップしたからという理由で、児童扶養手当も併給できなくなることもわかった。その結果、四月二日以降に妊娠・出産する女性障害者は、何人子供を産もうと加算も手当もなく、障害基礎年金のみしか受給できず、給付額としてもこれまで（障害福祉年金、福祉手当、児童扶養手当を併給）と比較して大幅にダウンする。特に障害母子家庭では月額二万円以上のダウンとなり、「これではまるで、今後女性障害者は子供を産むなど言っているのと同じじゃないか」と、暗澹たる気持ちになった。

母子保健法改悪案の中では、「母性手帳」配布等からなる「母性」強化が大きな問題となったが、この思想は健常者の女に「健康な子を産め」と強要する一方で、障害をもつ女たちを「母性たり得ない者」と規定し、「産まないこと」を強

要する。これを許してしまえば、私たちが「むかい風」(女性障害者の問題を考える会)発足当初から問題にしていた、施設・在宅の重度女性障害者の子宮摘出手術等は、より公然と強制力をもって行われるようになるだろう。幸い母子保健法改悪案の国会上程は、とりあえず阻止されたが、新年金法はそのような「母性」強化と優生思想を、経済的な側面からしっかりと支えていくものとなっている。このことを、新年金法実施直前まで見過ごしていたことが、国の広報のいい加減さがあつたとはいえ、口惜しくてならなかつた。

この問題を重点的に取り上げた四月十九日の「市民と政府の土曜協議会」(社会党仲介)には、「児童扶養手当の切り捨てを許さない連絡会」を中心に、京都・大阪の障害者も含め四〇名が参加、むかい風からも四名出席した。厚生省は、「年金額は受給権取得時の状況で決定するのが大原則。受給権取得後については年金では保障できない」(年金局)

「児童扶養手当は、もともと公的年金との併給はできない。これまで福祉年金は低額のため公的年金の例外として併給を認めていたが、今改定により拠出制年金との格差もなくなつたため、併給は不可能となつた」(児童家庭局)

「母子家庭等では、今後給付額が大幅ダウンになることは事前に気づいていた。しかし、これは年金局の問題なので意見は言わなかつた」(社会局更生課)

等、制度論に終始し、「タテ割り行政」ぶりを露わにした。私たちとしては、「今回の問題は各制度間のひずみとして生じたのだから、三者が共同で話し合い、対策を立てること」を強く要望、同時に全国十六団体(含賛同)による、障害基礎年金と児童扶養手当の併給を求める厚生大臣宛の要望書を提出した。

現在、この問題に関心を示す人々は、障害者や女たちを中心に確実に増えつつある。口コミと手づくりのビラ・パンフレットの呼びかけに対し、わずか四か月の間に全国から実に多くの反響があつた。ミニコミや機関誌にこの問題を掲載してくれたサークル・団体も多い。これら草の根運動の、予想以上の反響の大きさと風通しの良さに、私は驚くと同時にとても力づけられている。

五月には、次の厚生省交渉が予定されている。年金法が(児童扶養手当法も)すでに改悪されてしまつた現在、行政闘争としては確かに出足は遅かつたかもしれないが、「母性」強化、優生思想強化を許さない本質的な意味での運動は、むしろこれからだと思う。



## こんな教科書検定が

あつてよいのだろうか？

—87年度版中学社会公民的分野での経験から—

村田直文

どんな教科書を作るかには多様な考えがあり得ることで、  
 国定制度がおこなわれていない理由もそこにある。教科書作  
 り30余年の経験を通じて私が重視していることのひとつは、  
 子どもに親しまれ、人間と社会への関心をかきたて、学習意  
 欲をつのらせるような教材の選択と構成。学習が教科書の枠  
 内で完結するのではなく、その枠をこえて発展するような、そ  
 うした探究心を触発するような教材の提出。ところが今回の  
 検定では、特にそうした教材がねらいうちにされた。

力不足といわれればそれまでのことだが、どんな教材がど  
 んな理由で拒否されたかの一端を例示してみよう。

◇「自立と連帯」はWeの基本テーマだが、手塚治虫はその  
 「ジャングル大帝」で、「主人公のレオは未知の世界にひと  
 りで挑戦し、世の中の怖さ・素晴らしさを体験しながら、自  
 立の力を養う」という解説を書いている。この解説の引用と

幼いレオの勇姿のイラストは、原稿段階でも

子どもたちの共感を集めた。しかしこの教材は、

●特定出版物の宣伝にあたる、●漫画を引用

する必然性がない、という理由で不許可。もつともらしく

聞こえるが、他の教科書では長谷川町子やサトウ・サンペイ

が認められた例もある。裏の理由は、自立というテーマと映

像文化への偏見であろう。自立が必要なのは女性に限るらし

く、「男性の自立」という記述は、●理解困難・意味不明とい

う理由で不許可。チャップリンの「独裁者」で知られた「個

人の犯す殺人は犯罪であるのに、国家による大量の殺人は光

榮とされる」という名句は、●映画からの引用はどうも、と

難しくせがつき、古代ローマの哲学者（セネカ）のことばとし

てようやく許可されたという経過もある。

◇「核の冬」に関する教材は、「核の冬」という用語まで

ふくめて完封された。指導要領に関する文部省の「指導書」

には、「核兵器の異常な発達に伴って、ひとたび戦争が起こ

れば、それは人類を破滅させる危険があることを考えさせ」

という一節がある。84年夏NHK放映の「核戦争後の地球」

はそのための適切な教材で、国際世論の上でも評価された。

しかし、NHKから提供を受けたその映像とその番組の教材



化は、●いたずらに恐怖心を煽る、として不許可。核問題については従来から、●広島長崎の被災者数は不確定で被災実態の記述は不正確、●絵や写真の描写は残虐で情操教育上有害、●民間諸資料は未公認、●アメリカ政府資料は高度で不適切、●批判的記述は抑止均衡論による肯定的記述とのバランスをとって等々、幾多の制約を課せられてきた。それらを配慮した上での教材化であった。一部マスコミや一部国会論議でこの番組への批判がでたことは事実であるから、バランス上その要旨も教材化した。当初の検定意見を受け入れて、内閣原稿の書き直しもした。それでも、要するにダメ。現場で扱うのはかまわないが、教科書にのせるのは困る、とも言われた。一部オピニオンメーカーの黒い力が、調査官に重くのしかかっていることを感じさせられた。

◆吉野源三郎の名作「君たちはどう生きるか」から引用した「人間分子の関係、あみ目の法則」という教材は、このたび不許可となった。これは81年度版でも84年度版でも何の意見もなく検定に合格し、現行版で使用されているものをそのまま継続したものであるのに、●引用は権威ある古典からに限る、古典となるには数十年が必要で、数年前に没したばかりの人の作品は古典とはいえない、●社会的分業関係教材の著作者にはもつと立派な人もいる、というのが提示された理由。この作品は一九三七年春新潮社版以来五十年の歳月にた

え、近年は岩波文庫にも収録されているという文書による抗弁も通じなかった。一方では、一番ヶ瀬康子の「福祉、問われる原点」からの引用が認められているのだから、右の不許可理由は納得しにくい。

◆特に、表現の自由と教科書検定、戦力不保持と自衛隊等の問題で、「世論がわかれているとする記述は誤り」という検定意見は痛切だった。理由は、●最高裁が合憲との判断を示し、その裁判官がただひとりとして国民審査で罷免されていないではないか、というのである。社会保障制度の改善を求める日本医労協の写真も不許可。この写真には「健保10割給付の復活」というスローガンがうつっていたが、●国民を代表する国会議決に反対する一方的主張の掲載は不可、というのである。国会多数派の見解については、各所で記述を求められる。その上でなお、こうした問題の教材化についてなみなみならぬ配慮を求められるのである。教科書の内容を最終的に決めるものは、著作者の努力だけではない。

以上は、二百頁強の原稿に対し四百箇所以上、二日間十五時間にわたる条件指示に始まり、四カ月間にわたって項目によつては四回もの書き直しを命じられた内閣原稿審査の間に出てきた検定意見のうちのごく一部の例示である。教材の選択・構成の自由に関するこれらの制約は、民主教育の根幹にかかわるものである。（日本書籍版「中学社会」編著者）



発言

## あなたのまちの

# 婦人行動計画どうなってる？

若竹 キミイ

——昨年は「国連婦人の十年」の最終年。七月にはケニアのナイロビで最終年世界婦人会議が開かれ、「西暦二〇〇〇年に向けての婦人の地位向上のための将来戦略」が採択されました。

三多摩各市（26市5町村）でも婦人行動計画を策定した市、市民懇談会等からの提言を受けた市、現在審議中の市、六一年度に着手することを検討中の市等、私たちの身近な地域で婦人関係施策が見直された年でもありました。

そのためには、委員会に参加した人、意見を出した人、署名を集めた人、調査活動をした人、〃婦人のつどい〃を開いた人、学習した人、話し合った人など、市民としてのさまざまな活動がありました。その活動は、自分たちの実力を充分に出したという喜びもありましたし、女どうし言葉が通じあわないで悩んだり、行政の壁の厚さのため息をついたり、社

会通念とのたかいにむなしさを感じたり……などの一年でした。

この貴重な体験を交流しあい、三多摩各市に婦人行動計画がつくられ、それを〃わがまちの婦人の十年〃として年ごとに実行、充実させていけるような市民としての活動のしかたを話し合いまししょう！ 女としての、女ならではの知恵を集めて、今年に明るい展望を開きましよう！——

これは、二月十六日に私たちが都の立川社会教育会館とともに、市民活動交流のつどいを開いた時のよびかけ文です。今年には二回目の〃あなたのまちの婦人行動計画どうなってる？〃。一回目のテーマは「各市の取組みと悩み」、二回目は「女が行政に働きかけるとき」でした。立川社会教育会館は、市民活動を広域的にまた分野を超えて援助し活性化させるための〃市民活動サービスコーナー〃を持っており、その役どころを、婦人行動計画を地域が持ち、住民の側から婦人問題解決の力をつけるために、發揮してもらったというわけです。

参加者はパートⅠ 89名、パートⅡ 71名でした。パートⅠは





はじめてらしいにぎやかさ、パートⅡはテーマの大人っぽさを承知の顔ぶれでした。現在三多摩26市のうち、策定済み5市、策定のための提言等策定済みで、もうじき策定をみるばかりの市が4市、その一步手前ながら、審議中が7市です。

別格として、婦人行動計画を策定しないで、実質的な婦人問題解決のための施策を、具体的に実現していく意志決定をした市が1市あります。ここは昨年、全国に先がけて、市職員に男性の育児時間を獲得し話題をよびました。他の9市5町村は、表面的には白紙ですが、水面下の動きはさまざまで、まだ着手はしていないけれど、はっきりと策定の見通しを持っているところもあります。

今年も去年も、つどいの会場には、大きな白地図を貼り、策定済みは赤、策定済みはピンクというように、折紙の花をつけて、互いに励ましあう雰囲気です。今年のがまちの婦人行動計画状況報告は、八王子市、国立市、小金井市の3人でした。策定済みで、そろりと推進にかかっている小金井と、ただいま印刷中の国立、よろこびと緊張のスタート八王子。

それぞれ、長い経過、それなりの体質という行政、ここにいま生きる住民女性のカラーが、どのように「気がついたことをできるだけ」努力しての現状なのか、語り、問い、知恵を手渡し合いました。助言は二年とも中島通子さんです。

思えば四〇年前、男も女も等しく平和な世界を担う主権者、という世界に冠たる憲法を持ったのであったのに、はじめての参政権行使をした20才は、孫もいるまでに至ってなお、生活の実際は割を食ってばかりの女たちだらけなのか。国連婦人の年よりこのかた婦人論は、性別役割分業という根をつきとめ、問題を見つめる目をしっかりさせはした。しかし具体的に問題性をつきぬけ、解かれて生きるまでには、まだ手つかずのことが山程。

人の生き死にと直接かわって生活の哀歓を分かち合う根をおくのは居住地です。その行政に女の人権を拓く具体策を担う姿勢なしに、質を伴う男女平等はありません。しかし、市町村の行政を国や都道府県に従属的にとらえて生きていく感覚の人は多く、残念なことです。毎日出会う「女のなせ？」を、もともと住民の幸せのためにある行政の窓口へ素朴に持ちこむことが、実は時代を担う大人の責任を全うすることに、スツとつながっていきます。肩肘の張り方を気にしているうちに、夢からさめたような後退を嘆きたくないですから。

地域行政の全体を女の視点で見なおすことの他に、さまざまな段階の婦人行動計画に本当の意味で生命を与える道筋はないと考えています。



# Weになんでも言おう なんでも聞おう



◆武田さんの御本は、教育に深くかわられた方が、どのように考え、そこからどのように行動を変えられ、その中で考えつづけていかれたかをよくあらわしていらっしやると思いました。子どもの心について、おとなが子どもに向かうときの心について。わたしもわたくしの考えを考えていきたいと思



いました。わたしは子どもが好きです。

大きさ（小ささ？）も、表紙も、内容にびつたりですね。白い子狐や野ねずみが小さな手でもってきてもっとおい

（横浜・内山裕子）

◆今、武田さんの本を家事・雑用の余暇をフル回転して、楽しく読んでおります。「パラドックス」とても心に残り、二、三度読み返してみ、また考えさせられています。

◆「招くことをやめ、追うことをやめたいま、不思議にも、まったくさりげなく出会うことができた、この僥倖……」こんな気持ちで、Weに出会えたらどんなにいいだろうと空想しました。

「突然の変容……」の一節も、とても感動しました。一葉は、私の卒論の相手だったから……。武田さんの文、とても美しいですね。ことばのひびきがステキ！

◆「もしかしたらちいさな塾は詩のような教育の本ですね。何ともすばらしい。また羽生楨子さんの詩の連載。さすが！と思いました。羽生さんの詩に目をつけられるなんて、すごい。本ものの、詩ですものね。」

◆手許に届けていただいた五月号なんとうれい色でしょう。三月学期末来、へとへと頭の、やさしい風を送ってくれます。太い樹の先、先そのどこまでも広がっていく枝。こんな枝のように、初めて学級担任した中学一年生の四十四人の子、伸びていく先であってほしいと願って表紙をながめて

◆霞通信の御本届きました。本の

（横浜・羽生楨子）

（岐阜・橋本登志子）

◆五月号の表紙、思わず声をあげました。加藤さん、のりにつけている感じですね。私は、いままでの加藤さんのものの中で、いちばんよいように思いました。額に入れて飾りたいようです。

(東京・武田秀夫)

◆表紙がよかった。わんぱく夏まつり。写真やイラストがこんなに多いWe誌って、はじめてなのでは？ サマーヒルに行っている子の約30%が日本人っていうところ。やっぱり日本人って金持ちなのかなあ？ むこうにあって日本人でかたまってたってしかたないんじゃない？ 何のために行くのかなあ？ と考えつつ。でも、何かのために学校に行くと考える私の考えにも、疑問ありだなあ。

(名古屋・岡本のりこ)

◆村瀬学さんの『子ども—大人の勝手な思い込み』を二度読み返しました。「私が最初に何かおかしいなと感じたのは……、中年の仲間入りをするようになって……わ

かってきた」こう書ける人って好きなんです。この人の『理解おくれの本質』を書店でみつけ読んでいます。それと内山節という人の『自然と労働』に夢中になっていきます。きょう桐の花のつぼみが目につきました。

(名古屋・宮崎世津子)

◆村瀬さんの文章を読んで、子どもの心をつかもうなんて、大人になつたら不可能なのではないかと思いました。子どもの目の高さに立って話すこと、とよく言いますが、やはり大人になってしまった以上、心も子どもの高さになれないんじゃないかって思いました。

(名古屋・田中洋美)

◆わんぱく夏まつり、写真・イラスト・文、全部おもしろく読みました。保育園の父母の会で、二月にあまり成功したといえない(おもしろくできなかった)子どものおたのしみ会を實行したばかりです。こんなにしたら、ずっとおもしろいなあ、と感心して読みまし

た。(名古屋・羽田恵子)

◆四月号の「女子教育の夜明け」男装して「I am a girl」と板書した女の子。元氣印の女の元祖と見つけたら、と北叟笑んだのは私だけかしら？ M2のその頃から52年生まれの私の間にどれ程の時間が刻まれていったのか。「女だけえ、数Ⅲは要らんワナ」と言われた十数年前。そして今「女だから短大で良い」もう、正面に言葉が届ける気力も、どこへやら。「私、四年制の共学出ましたがアー」語尾もフラついてしまう程。

私は今、TVのアナウンサーの位置からCM含めて、どうしても女と男が対等に生き合おうという姿勢を見つけられずに、TV無し暮らしを始め一年以上経過。これは、我が子の育て様も考えてのことだが。絵本を読んであげることを子育ての要とし、仲間と共にお話し会もやっている。この絵本にも女と男の対等なる生き生き姿は少ない。日常の場面で私と連れ

合いの姿を見て育つ我が子は、「はん作ってもらえへんから困る」「なんやなちゃんなきべそしゅんちゃん」灰谷健次郎著)の件では、「お父さんが作つたらエエが」その通り！ 五月末に三歳の誕生日を迎える彼女のこの言葉、お見事！ 拍手喝采した我等。その弁に對し、我等は「そうだなアー。灰谷さん間違つてるな。どっちがごはんを作つてもエエナア。教えたげないけんわな」

男装してまで学ぼうとした少女の向学心より、そのままさせる社会状況へ一矢報いずにはおかぬ女の歴史。刷り込みの少ない三歳児が、見事なまでに、日々接する女の男の姿を通し、言葉を発する。既に、男装まではせずとも、学ぶ場にはある。さればこそ、何をどんな意図で知らせてあげるのが、問われる今だろう。ちよつぱり、女子教育の夜明けみたいな時代に生き合わせた、大人にとって。次号続きを鶴首候。(鳥取・前田亨子)

## 星空を窺う少年（承前）

武 田 秀 夫

「佐野の無礼は許せるが、佐野の無礼をお前が許すことは許せぬぞ」と、そのことばを自分の心に彫り付けるようにしてポケットの丸鑿をにぎりしめカフェ「ブラジル」のドアを押す片口安吉。彼がそのとき心に描いた幻——木の卓もろともに縫われる佐野の手の甲の幻を、激しく若い正義感の陽画とすれば、私の目には、痛苦の思いをとまなび、ひとりの少年の無残な手の甲の幻が浮かんできます、陰画のように。

やくざの刃物によって刺し貫かれながら、さらしをぐるぐるまきにしただけがまんしとおしたため、異様に歪み、固い節のようになつた少年の指の股。私は彼の在学中、その指の傷に気がつかなかつた。当時、私の目は、いったい何を見ていたのだったか。

「先生、ぼくの指がこんなになつているの、知らなかったでしょう」と少年が私の前にその手の指をひらいてみせてくれたのは、卒業してしばらくたったある日曜日、私の下宿の部屋においてでした。

「ぼくは先生の学校に来る前、暴力団××会の少年部員だったんで

すよ」とはじめて打ち明けて話してくれたその話は、私を打ちひしぐのに十分でした。細っそりとして小柄なその少年が、転校直後けんかをふっかけられてにらみあったとき、いきなりナイフをとりだして相手をだまらせたという話を私はうわさで聞いてほうと意外な感じがしたのをおぼえてはいましたが、そのドキッとするようなエピソードをのぞいてはほとんど目立たない生徒でした。多くの元氣のよい子どもたちの群れのむこうから私を見ている少年の目を、私は喧騒の中でふっと意識することがありましたが、いろいろなことにとりまぎれてすぐに注意を外らしてしまふ、そんなふうにして卒業をむかえてしまいました。ですから彼がその日、もう一人の友だちとたずねてきたとき、私は「やあＴか、よくきたな」と思わず声をあげたほりでした。

「新宿の町を会のバツジつけて歩いてみると、高校生なんかがみんな。ペコペコする、それが気持ちよかつたんですよね、ガキだったんですよね」

知らなかつたなあをバカみたいに連発する私をおもしろそうにみながら彼は、前の学校にいたとき会を抜けようと決心したこと、おとなの団員に刃物を指の股に突き立てられてようやく抜けることをみとめてもらったこと、警察はもちろん医者にもいかず、親にも知られないようにしてとうとう傷がなおるまでこらえてしまったこと、そうしたことを静かに話してくれました。

勤めてすぐに最初の給料でギターを買ったという友人のＳも、横でおだやかに笑っています。Ｓは「中学を出たばかりでおとなのかにはいってばくらなんか、ギターでもやりながらでなければ、つとまらないですよ」とそのときは言っていました、その後も別の

友人といっしょにギターをもつて遊びにきて、自分のつくった詞に自分でこんな曲をつけた、「こんどはフォーク・ロック調でいってみました」などと笑いながらうたってくれたりしましたが、私がある後転々と跡をくらすように引越しをくりかえし学校を移っていくなかで、いつのまにか足が遠のき、いまはどうしているのかわからないままになっています。

「朝の光の中で雀たちが水を浴びている」というようなことが彼の曲の中にあつたのを私はいま突然思い出しました。以前「水をのむ小鳥」という文章の中に私はなにげなく、「朝の光を浴びながら野の小鳥たちが、仲良くのどをそらして一つの水たまりから水をのむ」ということばを書きつけましたが、どうやらそれはS君に影響されたものだったようです。いまは音信不通となったS君がそういう形で私の裡に生きていたのかと、私は今日うれい発見をしました。

さて、一方のT君は、中学を卒業したあと湘南地方に住み込みの仕事を求め、荒々しいおとなたちの中で日々をすごしているということでした。

「自分にとっては仕事のあとや休みの日に、一緒に仕事をしているおとなたちから離れて喫茶店にいき、ただぼんやりするのがなにより楽しいです。おとなたちの話にはいっていくつもりはありません。——その店にはやさしいママさんがいるんですよ」

そんなことを低い声で語って帰っていった彼に、私はその後もう会えませんでした。彼がトラックの助手席のついでに事故に遭い即死したときいたのはそれからどれほどたってであったか、二十にはまだまだ届かない年齢だったことだけはたしかです。

ほとんど青いといつていいほど白く細っそりとした少年の顔に、ナイフで切ったようにしてあつた細い目と、その目にときたま走つた鋭い光、そして華奢なうしろ姿。暴力団の少年部員となり、それから抜けようとして自分の指の股を切り裂かれながら一人で耐え切つた寡黙なその少年、いまはこの世にいないその少年もまた、たしかに激しく若い正義感の持ち主であつた、たとえそれが陰画のように見えるとしても。今にして私はそう思います。

生徒たちの中に夢想し自分もそれに同伴しようとしたへ清潔な正義感」といったものの極致を「歌のわかれ」の片口安吉の姿にみていた私は、井上靖の詩集「北国」を手にしてから後は、いつかもうひとつ別種の新たなイメージでそれを思うようになりました。

懐中のナイフをにぎりしめ、復讐すべき仇敵を求めて星空を窺う少年。ナイフをにぎりしめたその手には、花のような傷が、聖なる痕のように刻印されている——。

梅ひらく

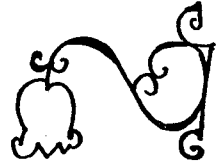
井上靖

北海道で不幸な姉は凍死したと言ふ。その報せが今宵私の所へやつて来た。私はドスをのんで灯のついた坂街を降りた。街衢は森閑として人影なく、どこか遠くから微かに饗宴のさざめきが花の如く匂つてゐた。復讐すべき仇敵は誰であらうか。私は冷たい地べたに坐つて星空を窺つた。私は十六の少年であつた。

(この項つづく)

#### 〈4〉「学制」発布と就学告諭

—嫁入りに有利と奨励—



明治五年八月、近代国家建設の緒についた明治政府が、最初の教育立法として発布したのが「学制」である。前年創設された文部省が新帰朝者たちの知識を得て策定した「学制」は、既に女子の大学教育まで進展していた先進西欧諸国の教育制度・内容を参考にしたものであったから、それまで無学文盲なるをよしとされて来た日本の女子に、はじめて公教育への道を開いたものであった。

「学制」発布に先立ち同年六月、着手順序を指示した「太政官指示」の中には「一般ノ女子男子ト均シク教育ヲ被ラシムヘキ事」との一項目があり、「人間ノ道男女ノ差アル事ナシ男子已ニ有学女子学ヲ事ナカル不可……故ニ小学ノ教ヲ敷キ従来女子不学ノ弊ヲ洗ヒ之ヲ学ハシムル事務テ男子ト並行セシメシテ期スハ小学ヲ興スニ就テ第一義トス」と解説された。また学制発布と同時に出された「被仰出書」の中でも

「自今以後一般の人民—華士族農工商及婦女子—必ず邑に不学の戸なく家に不学の人なからしめん事を期す」と、わざわざ「婦女子」の語を記して就学を奨励したのであった。

地方でも、このような文部省の意向を受けて、しばしば女兒の就学奨励をしたが、中でも山梨県就学告諭は傑作(?)である。従来の女兒は「今日の用にも立ざる遊芸」の稽古や子守奉公等による不学のため、嫁入り後は家政方法も知らずまた夫の職業の手伝も出来ず、ついには婚家を追い出されることにもなると批判した上で、「今日の形勢を以て觀れば五年十年の後には何様にか世の道は開け行ならん 其時に至らば婦を娶らんとする人は徒に顔貌遊芸に俊れたるをば覓めじ 必ず学校盛んの近傍に於て尋ねるならん 富める家の女なりとて物学びに疎ければ縁遠く……貧しき者の女なりとも教をうけて行ひ修らば必ず良き婿取するを得べし」と述べ、将来も身代は榮え、老後も幸福になると、大いに就学を奨励した。

しかしながら、当時の人々はまだ女子教育の重要さの認識を欠き、督学官が来ると「学校風が吹いて来た、逃げる」と逃げかくれたり、甚だしい場合は学校の焼打ちさえあって、女兒の就学率は明治中期になるまで極めて低かった。さらに文部省自身が、学制発布の数年後には、女子教育への熱意を失い、官公立系女子教育は衰退してしまつた。所詮、根の浅い「文明開化」の実態であつたと言えようか。



## 力をこみ踏み踏差別を

吉田和子

部落差別の中で頻繁に起きているのは結婚差別だろう。愛しあつた者同士の問題であるだけに問題化されることは少ないが、なんともやりきれない話が多い。

部落解放を信じて闘う実践家の知人が、最近二人の娘を結婚させた。彼は「結婚おめでとう」と言われると、複雑な気持ちになつてしまふと言う。彼の心情は、一般の父親がもつ淋しさではない。結婚までのいきさつに、影のようにつきまとつた差別、今なおつきない心配、それが祝福の言葉を複雑に受けとめさせる。しかし結婚のゴールを通過できた人はまだいい。解放への展望をもつた父親に育てられた娘さんだから、困難に立ち向うこともできた。途中で癒しがたい傷を負つてしまふ人、人生そのものに絶望して死に追いやられる人の数は知れない。相手を恨まないでほしいと書き遺し、自ら命を断つた青年もいる。結婚差別はむごく

悲しい。

以前親しかつた知人がある時こんな事を言つた。「おとうちゃんはおこちやけど、私は違う」。何でもない会話の中で、それを何度も強調して語る彼女の言葉に私はこたわつた。彼女も夫も高知の生まれと聞いている。なのにこつちの人としっかりと言う。かれらは結婚差別をはねのけて一緒にゐた。十数年生活を共にし、至つて夫婦仲のよい二人、時には大のろけを聞かされる。現に部落に住んでもいい。それでも自分だけは部落の生まれではないと言いたいらしい。「こころの人は違うでエー」とも言う。私は反論した。以来口をきかない彼女は、自分の言葉のおかしさを本当は知っているのだ。彼女もまた、差別を受けている。差別から身を守りたいと思う過剰防衛が、彼女と夫の間に悲しい溝を作らせる。しかし、彼女は夫を愛しているのだ。結婚差別の困難にも、一途さで損得勘定を忘れ貫いてきた。その純粹な人柄は評価されてもよい。そんな彼女を呪縛するのは、彼女の上にものかかる部落差別だ。ともあれ、結婚差別の現実の突破口を切り開く力は、彼女のように、余分な計算なしで飛びこんでいく、お人よしで善良な部類に入る人たちの一途さによるところが大きい。しかし、あと一步踏み出して、差別の呪縛を解き放つために揺ぎない価値観を持たねば、と私は思う。

(日本キリスト教団部落解放センター)

# 詩

## 鳥

古い古いどんぐりの木に  
いっぱいめじろの群れ  
お日さまが葉で光る  
そばのシーソーでひとり遊んでいる子に  
ねえめじろがいっぱいいいるよ 見てごらん  
といってみる  
子どもは寄ってきて 見あげて それから  
おーい みんな集まれ とり といった

## 羽 生 槇 子

## ソ連・チェルノブイリ原発事故

「ソ連で原発事故か」  
と新聞に最初に報道されたのは一九八六年四月二九日  
東欧に異常放射能が降りはじめ  
子どもに予防措置としてヨウ素剤をのませた国  
子どもと妊婦の外出をとめた国  
子どもと妊婦が新鮮な牛乳をのむのを禁じた国  
スウェーデンでは子どもを砂場などで遊ばせるなと警告した  
ソ連の日本大使館は モスクワ在住日本人家庭に



すべり台のあたりにいた子どもたちが  
一人残らず寄ってきた

緑色のとりをみんなで見あげた

いたいた

わたしも見たこともないめじろの大群

めじろたちは枝をわたり

たくさん話している

めじろと子どもたち

子どもたちとわたし

わたしたちと古い木 古い木とお日さま

わたしはなにげなさそうにそこをぬけだす

鳥と子どもたちと古い木を

ひととき

子どもたちに任せて

ソ連製牛乳をのまないよう指導連絡をして

スウェーデンから牛乳をとりよせた

では ソ連キエフに住む人はどうなる

キエフに住む大学教授は

「わたしは老齢だからいいが

子供や孫はキエフからほかの所へなんとかして出したい」

と言った

わたしは 広島原爆直後の

「広島に落ちたのは新型爆弾だそうなの」というのを

瀬戸内の海辺の台所の土間で聞いたときの

目の前が真っ暗になってしまったときの 衝撃と絶望感を

持ったまま生きている

それと同質の絶望感を

いま世界中のおとなたちが 世界中の子どもたちに向かって

持っていると強いている

砂場で遊ぶのが子どもだと

新鮮な牛乳をのむのが子どもだと知って言っている

そんなおそろしい「生」の思い知らせ方を

わたしたちの世代 つまりわたしが

いま子どもたちに向かってしている

ニュースは刻々伝えてくる



## がんばれ

### シングルマザー

酒井和子

赤かぶだより赤かぶだより

「私は一歳の女兒の母ですが、御相談があつて突然お手紙を差し上げました。……」

ぶ厚い封筒が速達で送られてきた。十枚余の便箋に、整った字で、切々と窮状が訴えられている。数日後「赤かぶ屋」に現れた彼女は、モヤモヤを手紙にはき出してスッキリしたのか明るい元気な表情だった。

二十代後半に入ったばかりの彼女の夫は、子どもが生まれた頃から定職につかず不在がち、その後家出をして全く音信不通になってしまったとの事。無職の彼女は途方にくれ、しばらくは友人からの借金でなんとか食いつないできたが、それも限界にきて、福祉事務所に生活保護の申請をした。ところが、母子家庭ではないから駄目と断られ、子どもを保育園に入れて働くようすすめられた。一般事務の経験しか持たず、幼な子を抱える彼女が働ける場所は、パートしかない。アパートの家賃だけで消えてなくなるパート収入では、この先の生活の見通しも立たない。福祉事務所と相談をくり返すうちに職業訓練校に入って技術を身につけてはどうかということになった。母子家庭には訓練手当が

支給されるので、児童扶養手当、児童育成手当等と合わせればなんとかやっていける。ところが、法律上離婚が成立していないため、この訓練校入所もあやうく流れそうだった。

直前に夫と連絡がとれ、話し合いの末、協議離婚となったのだが、その男、未だに定職もなく離婚に同意はしたものの、養育費は払えないという。同居していた時彼が買い集めた高価なオーディオセットなどは、生活費を捻出するために、彼女が既に売り払っていたが、靴と衣類だけは欲しいという。見るのも嫌で処分してしまったという彼女に、回収業者のところへ行つて取り返したいと、相当の執着。イタリア製の数万円もするという靴や服は手放したくないが、我が子には責任も未練も感じない様子。

「さっさと別れて良かったわよ。今度はおつといふ男と恋愛してね」と励ましたけれど、イザとなると世間の目や法律は、母子家庭にはまだまだ冷たい。福祉事務所や職安の職員と堂々とわたり合つて、自立の道を見つけようと肩ひじ張つて生きてる彼女に、赤かぶ屋でのおしゃべりのひとときは支えになっただろうか。

## 酸味ほどほど梅シソごはん

このページ、読者からの反応があつて嬉しいです。五月号で、おほめの言葉の後「―添加物についてもっと考慮してほしい」とのご意見がありました。私とて決して添加物無関心派ではありません。ソーセージは必ず無添加を選びますし、その他も出来るだけそうしています。ただ、紅しょうがなんぞはいくら淡色でもイロ少々使つてるのを承知の上で、おすしには添えたし、おべんとうにもたまにはちよいと。……といったところが誤解されるのかなア、考慮なき人と……。

さて、今回はこれからのくさりやすい時期にせつたいおすすめ**梅シソごはん**をご紹介します。そのまま食べても、おにぎりにしてもグツグツ。梅干しをどどつと入れるところがミソ。

米1カップに対して梅干し大きめ2個。種を取り除いて荒めにほぐし、米に加えてふつうに炒くだけ。別に青シソを好きだけせん切ります。葉、そのままきざんでは幅広すぎるのでたてに1、2本切つてからこまかくせん切りに。軸だつて切り捨てないで一緒にきざみます。水にさらしたりしません。シソ好きならたつぷりと。

これからおべんとう箱につめようかという時、きざんだ青シソを散らすように加えて木しやもじでまぜこみます。そしておべんとう箱に。今すぐ食べたいほどおいしいんですよ。シソざらいや小さい子には、いった白ゴマでもよく合います。酸味も塩味がほどよくて、すっぱーいなんてことはありません。

おかずは甘塩鮭のフライ、かぼちゃの煮つけ、きゅうりの塩もみ。といったところがいいでしょう。かぼちゃは昔のようにコトコトじっくり煮るのでなく、みりん・さとう・しょうゆ・水をやや濃いめに(時節柄)味つけして煮立て、そこへ適当に切つたかぼちゃを入れてワーツと煮ます。汁気がなくなりそうならポットのお湯を少しさしてとにかく中火以上の火でからつと煮上げるのがコツ。

きゅうりは塩もみといつてもやたらもんで今のきゅうり、不気味なあぶくが出てきて味も落ちます。そこで塩水にきざんだきゅうりを数分つけ、それからきゅつとしぼるか、塩でもんだものに水をひたひたに加えてまぜ、きゅつとしぼるかのいずれかで。

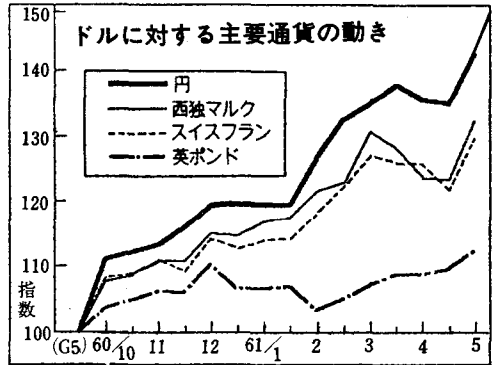
# \* 経済の目

## 生活サイドからみた経済

貿易摩擦④ 円高ドル安

\* 福島 澄香

ニューヨークに住む大西さんの六月号で日本の貿易黒字五〇〇億ドル（今年は七七八〇億ドル予想）ものお金、どこへ行っちゃうの？ 東京だけでなくニューヨークの金融市場でも円やドルの投機が盛ん、銀行や証券会社がもうけている……というお便りを読んだ。経済の目を読んでくれる私の生徒たちも安いTシャツに中国や韓国などの安い賃金や長時間で働く人の姿を見つげたり、親たちが厳しい労働条件で懸命に働いているのに住宅ローン、税金、教育費などに追われる暮らしを考え親への思いを深めながら、日本の黒字



(注) 昨年9月のG5直前を100とした場合の対ドルレートの指数

はどこへ行っちゃうの？ と大西さんと同じ疑問を強く持っている。

昨年九月、五カ国の蔵相・中央銀行総裁会議(G5)でドル高は正合意以来八カ月の短い間に、円はドルに対して50%も値上がりした(図参照)。円高は貿易の不均衡を是正するために政府や日銀が政策的に誘導したわけだが、そのデメリットは中小企業や国民生活にしわ寄せられているように思う。

今年の春、円高不況を口実に庶民の賃金はほとんど上がらなかつた。一方、政府や大企業は円高ドル安で大量の輸入原素材が値下り

した差益や原油安の莫大な利益があるのに商品やサービスの価格をなかなか下げようとはしない。電力・ガスの大企業がようやく値下げを決めたが、差益一兆三四二億円で還元額一兆八五九億円で、還元率70%の七割近く(七三〇〇億)が企業。私たちの家計には差益総額の二割(一世帯当たり月額一六一一円)しか還元されない。60年度の差益は還元されず、利益は証券会社へでも預けておくのだろうか。今年の三月中間決算の証券会社は史上空前の増収、四大証券は前年比40%~60%の利益増。最大の野村証券は今年九月決算では二七〇〇億円の利益を見込んでいる。小麦などの農畜産物、航空運賃、国際電話など政府決定料金も政府は企業に率先して円高差益分の値下げをせよ還元をしぶっている。輸入小麦は1ドル170円で年間二五〇億円の差益がでる計算だが、「食糧会計の赤字を埋める」という。それを知ったお菓子業界も政府が小麦・砂糖・バターを値下げすればビスケットなどの値下げをするといっている。

今年三月の輸入物価が昨年の同月より32%近く下がっているのに、国内卸売物価は1/10の1%しか下がらず、消費者物価への波及はさらに遅れている。

## CMの中の女と男

### ジャーナリズムの

### 世界に、もっと女性を

テレビCMについてはひとすみして、今回は新聞について少し触れてみたい。

昨年暮れ、大阪の女たちのグループ（月火水の会）が「新聞の社会面にあらわれた女たち」という冊子を出し、大きな反響を呼んだ。そこでは、「公器」を自称する新聞の記事表現において、いかに多くの女性差別や偏見がまかり通っているかが実証的に詳しく報告されている。このところ、わずかながら改善の方向が見られるとはいえ、全体としては未だ旧態依然といわざるをえない。

私達の会がこのほど発行した「コマーシャルの中の男女役割を問い直す会会報」第三号でも新聞広告について二、三の

例をあげて批判を試みたが、その中に次のようなものがある。

「あれ、だれに習ったの、と母広告で覚えたの、と娘」というヘッドコピーに続いて、「親

が教えもしないのに、新しい献立や服の保存法なんか知っている（後略）」というボディーコ

ピー。画面の両サイドにはお皿を持つ母と娘のイラスト。これがナント、「熱い情報 新聞広告」と銘打った日本新聞協会の

キャンペーン広告（84年9月）なのである。開いた口がふさがらない、とはこのことである。

新聞記者の九九%が男性であるという。記事表現のなかの女性差別や偏見に対して、具体的

な例をあげての批判を多様に展開していくと同時に、ジャーナ

リズムの世界で女性の記者やアナウンサーがより多く採用（フ

リーではなく正社員として）されるような運動を強く起こしていかねばならない。（吉田清彦）

### 内申と内心の

### 因果関係

梅雨時になると中坊たちの気分もなんとなくブルーになるらしい。中間テストも終われば元気でいてもいいじやろが、と思うのは大人の勝手だ。彼らに言わせれば「期末がある」。一年坊も三年坊も口をそろえて「期末」と口走るわけ。「お前なあ、期末より世紀末の方がこわいよ」と言えば、「世紀末にはヘンサチはなーいよ」と答えるの。明けてもくれても「ヘンサチ」と口走る。「グループもヘンサチで決めるの?」「うん。でも似かよった子たちがグループになるよ」。そんな中で、一つ二つ値が違ふことで子供同士がいがみ合ったり、大人同士がにらみあったりするわけさ。「だけどヘンサチよりこわいもんもあるよ。ナイシンってやつ」とこれまた雀の子のように口をそろえて言う。内申という言葉で教師の内心、という風に変えたらいいべ。と私は思うのよね。タイミングが悪くてドジった所を目撃されて×印が増えたり、教師の内心であるところの気分が△印が×印に移動しちゃったりさあ。私たちの方から自称オエライさんに私たちの内心をもっともと言ってやろうよね。そうでもしなきゃスツキリしないもん。かつたるい梅雨時に、かつたるそうにしている中坊に会うとき、彼らの内心と内申のバランスはどうなってるのかな? 内申の勝ちにはなってるのかよ。内申の勝ちにはなってるのかよ。本当は中坊じゃなくって回りの大人の方が我が子・我が塾の教え子の内申に内心びくついてんじやないの? 一番せこいのは大人なのさ。

（鈴木みち子）

## いろんな十代人

# 波

何処へ？

半田 たつ子



性について問われることは、いまの中・高校生でも、まだまだ強い抵抗があるのだろう。もつとカラッとした解答を予想していたのに、アンケートからは、暗いもやもやとしたものが立ちのぼってきた。性の情報源を「エロ本」と書く男女高校生、学校の女の先生の名をあげて「犯したい」と書く男子高校生。ローマ字で自分のおなかに赤ん坊がいると書き、大人をBADAと罵倒した女子高校生。クラスメートのカップルが、Aだろうと、Bだろうと、Cだろうと別にかまわない。別にやりたいならやれ、別に自分に関係ない……別に、別に、別にのオンパレード。

「別に、別に」に衝撃を受けた私に対して「別に、そんなに思わない」という人もいた。なぜ？ 私は、そのことも気になった。今の子どもたちに人間関係を作る能力が萎えているとは「いじめ」ともによく語られてきたけれど、子どもより先に、大人の「人間関係への関心」が希薄になっていのではないだろうか、と。

「中・高校生に男女共学でまともな性教育を」「いや、小学生からやらなければ」。こんな声は既に高い。すぐれた実践も、私たちの財産として蓄積されている。しかし、アンケートを繰るうちに、こ

の子たちと噛み合う性教育の難しさ思った。「まともな性教育」では、ずれるのだろうか、と思った。Weへの声、「清く、正しく、美しくはイヤ」にずうっとこだわってきて、どうも「誘惑」がほしい、というところらしいと、わかりかけてきた私は……。

アンケートをまどめながら編集部で話し合ったことを、座談会記事として巻末に置き、アンケートに答えてくれた子たちのプロフィールを出し、解答を細かく分析して一冊の本にしたいと願うほど、今回の調査は、小・中・高校生の現実から日本人やその文化を考えていく上での宝の山だった。

思春期の男の子三人を持つ中野さんの提案で、この号のテーマが立った。企画から今日まで、苦労とともに多くを学んだ中野さんの結論は「子どもたちに性の人権としてとらえさせたい」だそう。私もそう願う——では「人権」とは何なのだろうか？

自由には、やりたいことをやる自由と、やりたくないことをやらない自由とがあるという。とかく前者が強調されるけれど。

性を人権としてとらえるということは、少年の意識では「やりてえこと」をやることなのかもしれない。大人だけに許されていて、中・高校生はダメというのはおかしい。法律だって十六歳・十八歳の結婚を認めているではないか。妊娠するとヤバイが、避妊さえうまくやれば別に何をしようとする本人同士の自由だ。たとえ妊娠しても、責任とるならいいだろう。大人はギャンギャン言うな。あたたく見守り、やさしく接してやれ、それが人権尊重ということだ——男子高校生の多数派の言葉をつなぐところなる。

少女にとって「妊娠」は大問題だ。現実からの逃避、未知への憧れ・興味・期待で、うかうか入り込むとバカを見ることはわかって

いる。けれど「やりてえ」と言われて、「やりたくない」と拒絶できる力は、まだひ弱なのだ。

性病への恐れを書いた数の多さで、性教育をしている学校と直感するのでは、わびしすぎるではないか。性病の恐怖、人工妊娠中絶の危険を強調することによって、性行為に走ろうとする生徒にブレーキをかけるのは、おかしいではないか。

だいたい、「性教育」をする人自身の性の認識を問わなければならぬのだ。性―セックスとは、「男女・雌雄の別」が第一義であって性行為だけを意味してはいない。人工妊娠中絶のため、産婦人科医をおらず訪れる十代の子が、心身に傷を負う前に「正確な知識を！」は、緊急課題ではあるけれど、性教育は「予防法」ではない。すべての教育に言えることだけれど、特に性教育は、知識を授ける前に、心―情操といってもよい―が育っていなければ。武田秀夫さんが、霞国語教室で、一冊読むごとに、子どもたちのみずみずしい世界を深め、広げておられるような、そんな営みが必要なのだ。ふかふかに耕やされた土壌に種子をまかなければ、芽は出ない。

アンケートで、うらわびしくなった私は、無性にやわらかな美しい文学作品に触れたくなった。堀辰雄の「風立ちぬ」？ 福永武彦の「草の花」？ アンドレ・ジイドの「狭き門」？……それらを、郷愁のように求めた。そして四十年ぶりに開いたヘルマン・ヘッセの「車輪の下」。みるみるうちに私は潤い、この作品に胸ときめかせた少女の日にもどった。

豊かな天分と鋭い感受性をもったハンスは、周囲の期待に沿って生き、優秀な成績で神学校に入学する。やがて青年期のかぐわしい発酵が始まり、優等生の小宇宙からとび立とうとする。それは高雅

な修道院の寄宿生活からの脱落であり、深い傷を負って機械工になる。初めて仲間と大酒を飲んだ夜、羞恥と自責の濁った大波におそいかかられ、若い命を散らす。

この悲劇を包むのが、ヘッセの抒情と、風土描写の美しさだ。いまそこに甘くいざなわれながら、新しい発見があった。それは、少年の魂に無理解な学校と、俗物の大人たち。八十年前のこの物語がそっくりそのまま、今日に生きる、ということだ。

でも、八十年前のハンスは、今の世に生きているのだろうか。人生のありとあらゆる美しいものと、ありとあらゆる魅惑とが、エンマとともに近づき、エンマとともに意地悪く逃げてしまったというたえるハンスは、何処かに生きているのだろうか。

「日が沈んでも、彼は冷気を感じなかった。そして、次第に濃くなってゆく夕やみを、名づけようもないいろいろの秘密にみちたヴェールのように思った。というのも、彼には、自分があのハイルブロンに娘にほれこんでいることだけはわかっていたが、しかし自分の血のなかに目ざめてゆく男性というものの働きを、彼はただ、人を疲れさせるいらいらした異常な状態として、漠然と理解していたからである。

夕食のとき、彼は、自分が昔から住みなれた環境のただなかに、まったく変わってしまった人間としてすわっているのが、奇妙でならなかった。父親や、年とった女中や、食卓や、道具類、そして、部屋全体が、急に古いものに感じられた。自分がたっぴい長い旅から帰ってきたように、彼はおどろきと、いぶかしさと、愛着の感情で、すべてのものをながめるのだった。

うぶな少年少女は、逃げてしまったのだろうか。でも、何処へ？



## 臨教審第二次答申、 家庭科の位置づけは？

〔臨教審は、四月二十三日第二次答申を提出した。一月の「審議の概要その3」より整理され、生涯学習体系への移行を鮮明にし、いじめ問題に対する当面の対応も記している。しかし、「いじめの要因や背景としては、まず何よりも家庭の在り方に問題がある」とした上で、家庭の教育力の回復を強調し、「親となるための学習」として家庭科を位置づけているのは問題である。即ち、第二部、第二章、第2節家庭教育の活性化で、以下のように述べている。〕

家庭・学校・地域の三者が一体となって子どもを育てる視点に立ち、家庭が自らの役割や責任を自覚するとともに、家庭基盤の整備の推進などにより、家庭の教育力の回復を図る必要がある。このア、親となるための学習を充実する。この観点から家庭科等を見直す。イ、子どもの心をめぐるカウンセリングの普及を図る。その他、育児休業や新井戸端会議などを推進し、家庭が教育力を回

復するための援助を行い、家庭基盤の整備を図る。

ウ、生命や自然への畏敬の念をもつなどの情操を養い、心と体の健康を育むため、自然体験学習、都市と農村との交流を推進するほか、地域の教育力の活用と活性化を図る。

エ、家庭・学校・地域が、それぞれの役割をふまえつつ連携し、三者一体となって子どもを育てるための環境をつくる。この観点から、PTA活動の活性化、学校教育活動への地域住民参加の推進、学校給食の見直しなどを行う。

① 将来よき家庭人となるために必要な心、知識、技術が習得できるよう、年齢段階に応じた学習の内容や方法を検討する。すなわち、親およびこれから親となる者を対象とする学習の機会の充実を図る。学校教育においても、家庭科の位置付けや内容などを中心に、健康教育、徳育に関連する他の教科等との関連を含め見直す。(以下略)

〔第三章初等中等教育の改革〕の(2)教科等の内容・構成では、概括と、家庭科にかかわる箇所だけを紹介する。教課審が具体

化する前に、働きかけなければならない。〕

教科等の内容・構成の在り方について、上記(1)の基本方向に沿って見直すとともにその際、とくに児童・生徒の心身の発達段階や教育の継続性、教育内容の体系などを考慮する必要がある。

ア、小学校低学年においては、教科の総合化を進める。

イ、中等教育段階における「社会」科の教科構成の在り方、家庭科の内容と取扱いについて検討する。

ウ、健康教育を充実するため、道徳・特別活動および保健体育など関連する教科の内容、在り方を検討する。

### ①、②略

③ 「技術・家庭」、「家庭一般」については、技術や技能の習得の観点や、例えばよき家庭を築くための学習など家庭の教育力の活性化の観点から、その内容を見直すとともに、共通必修にわたる内容と生徒の興味・関心に応じ選択し得る内容とに区分して履修するなど、履修の方法等について検討する必要がある。(以下略)







〈We 湘南・三浦の会〉

◆「しばらく前、交通事故で頭を打ち、寝たきりの生活をしていました。そんな状態になることにより、働きたくとも働けないということの意味が、しみじみわかるようになってきました。」豊かな国」と言われるけれど、忙しくて、余裕がなくて、一旦働けなくなると生活に困ってしまうこともわかりました」

近況報告を兼ねた自己紹介からは始められました。

「私は高校の教師をしています。偏差値により細かく輪切りにされた底辺にある公立校に入ってくる生徒たちは、小中学校を通して、自信を持って何かやってきたという経験を持っていないようです。生徒はいつも受け身の

姿勢なので、自分が彼らとどうかかわっていったらよいのかと悩みます。他の多くの教師は「高校生とはこうあるべき」という形を前面に押し出し、くつ下の色まで統一しようとする状態なので、いつも異和感を感じています。けれども、そういう自分も、武田秀夫さんの書かれた「机の下の足」までは見えないでいます」

絵かき、公民館職員、主婦、教師、老人ホーム職員、そして編集者の半田さん……と、職業も年齢も多様な中で、それぞれがそれぞれの生き方を持っていることを会を開くたびに感じます。そして現実の中では、すっきり行動しているばかりでなく、うごめいている姿を素直に語ってくれるのが、この会の良さかもしれません。次回は、秋に開く予定です。

〈塚越敏雄〉  
〈We 埼玉の会〉

◆四月二十七日、私の家で開かれました読者会。高齢化社会をよくする女性の会のメンバーの奥村正恵さんや、久しぶりに御参加の川上正子さん（埼玉緑ヶ丘高）、半田たつ子さんを迎え大いに刺激を受けました。

奥村さんから羽田澄子監督の「痴呆性老人

の世界」の紹介があり、ドキュメンタリーの舞台になっている九州のある病院では、看護婦さんもお医者様も一緒になって老人の看護にあたるということ、男女の役割分業だけではなく、いろいろな職域で固定化され弊害を生んでいた分業が変わっていくというお話をきくのは心楽しいことでした。この映画は五月十七日から八週間岩波ホールで上映されるそうです。次回の読者会ではこれについても話合いますようにということになりました。

もう一つ心に深く残った話題は親子とりわけ、男女平等に深くかわわっている母親とその娘さんとの葛藤のことでした。半田さんのめぐみちゃんが、春家を出て二万八千円のアパートに独立したことがひき起した半田さん自身の葛藤から始まって、仲西香さんと娘さん、柴田栄子さんと娘さんの関係が事実を通して語られ、どんなに親が正しいと思うことを教えても子供はゼロの状態から試行錯誤を始めていくのだという話になりました。私は聞いていてそのことこそ、若さの特権だと思いました。

今回は、男女の自立の観点からお家を改築された錦さん宅で六月二十九日(日)午後一時半より。  
(中嶋里美)

〈We兵庫の会〉

◆五月三日、あいにくの雨降りでしたが、遠路島根から、連休の初日のこととて新幹線の切符もとれにくい所をお出で下さった中野さんたちを交えて二〇人の参加でした。今回初めて、ガラス張りの保育ルームを隣にもつ部屋を借り、長田高出身の方がベビーシッターのボランティアを引き受けて下さり、兵庫の会も、十三回にしていよいよ本格的になったという感じでした。

今回のテーマは「男女共学家庭科の内容をどうする！ パートⅡ―私はここをこんな風にやりたい―」ということで、レポーター四人の報告がありました。

環境問題、リサイクルなくらし方

小山和代  
炭谷英一

消費者問題

メディア教育を考える  
吉田清彦

母子保健、障害者と共に生きる  
河上紀子

四人ともレジメをバッチリ用意して下さり、なかなか密度の濃いものになりました。

トップバッターの小山さん、隣の保育ルームで、一段と声高になったお子さんの泣き声にもめげず、今まで自分がかかわった都市問題の研究グループで取組んだゴミ問題からく

らしを考え、有機農業の人たちから学んだ土から食べものを見ていくという視点で「合理的なくらし方」から「循環するくらし方」に目を向けていきたい、と。七月からの育休明け職場復帰が待たれます。

炭谷英一さんは、商業高校の商業の先生。消費者教育のネットワークは、教科の枠を越えた所で作り、行政にも働きかけたいとの熱意のあるご意見。「経験の三角錐」から、授業の中に直接的な経験や演劇的参加を入れていきたいと、子供向け消費者教育資料もいろいろ紹介して下さいました。

「CMの中の男女役割を考える会」で、メディアの問題を追い続けておられる吉田さん。テレビがもっている仕組みの中で、受容的な視聴態度から、主体的・批判的に受けとめる能力を―そこから発展して、手づくりのメディアを作る子供にまでと、メディア教育全般についてかなりきっちり整理されての報告に、何か開眼されたような思い。

最後に河上さん。自分の生育の歴史の中から、いろいろな問題をかかえ、一人一人違った生徒と「性」を考える授業を組んでいった。その中で教師という肩書を捨て、女の視点で話し合う中で、生徒のほんとうの声が聞

こえた、と迫力のある報告。

大阪の会からは岩瀬さん、浅井さんも参加。朝日新聞の連載「今こそ 家庭科」担当の学芸部の大原記者も見え、あつというまに時間がたちました。次回は七月二十七日(日) 一時から、神戸市立勤労会館。「男女共学家庭科の内容をどうする パートⅢ」で小中高共学の実践報告を行います。小学校は男の先生を予定しています。

島根の中野さんからはおはがきの一部。

「ほんとに出てきてよかったね」と言いながら帰途につきました。私共にとりまして、ちようど新緑の中を吹いてきた酸素いっぱい風にあたつたように新鮮でした。ありがとうございます。つい目の前の授業や体裁を整えた指導計画に気をとられがちなのに、一方であのような話し合いがあるのだと思ひ知りました。やれるところからやってみようと思ひます」

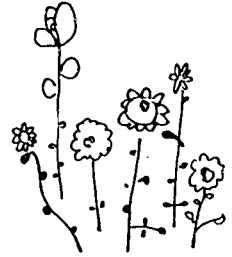
こんなにとらわれない物を見られる先生のいらつしやる島根の地にも、共学の輪が広がりますことを心から祈りたい気持ちです。

(入江一恵)

◆田無の会のご案内七月三日(日) am 10～12時  
中央公民館(連絡先・姫野 ☎0724-67-9234)

# 私から

## あなたに



◆三月末に、S 大家政学部から、本県の公立私立高等学校各校一名を対象に「高度情報化社会と家庭科教育」をテーマとしたアンケート調査がなされました。家庭科にコンピュータをという動きのある中で、S 大学の研究結果は本県下の高校の先生方に少なからず影響を及ぼすと考えられ、また、アンケートの趣旨がわかりにくかったので、次の点について質問状を出しました。

- (1)家庭科の目標をどうとらえているか
  - (2)その目標とコンピュータとどうかわるのか
  - (3)アンケートの結果をどのように使うのか
- 以下、回答をまとめると

(1)家政学、家庭経営、家庭経済の研究目的は「家族・個人が唯一絶対の価値である生命を維持・発展させ、人間価値を創造し、自己実現を図る」であるが、家庭科教育の目標はその目的を達成するために、教師それぞれ立場から設定されるべきものである

(2)高度情報化社会を迎えようとしている現在、家庭科教育も何らかの形でこうした変化に対応できる能力を養う必要がある。対応の仕方については授業方法、授業内容の二面より検討している。授業方法の面で現在の高等学校の施設・設備等考えた場合、とりあえずコンピュータ導入の検討ということになった

(3)結果は、家庭科教育学会、論文報告等を通して家庭科教育にフールドバックする

個人的な感想ですが、臨教審で「情報化・国際化社会に対応した教育を！」と検討がなされています。今回のアンケートをみても、家庭科教育へのコンピュータ導入の雰囲気盛りがあってきているように思います。人間らしく生きるために、今何が大切なのか、教科内容の検討の必要性を、ひしひしと感じます。(E・T)

◆明日菜は、保育園へ通い始めました。みんないっしょの服、袋、くつ、道具……の中で、あすなだけ違ったものを(先生に許された分だけですが……)持って行っています。男たちに「こいつ、おかしいな、男のものもつとるゾ！」と言われながら「でも、フラッシュユマン好きなんだもん！」と答えているようです。

(静岡・平井和子)

◆四月号・五月号おもしろく、今までになく楽に読めたような気がします。ところが六月号になってハタと読むスピードが落ちてしまいました。内容の重さがズーンと心にとたえ、活字さえも小さく、よそよそしく遠のいたような気がします。＼いじめ＼の「先生」は先生……、そして＼いじめ＼の「先生」は親。わが家で繰り返される兄妹げんかもネチネチといやらしいのは、親の私の声、口調そのままなのです。大人の身勝手さを改めて思い知らされます。

(敦賀・高嶋みどり)

◆私は一生を(キザなようですが)真理探究に生きようと思ひ定めたのですが、足許が崩壊し、このよいうな社会状況でも逃げないで、社会の中で私を確立しようとはせず結婚に一時しのぎを得ようとしたため、結果として莫大な負債をしいこみしました。社会との闘いを逃げたことよって、自己確立の道を塞いでしまったこと、夫から無言の圧力を被ったこと、子育

ての社会的閉塞状態……。

何から何まで問題があつて、どれもから足を引張られて、身動きできない状態でやってきました。

今割合心の楽な状態にいますが、自立をすぐ就職へと結びつけるに私は余りにも無力です。信頼する人間関係さえ充分に結んでいませんし、フェミニズムに徹して私の思いを実現していくとすることの知識と行動力に欠けます。宗教への問いも、現実を生きてこそ発せられると思いますが、就職へのエネルギーが、もうちょっと不足しています。全力集中が欠けているのです。これはどういうことか、この一年では是非見定めようと思つています。

夫に頼るに慣れつこになつてしまった自分、今が全てなのに、これから先があるというルーズな考え方、一つの集中力をもたないため、雑多な事柄をまとめる力に欠けている自分……。案ずるより産むが易し」という諺にあるように

思い切つた行動も必要なのでは、と思ひます。(藤沢・服部加江子)

◆朝日新聞「いまこそ家庭科―教室からの報告」の最終回に、私の働く高知大学付属養護学校の実践が載りました。東京から上丸洋一

様が取材に来て下さったのですが「We」の記事が目にとまつて……とお電話をいただいた時は(半田先生、ありがとうございます)と思わず心の中で叫びました。養護学校家庭科教育研究会のことを、早くにWeで紹介していただき、こうして輪がどんどん大きく、波が大きくなつていくのがわかります。

全国の養護学校の先生方が、今まで取り残されていた感じのさびしさ、むなしさをふきはらつて、どんなにか勇気づけられ、自信をもつて毎日の授業に取り組んで下さることと思ひます。

(高知・舟橋久子)  
◆四月号より「荆冠の中に輝く星」が新しく始まり、とてもうれしい

です。ずうっと続いてページがふえますように願つています。私は新しい中学校にかわり、一年生を全領域共学必修にしています。この子らと三か年つきあいたい願つています。(宝塚・政処紀子)

◆Weを読んでみて、日常の教育の中で忘れ去られたり、タブー視されがちなことを、改めて形(?)にして目の前に突きつけ続けてゆくのが家庭科なのだ、うまく書けませんと思ひました。自分でWeを購読していくつもりです。

(横浜・田中美帆―高校生)  
◆グループとともにの縫製工場いよいよ四月十七日スタート。その名称から、「働く女たちの家」「用瀬の歴史を拓く女たちの家」「共同体」――でも子どもたちの中には、女も男もいるしネ。その女たちつてどうしても入れないといけないの? すったもんだの揚句の果て、「共有舎」決定。

○八歳から三歳児、夏以降〇歳児も仲間入りの計七人の子だま

りと、十人の作業班と三人の保育班の女だまり(?)で、元氣印を旗幟鮮明に、いざ歩まん! はてさて、ちよいと内幕をば。敷物はどっかにないか? ホーレヨ!

机は? ソーラヨ!  
冷蔵庫は?  
ヨイシヨコラシヨ!  
便所は? YES or NO?  
作ろう! 穴掘りソーレ!  
などなどなど、こうして書けば

まあ、何ともいと易しき事の運びなれど、各々、子どもを寝かせてからの会合にて、夜は九時半を過ぎし頃より、午前様など數十回(?)。

準備にも、極力男たちを巻き込んで、便所の穴掘りでもしていけば、「これはボクが掘つたの」と愛着も湧き、ここから関わり合うことへと発展するから。スツテキな生きてる匂いのハーモニは、ここ「共有舎」の手作り便所から。(鳥取・前田享子)

# 十字路

■北海道 自殺志願、3人に1人（タイムス 4/25）

道高校倫理研が道内の十一高の男女千人と父母を対象にした意識調査によると、「自殺を考えたことがある」生徒は、男子の二四・二％に対し、女子は四四・四％が「ある」と答えているが、「子どもが自殺しようと考えたり自殺を図ったことがある」と思っている父母は、わずか八・七％で七〇・一％もの親が「ない」と断言し、残る二割は「分からない」と答えた。生徒が自殺を考えた理由は「生きていく目的が分からない」（二四・八％）が最も多く、次いで「世の中が嫌になって」「父母や兄弟との言い争い」「友達とうまくいかないので」など。親の知らない間に、高校生は自分なりの悩み、苦しみを自殺に結びつけて考えており、不安定な心の揺れが感じられる結果となった。

（廣瀬直子）

■宮城 寂しい均等法元年（河北新報4/11）  
「女性の能力や役割についての固定的な考え方を見なおそう」をテーマに十日から「婦人週間」がスタートした。雇用均等法施行直後

の「新時代」初の婦人週間だが、今回は例年実施されている講演会、婦人相談日などの行事はほとんどなく、行政側の一般的な広報活動だけ。「均等法元年」にふさわしい行事を期待していた人々には、拍子抜けの婦人週間となりそう。

（加藤弘子）

■千葉 新婦人計画スタート（朝日4/7）  
「国連婦人の十年」の後を受けて策定した新婦人計画では、社会参加の促進や労働条件の整備などを柱に、新機軸を打ち出した。今年度スタートする「カレッジ」は、これから社会参加を望む主婦らを対象にする初級と、既に職を持ち管理職などへの進出が期待される婦人を対象にした上級の二コースを設定。「社会人としての心がけ」「マナーなど社会のルール」から、職場の人間関係や企業のマネジメントといった高度のテーマまで、幅広い内容の講座を用意する。又「つばき」は、女性の社会参加が進んでいる先進国を視察、合わせて国際感覚を身につけてもらおう、との試み。今後の活躍が期待される各団体の中堅層を対象とし、今年度は九月ごろ、約二十人が

米国、カナダを十日間ほど訪問する予定。

（木田直子）

■東京 子育て、自信なし（毎日4/9）

親子に対話がなく、子どものしつけに自信のない家庭が多い——都が都内二十歳以上の男女三千人を対象に行なった面接調査で、こんな傾向が明らかになった。この中で「しつけや教育について自信があるか」との問いに、父親の四〇％、母親の五三％が「不安を感じている」と答え、「親子の対話のない家庭が増えている」については六七％、「最近では、子どもをしっかりとしつける家庭が少なくなった」では七五％がそれぞれ肯定。「しつけについて夫婦でよく話し合うか」については、「時々」も含めて八割以上が「話し合っている」。この傾向は特に小学・中学生を持つ家庭では高い比率になっている。

（福井晴江）

□「子どもの王国」オープン間近か（朝日5/3）

東久留米市の市民グループ、東久留米生活文化研究所が市内の山林（民有地）を借りて「プレパーク「子どもの王国」」の建設をすすめている。公園だと、事故の際の管理責任などを気にする行政当局が、利用方法を規則で縛りつけ、子どもたちが遊ばなくなっている

という現実があるため、自然の中で自由に遊べるプレーパークを造り、「子どもの自主的な遊びを通じて創造性を伸ばす」のがこの試みの狙い。ところが、借地の前提条件になっていた固定資産税の減免措置の賛否をめぐって市当局内部の意見調整がついていないが、「夏休み前にはオープンしたい」と市民グループ側は言っている。

(姫野順子)

□母親の不安の中(読売5/11)

都が行った「複合大気汚染に係る健康影響調査」によると、都内の大気中のNO<sub>2</sub>濃度の異なる中野、中央、青梅の三地区の学童を対象に、NO<sub>2</sub>による肺組織の損傷を反映するとされるヒドロキシプロリン値を、計四回にわたって測定した。その結果、中野、中央地区に比べNO<sub>2</sub>濃度の低い青梅地区では、値が明らかに低かった。専門医のなかには、「四日市ゼンソクの場合、ゼンソク患者が激増する前に、カゼをひきやすく、治りにくい、という状況があった。肺の奥深くが破壊されることを示す尿中のヒドロキシプロリン値の測定で、子どもたちの肺に与える影響が明らかにあった」と指摘する声もある。(三橋典子)

■新潟「女性行動計画」策定へ第一歩(新潟日報4/18)

市は、行動計画に市民の声を反映させようと「婦人問題解決のための行動計画を作る市民委員会」の初会合を開き、昨年九月の「第一回にいがた女性大会での決議(本誌85年12月号)を具体化していこうというもの。本年度は市民による調査、研究と素案作り、来年度は素案を受けて市長の諮問機関を設け、行政と市民による成案作り、という二段階方式を採用した。

(山口久子)

■静岡 高校入試で女子差別(ミニコミ誌「ゆに亭」4/1)

県の公立高校の女子の生徒数定員は、男子の8分の1程で、女子の合格ラインが男子よりかなり高くなっている。その理由について、県や高校は、トイレがない、更衣室がない、女子の大学進学率が悪いから、といっている。高校を大学予備校と考える県教委の石頭の中は、いぜんとして「女の子はいい嫁さん」という意識に支配されているようだ。

(平井和子)

■長野 お年寄り団結(信濃毎日4/28)

飯田市老人クラブ連合会(九千六百五十人)は、市内に百六十六ある各老人クラブごとにチームを編成、会員を登録して連絡網をつくり、各地区内の独り暮らしや寝たきりのお年

寄りを抱える家庭を週に二、三度は訪問し、世間話の相手や食事、着替え、洗濯などの手伝いをする。高齢化社会を迎え、不足がちなホームヘルパーやボランティア活動を補うためにお年寄り同士が持てる力を出し合い、同時に仲間づくりを進めようという県下でも珍しい試みである。

(三島久枝)

■愛知「あしたの学校」開講(毎日4/15)

名古屋市の平和公園周辺住民の会では「使い捨て、たれ流し文明への反省」と「我々は一部しか生きていけないのではないか」という危くから、「共に生きる」ということを大事にして、もつと違つた暮らし方を模索したいと、来年三月まで毎月一回「あしたの学校」という連続講座を開く。十四日の第一回は「現代人は命ときちんと付き合っていないのでは」という問題意識から「トリを殺して食べる」。住民の会のメンバーで高校教諭、滝川正子さんは「我々の中にはトリを殺せる人も殺せない人もいる。ただ、いけないのは生産者と消費者の間が見えなくなり過ぎていくことです」という。学校では理屈はさておき、手足、頭をフルに動かし実践を心がけ、草木染め、トウフづくり、包丁とき、キムチづくりなどの講座を開く予定。

(岡本のりこ)

# ア ン テ ナ



## ◆ ソ連、最悪の原発事故 ◆

北欧で強い放射能が検出され、ソ連で大規模な原子力発電所事故が起きたとみられていたが、ソ連は4月28日午後9時過ぎ、キエフの北約100キロにあるチェルノブイリ原子力発電所で事故が発生、被災者が出たと発表した。事故の発生日時、規模については言及していない。スウェーデンは、死の灰、セシウム137が検出されたと報道。これは原発事故最悪の原子炉炉心が完全に溶融したことを示している。

千葉市では5月3日深夜からの雨水1リットル中13,300ピコキュリーの放射性ヨウ素131の最高値を記録し、日本列島全域でも検出された。科学技術庁は「ただちに健康への影響はない」としながらも、その影響の大きさと早さに驚いている。気象庁へは心配する市民からの問い合わせが急増した。(朝日、読売、4・30～5・5)

## ◆ 国立大グループ分け正式決定 ◆

国立大学協会は5月7日、総会を開き、来春の国立大二次試験から新たに導入される「受験機会の複数化」の実施要領とそれに伴う全国95国立大のグループ分けを正式決定した。これにより受験生には、A(3月1日から)B(原則同5日、特例4日から)2回の試験を中心に各種二次募集など最大5回の受験機会が開かれる。また同一グループ内の2大学(学部)の出願、4月1日以降の2次募集では共通一次試験を受けていない受験生の挑戦も可能となる。出願を共通一次(1月24、25日)の前にし、従来の自己採点方式を廃止する。合格発表は3月20日までに行い、2つの大学・学部に合格した受験生は事後選択制を原則としている。(朝日、読売、5・8)

## ◆ 勉強専用パソコン開発へ ◆

小、中、高校でのコンピューター利用を推進するため、文部省と通産省が教育専用コンピューターの開発を始めることになった。財団法人コンピューター教育開発センターを6月に設立し、メーカー、ソフトウェア業者、教材出版社など約60社のほか教育工学の専門家や、学校、教育委員会、校長会の代表も加えて、子どもたちにとって使いやすいパソコンとは何かを討議し、来年末までに教育専用のパソコンの標準仕様を作る。文部、通産両省は今年度予算に学校教育専用コンピューター開発費として2億1千万円を計上。仮に義務教育に導入される場合は、社会科、数学、理科などで取り扱うことが検討されている。

(朝日、5・16)

## ◆ ハイテク汚染に警鐘 ◆

政府は5月20日、60年度の環境白書を発表した。白書は「ICやバイオテクノロジーなどの先端技術を中心とする技術革新は、新しい環境汚染をもたらす可能性がある」と警告している。「産業のコメ」と呼ばれるICは'84年までの過去5年間に4倍の急成長ぶり、しかし、その製造工程では、トリクロロエチレンなどの有機塩素系溶剤や多種類の有毒ガスが使われており、その大半は水質汚濁防止法や大気汚染防止法などで規制されていない。

白書は「ハイテク汚染」問題では未然防止を徹底することが基本だとしている。

(朝日、5・20)

## ◆ カネミ油症第二陣控訴審 ◆

1968年に起きた最大の食品公害、カネミ油症事件で、認定患者と遺族、計363人が国と北九州市、PCBを製造・販売した鐘淵化学工業、油の製造工程でPCBを混入



させたカネミ倉庫と同倉庫社長に対し、総額約84億2300万円の損害賠償を求めた全国統一民事第二陣訴訟の控訴審判決が、5月15日、福岡高裁で言い渡された。藁田速夫裁判長は、焦点の担当の行政責任について「ダーク油事件を担当した農林省出先機関担当官に厚生省への通報義務はない」などとして、北九州市の責任とともに否定、一審通り原告の訴えを棄却。鐘化の製造物責任についても認めず、カネミ倉庫の過失責任と加藤社長の代理監督者責任についてだけ原告の訴えを認め、総額18億3千万余円の支払いを命じた。同事件でこれまで6つの判決が言い渡されているが、鐘化の製造物責任が否定されたのは初めて。患者側には厳しい判決で、18年たったいまも抜本的救済策のない油症事件はさらに混乱しそうだ。(朝日、読売、5・15)

#### ◆ 女性研究者の地位向上へ ◆

女性研究者の地位向上を図るために、まずその実態調査をしてほしいと猿橋勝子・東邦大客員教授らが、5月19日、中曽根首相に要請書と1万4百人の署名を提出した。

女性研究者は、研究者全体の5〜7%とみられるが、国立大学の講師以上の中で女性の占める割合は3.3%格が上になるに従って少なくなり、猿橋さんらは「女性であることが、就職や昇任の大きな障害になっている」とみている。(朝日、5・20)

#### ◆ 「先生の前科を洗い」一都教委 ◆

前科を隠したまま都立高で教えていた先生が強盗容疑で捕まるという事件をきっかけに、東京都教育委員会は今春から、新採用の教師全員について、犯罪歴の有無を本籍地に照会し始めた。

今回の照会先の大半の自治体が応じたのに対し、近畿、中国地方からは拒否回答が相次いでいる。特に広島県の各市は「差別につながりやすい身元調査の一種であり、協力できない」と足並みをそろえる。これまでの回答で「欠格」として採用取り消し例はないという。(朝日、5・8)

#### ◆ 初任給でも男女差縮小 ◆

男女雇用機会均等法の影響で、今春の新入社員の初任給は大卒男子148,500円、同

女子145,300円となり、男女差が一挙に縮小した。(昨年の男女差は7000円)均等法施行を機に大学卒業者の初任給を是正した企業は20%、内訳は「男女一律に」が9%「職種別に」が11%。しかし男女差を是正していない企業も15%あった。高卒の場合、男子117,600円、女子117,000円。昨年の2100円差から600円に縮まった。労務行政研究所発表による。(読売、5・17)

#### ◆ 変わり始めた求人広告 ◆

均等法は第7条で「事業主は、労働者の募集及び採用について、女子に対して男子と均等な機会を与えるように努めなければならない」と明文化した。労働省は今年になって事業主に60数回の説明会を開き、婦人局と職業安定局は求人広告関係者300社に対して説明会を開いた。ポイントは女子であることを理由に女子を排除しないこと。新聞広告も朝日はこれまで「男子」「女子」「男女」の順を「男女」「女子」「男子」に変え、読売は職種別に「事務」「営業」「美容」などとした。募集に関するトラブルはいまのところ大阪で1件。「男女募集」をみて応募したら「女はいらない、募集は形式」と断られたケース。苦情の窓口には都道府県の婦人少年室長が当たる。

(朝日、4・29)

#### ◆ 在日外国人に“心の病”深刻 ◆

日本の国際化に伴い在日外国人が増えているが、慣れない生活やカルチャーショックから精神的障害を起こす人が目立っている。東大医学部付属病院神経科の秋山剛医師の研究によるもので、この種の観察が公表されるのは初めて。症例には、うつ病やアルコール中毒、家庭内暴力、……自殺未遂。(朝日、5・19)

#### ◆ 異色のノルウェー新内閣 ◆

4月下旬、ウィロック首相(当時)が国会に提出した緊急財政改革法案が否定されたため、5月2日、同首相率いる、保守・中道三党連立内閣が総辞職した。そして、9日ブルントラント首相の労働党内閣が発足した。首相は47歳の女性で、厚生、法務、環境など7つの閣僚ポストに女性を起用した。彼女たちの平均年齢は46歳。(読売、5・14)

〈表紙のことば—加藤由美子〉

何でも、広い丘いちめんにも  
まるで紫色のじゅうたんを敷き  
つめたように咲き乱れるそ  
うな…。本屋さんの店先でふ  
とめくった雑誌のグラビアに  
北海道のラベンダー畑。以来、  
この季節になると思うのです。  
今年こそ行ってみたい。

★Weバックナンバーのご案内★

- 〈vol.1〉(vol.2) (品切れ)  
 〈vol.3〉4月号 PTAって何  
 5月号 いまこそ、家庭科を問う  
 6月号 地域に生きる  
 7月号 少年・少女たち  
 8・9月号 “遊ぶ”ということ  
 10月号 支え合いつつ ひとり立つ  
 11月号 “病む”ということ  
 12月号 つきあいを考える  
 84年増 自分らしさをこそ  
 1月号 学び・教えるとは  
 2・3月号 “育てる”ということ  
 〈vol.4〉4月号 性をどう語る  
 5月号 結婚の風景  
 6月号 家族、その人間関係  
 7月号 離婚と子どもたち  
 8・9月号 法律と私たち  
 85年夏増 働き続けるために  
 10月号 いま、熟く女の時代  
 11月号 みのりの秋に  
 12月号 人間と土を生かす  
 85年冬増 自分らしさをこそⅡ  
 1月号 暮らしの文化を探る  
 2・3月号 水はいのちの泉  
 〈vol.5〉4月号 幼い日—大人は忘  
 れてしまった  
 5月号 子ども—大人の勝手な思い  
 込み  
 6月号 “いじめ”—その根っこには  
 何が？

◆娘の通う小学校でも、毎年5月には、性教育が組みこまれていきます。「赤ちゃん」のトンネルは、こどものときできないのかなと思いましたが。わたしもはやくおとなになって、赤ちゃんをいっばいうみたいです。スライドを見ての三年女子の感想です。男女のからだのちがいを、共に学んでいる娘たちの時代は、果たしてどんなアンケート結果が出るだろうかと不安と期待でいっばいだが……。 (青木)

◆人との関係づくりが下手になったと、このごろよく聞くのですが、今回のアンケートで、そのことを痛感しました。「妊娠したらしい時、大人とどうかかわるか」というのですが、ここの重大さを考えるより、単に「トラブリたくない」という姿勢が強いです。初め「普通に接して」という言葉のウラに「自分達で解決していくから」とよんだのは、非常に残念ながら間違いでした。 (中野)

◆今回の性に関するアンケート、自分だったらどう答えていただろう、いや、今の自分ならどう答えるだろう。でも、どんな回答をしたかでなく、どんな姿勢で回答したかが問われるのではと気付きました。 ♣Weを金色でしゅうした新色のハンカチができました。さわやかなピンク、ブルー、若草色、紫。一枚500円(送料当社負担)。夏はプレゼントにお使い下さい。 (馬場)

◆硬派の雑誌が苦しむのが現代です。「記録」は「民衆の側に立って現代を見つめよう」と創刊されてから七年。原稿料代わりに「記録」を受け取ってもらいやり方でも、赤字千二百万円。大幅減ページ、値下げで生き残る道を選んだということ。Weも他人事ではありません。五年目にして雑誌発行の常識数を割りまして。購読数の維持・拡大にご協力を切にお願いします。 ◆次号は「親—いま、学校に何が？」です。 (半田)

新しい家庭科—We

Vol. 5 No. 4 1986年6月20日発行  
 ¥530(年間購読料・増刊号含¥6700)  
 編集兼発行人/半田たつ子

発行所/(有)ウイ書房

〒182 東京都調布市西つつじヶ丘2-25-14  
 ☎03(326)1380 振替 東京6-59867  
 印刷所/(有)岩佐印刷所 〒112文京区春日1-6-7

新しい家庭科

昭和六十一年六月二十日発行  
昭和五十七年八月十三日三種郵便認可

第五巻 第四号

定価五三〇円(送料別)

旭川 京栄堂書店  
札幌 北東京堂書店  
小 矢野書店  
苫 熊谷書店  
小 伊野書店  
青 新生堂  
盛 神田書店  
花 成田本店  
水 東山堂・みみずく書房  
仙 誠山房  
川 松田書店  
 子どもの本の店  
 家の、八重洲書店、  
 萩書房、高山書店、千忠  
 書店  
古 高山書店  
泉 ホビット館  
秋 加賀屋書店  
山 八文字屋  
 高陽堂書店  
 ぼんべい  
尾 鈴木書店  
鶴 阿部久書店  
福 岩瀬書店  
 西沢書店  
郡 松田文  
会 松原  
保 木村書店  
藤 川島朝日堂  
前 アルプス社  
中 島村書店  
田 至誠堂書店  
宇 杉山書店  
水 ツルヤB.C  
浦 岩瀬書店、須原屋  
川 新井書店  
 ボックスサトウ  
越 日野屋書店  
東 比企文化社  
松 山屋  
和 楓書房  
狭 マスタ書店  
連 阿里書房  
大 ベンギン書房  
 ぬいかわどう  
 安藤芳文堂  
 みやかわ南口店  
 鴻文堂  
 みずほ書房  
 前原かっぱ  
 西武B.C.  
 はつらつ書房  
 元山書店  
 大和屋書店  
 岡田書店  
 多田屋  
 大杉書店、千里堂  
 原勝書店  
 ボックスさかさい  
 井上書店  
 千代田) ビビ、  
 日成堂、書肆アクセス、

三省堂本店、書泉グラン  
デ、東京堂、八重洲ブック  
センター(豊島)池袋書店、  
紀文堂書店(杉並)木風舎、  
新愛書店、プラサード書  
店、たつみ書房、(新宿)紀  
伊國屋書店、模索舎、風書  
房、伊野屋書店、ジョギ  
<渋谷>すべす・えいが  
さい<葛飾>宏精堂、中村  
書店、稲田書店、大和書店  
<世田谷>やまべ書店、江  
崎書店(北)愛京堂<板橋>  
裕弘堂、アスカ書店<江  
東>吉田書籍部、ブック  
ロード<品川>シグマウ  
ン、雄文堂<吉祥寺>ウ  
ニタ書房<三鷹>第九書房、  
たべもの村<武蔵野>いが  
らし書店<調布>みつほ書  
房、神代書店<小金井>か  
ごや書店、緑町大洋堂<府  
中>国府書店会、一三書  
房<国分寺>吉野書店<国  
立>増田書店富士見台<国  
立川>オリオン書房、泰  
明堂<小平>和中書店、明  
文堂書店<清瀬>マルオカ  
書店、飯田書店<町田>久  
美堂<八王子>小沢書店  
横 文教堂、有隣堂、  
浜 栄松堂、ともだち書店、  
有文堂  
川 北野書店、早川  
書店、大塚書店  
相 中村書房  
模 プックス上溝  
倉 たらば書房  
 大船書房  
相模大野 相模書房  
藤 東松堂  
厚 内田屋書房  
綾 藤美堂  
奏 榎本書店  
茅 ケ 文泉堂  
小 田 伊勢治書店  
 平井書店  
 サクラ書店  
 サンエ書房  
 太平洋堂  
 百町森書店、吉  
 見書店、田北  
 磐浜 北松書店  
 浜 谷島屋書店  
 沼 遠州堂、稲勝書店  
 多田屋  
 ランケイ社  
 清 戸田書店  
 一 文正堂書店  
 資栄堂書店  
 名 ウニタ書店、  
古 屋 ポランの広場、日比野泰

文堂、谷口正文館書店、  
白樺書房西店、白揚書店、  
竹中書店、中日書房、きた  
やま書店、丸山書店、岡崎  
書房、ナガオ正文堂  
江 南 青雲堂  
豊 文教堂書店  
岡 耕文堂  
尾 崎 鈴彦書店  
張 旭 カマクラ文庫  
瀬 活人堂  
愛 三浦書店  
知 日進書房  
郡 酒井日進堂  
谷 文光堂書店  
阜 柴山書店、万松堂  
新 英進堂  
長 覚張書店  
上 春陽館  
杉 稲豊書店  
尾 山 清明堂書店  
山 友信堂  
高 清文堂、イソップ屋  
岡 笠原書店  
谷 新光堂書店  
本 平安堂  
野 英文堂  
田 英文書局  
野 井 桐星書店  
中 信 津 づつのみやセー  
濃 ルスセンター、北国書林  
金 七、ひまわり書店、  
福 じっぶじっぶ、品川書店、  
勝本書店  
敦 賀 海光堂  
三 理 海老山書店  
大 重 別所書店  
 紀伊國屋書店、  
 ユーバー書店、樋口書籍、  
 米原十六堂、藤川書店、学  
 の友、西坂書店、呼文堂、  
 もり、富士原文信堂、飯田  
 集英館、川口文堂堂、坂口  
 書店、北村書店  
東 大 本のりや、栗林書房  
阪 泉 かつらぎ  
中 昌文堂、豊文堂  
高 槻 コーベックス  
 西武  
吹 田 アーネ江坂本店  
池 田 春江  
堺 ワールド、西村書店  
清 城 三教堂  
方 立川書店  
和 斎藤書店  
都 松香堂書店、オデッ  
サ書房、中島書院、山城書店  
宇 治 大久保京都書院  
 井田書店  
長 京 恵文社神足店  
岡 岡 亀岡書房  
舞 舞鶴堂

和 山 宇治書院、紀勢堂書  
歌 田、有馬書店  
山 多 多孫系書店  
田 辺 流泉書房、ヒカリ書  
神 戸 日進堂、文進堂書店、アイ  
 書院、幾久書局  
西 宮 イカコス書房  
 塚新西武B.C  
尼 崎 宣文堂書房  
姫 路 浅野丸善  
 浅野八代書店  
明 石 学友書房  
豊 岡 ひさや書店  
岡 弘栄堂  
米 子 今井MC本店  
鳥 取 富士書店  
出 武田書店  
松 雲 大前園山書店  
広 島 やまびこ書店、  
 いづみ書店、紀伊國屋書店  
竹 草間書店  
福 原 岡田書店  
観 音 寺 タカハシ書店  
鏡 高松岡書店  
松 松岡書店  
島 高みやたけ書店  
 英雄堂徳野書店  
 bruckスエミール  
土 佐田 依光書店  
北 九州 北九州書店、白石書店、  
 黒崎ひとりわB.C  
福 岡 金文堂、積文館、金  
 通堂  
二 日 丸山スコレレ店  
直 方 みやはら書店  
牟 吉善堂  
筑 後 吉田書店  
大 川 山口書店  
粕 屋 尾崎堂書店  
庄 まつら書店  
佐 津 金華堂  
長 崎 好文堂、童話館  
世 保 紅屋書店、金明堂  
熊 本 教育文化用品KK、  
 三章文庫  
延 岡 池田書店  
大 志 布志 開書堂、今村書店  
志 志 スズキ書店  
鹿 児 加世田書店  
島 協 大学生協

読者の皆様へ 上記の取り扱い店以外の全国各地の書店でも、本読は書店購入ができます。  
お近くの書店でお求めの際は、「地方小出版流通センター」経由でご指定のうえ、ご注文下さい。